

スルニ至ルヘシ蓋幼童ノ中心タル至虛至冲ニシテ外物ノ爲ニ感染セラル、一極メテ鋭敏ナレハナリ
 一教員タル者ノ品行ナ尙クシ學識ヲ廣メ經驗ヲ積ムヘキハ亦其職業ニ對シテ盡スヘキノ務ト謂フヘシ蓋
 シ品行ナ尙クスルハ其職業ノ品位貴クスル所以ニシテ學識ヲ廣メ經驗ヲ積ムハ其職業ノ光澤ヲ増ス所
 以ナリ

○小學校教員俸給旅費及諸給與等ニ關スル規則

明治三十三年九月十四日
 奈良縣令第五十號

市町村立小學校教員俸給旅費及諸給與等ニ關スル規則左ノ通相定ム

市町村立小學校教員俸給旅費及諸給與等ニ關スル規則
 第一條 教員ノ俸給ハ左表ニ依リ支給ス

職名	本 科		專 科		准教員
	上	下	上	下	
級一	上七十五圓	下六十五圓	上四十圓	下三十五圓	上二十圓
級二	六十圓	五十五圓	三十圓	二十七圓	十六圓
級三	五十圓	四十五圓	二十四圓	二十圓	十三圓
級四	四十圓	三十五圓	二十圓	十八圓	十一圓
級五	三十圓	二十七圓	十六圓	十四圓	九圓
級六	二十四圓	二十二圓	十三圓	十二圓	八圓
級七	二十圓	十八圓	十一圓	十圓	八圓
級八	十六圓	十四圓	九圓	八圓	六圓
級九	十三圓	十二圓	八圓	八圓	六圓
級十	十一圓	十圓	八圓	八圓	六圓

第二條 本科正教員ニシテ一級上俸ヲ受ケ特ニ功勞アルモノハ月俸百圓迄増俸スルコトアルヘシ

第三條 專科正教員ノ俸給ハ其教授時數ニ應ジ等級相當ノ俸給額ヲ減給スルコトアルヘシ

第四條 教員ノ俸給ハ其意ニ反シテ之ヲ減スルコトヲ得ス

第五條 專科正教員ニシテ他ノ小學校ノ專科正教員ヲ兼ヌル者ニハ關係學校ノ經費ヨリ其俸給ヲ分割シテ給スルコトヲ得

第六條 休職者ニハ俸給ヲ支給セス但特別ノ事由アルモノハ市町村、町村學校組合、又ハ區ノ同意ヲ得テ其一部若ハ全部ヲ支給スルコトアルヘシ

第七條 教員中在職ノ儘小學校教員講習科ニ入學スル者ニハ前條ノ規定ヲ準用ス

第八條 教員ニシテ陸軍給與令又ハ海軍々人俸給令ニ依リ俸給ヲ受クル者ニハ其間俸給ヲ支給セス但其額本職ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其不足額ヲ支給ス

第九條 新任、復職、増俸又ハ減俸ハ發令ノ翌日ヨリ支給ス

第十條 新任、復職又ハ轉任ノ命ヲ受ケ未タ就職ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタルトキハ其俸給ヲ支給セス

第十一條 月俸ハ毎月二十一日支給ス但當日休日ナルトキハ順次繰下ク

第十二條 職務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ノ外疾病其他私事ノ故障ニ因リ出勤セサルモノ、月俸ハ正教員ハ欠勤日數三十日迄ハ全額三十一日以後六十日間ハ三分ノ一准教員ハ欠勤日數三十日迄ハ全額ヲ支給シ其他ハ支給セス

第十三條 教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當月分ノ俸給ハ日割ヲ以テ給スヘシ

- 一 懲戒ニ因リ免職、處セラレタルトキ
- 二 免許狀被奪又ハ免許狀ノ失効ニ依リ教員ノ職ヲ失ヒタルトキ

第十四條 教員死亡シタルトキハ其在職中ト休職中トニ拘ハラズ在職最終ノ俸給月額三ヶ月分ヲ其遺族ニ給スヘシ

第十五條 前數條ニ掲クルモノ、外給料支給ニ係ル方法ハ判任官俸給令及文官俸給支給細則ヲ準用ス

准	教員	貳	錢	參	錢	八	錢	六	拾	錢	貳	拾	錢		
	正	教員	參	錢	四	錢	拾	貳	錢	七	拾	錢	參	拾	錢

第十七條 旅費支給方法ハ内國旅費支給規則ヲ準用ス

第十八條 教員ニシテ一週三十時ヲ超エ教授ヲ擔任スルモノニハ手當ヲ給ス

第十九條 學校長又ハ教員ニシテ特ニ勤勞アル者ニハ慰勞金ヲ給スルヲ得

第二十條 郡市長ハ前二條ニ該當ノ者アルトキハ事由ヲ具シ管理者ノ意見書ヲ添へ上申スヘシ

第二十一條 教員ニシテ宿直スルモノニハ賄料ヲ給スヘシ

第二十二條 學校長又ハ教員ニシテ職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルモノニハ療治料ヲ給スヘシ

第二十三條 教員ニハ土地ノ情況ニ依リ住宅料ヲ給スヘシ

第二十四條 教員ニハ筆墨料又ハ現品ヲ支給スルコトヲ得

第二十五條 第二十一條乃至第二十四條ニ依リ支給スル金額若ハ分量ハ管理者ニ於テ之ヲ決定スヘシ

第二十六條 前數條ノ外市町村ニ於テ給與ノ必要アルトキハ管理者ヨリ知事ノ認可ヲ受クヘシ

附則

第二十七條 本則ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

第二十八條 本則施行ノ際新ニ俸給ノ辭令ヲ交付セサル者ハ現ニ受クル所ノ金額ヲ支給スルモノトス

第二十九條 明治三十三年(三月)奈良縣令第十一號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

○代用教員俸給旅費及諸給與規則

代用教員俸給旅費及諸給與等ニ關スル規則左ノ通り相定ム

代用教員俸給旅費及諸給與等ニ關スル規則

第一條 代用教員ハ日給拾五錢以上五拾錢以下月俸五圓以上貳拾圓以下トス

第二條 日給ハ勤務ノ日數ニ應シテ月末ニ支給シ月俸ハ毎月貳拾壹日支給ス

但支給ノ當日休日ナルトキハ順次繰下ク

第三條 日給ハ日曜日其他一般ノ休日ハ之ヲ支給ス

但休日ノ前日出勤セス尙引續キ出勤セサルモノ、休日ハ日給ヲ支給セス

第四條 明治三十三年(九月)奈良縣令第五十號市町村立小學校教員俸給旅費及諸給與等ニ關スル規則第八條第十四條ヲ除キ准教員ニ關スル規定ハ之ヲ本則ニ準用ス

附則

第五條 本則ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

○市町村立小學校校長教員職務及服務細則

明治三十三年八月廿一日 奈良縣訓令甲第六十一號

第一條 學校長ハ左ノ事務ヲ執行スヘシ

一 市町村長ト協議ノ上學級ノ編制ヲ定ムル事

二 教員ノ勤務及事務分掌ヲ定ムル事

- 三 教授細目ヲ定ムル事
 - 四 教案ヲ檢閲スル事
 - 五 教員ノ勤惰成績ヲ監シ監督官廳ニ申報スル事
 - 六 學業證書ヲ授與スル事
 - 七 祝日 儀式ヲ舉行スル事
 - 八 前各項ノ外必要ノ事項
- 第二條 學校長ハ左記ノ書類ヲ整理スヘシ
- 一 小學校ニ關スル法律命令及諸規則
 - 二 職員出勤簿
 - 三 教員ノ進退履歷ニ關スル書類
 - 四 兒童ノ就學退學及出席缺席等ニ關スル書類
 - 五 學籍簿
 - 六 卒業生名簿
 - 七 學校沿革史
 - 八 前各項ノ外必要ノ書類
- 第三條 學校長缺員ノキハ首席教員學校長ノ職務ヲ行フヘシ
- 第四條 正教員ハ左ノ事務ヲ執行スヘシ
- 一 兒童ノ教育ヲ擔任スル事
 - 二 分掌事務ヲ處辨スル事
 - 三 教案ヲ作ル事

- 四 兒童ノ出席欠席ヲ調査シ學校長ニ報告スル事
- 五 受持教室ヲ整理スル事
- 六 受持兒童ノ家庭訪問ヲ爲シ通知簿ヲ整理スル事
- 七 學校長ノ承認ヲ經テ准教員ノ教授ヲ指揮シ及補助ノ事項ヲ定ムル事
- 第五條 准教員ハ正教員ノ指揮ヲ受ケテ教授ヲ擔任シ又ハ正教員ノ教授ヲ補助スヘシ
- 分掌事務又ハ學校長指示ノ事務アルトキハ此ニ從事スヘシ
- 第六條 學校長教員ハ始業時限二十分前迄ニ出勤スヘシ
- 第七條 學校長及教員出勤スルトキハ出勤簿ニ捺印スヘシ
- 第八條 學校長及教員缺勤セントスルキハ出勤時限三十分前學校ニ届出ツヘシ疾病ノ爲メ缺勤七日ニ及ブトキハ醫按書ヲ添ヘ届出ツヘシ
- 届出後十五日ヲ過クル毎ニ醫按書ヲ差出スヘシ
- 缺勤三十日ヲ超ユルモノアルトキハ其旨監督官廳ニ報告スヘシ
- 第九條 學校長及教員父母ノ病氣又ハ慕參等ノ爲メ旅行セントスルトキハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ
- 事急劇ニ出テ許可ノ指令ヲ俟ツノ違ナキ者ハ其旨市町村長ニ届出出發スルコトヲ得
- 第十條 學校長ハ毎月末教員勤怠表ヲ調製シ管理者ヲ經テ監督官廳ニ差出スヘシ
- 第十一條 學校長及教員ハ成ルヘク宿直ヲナスヘシ但校地内ニ教員ノ住居スルモノアルトキハ此限リニアラス
- 第十二條 學校長及教員ハ小學校又ハ近隣ニ於テ火災其他非常ノ事變アルトキハ直ニ昇校シ相當ノ保護ヲナスヘシ
- 第十三條 學校長轉任休職退職免職ノ命ヲ受ケタルトキハ速ニ所擔ノ事務ヲ後任者又ハ代理者ニ引繼クヘ

事務引繼ハ目錄演說書ヲ以テスヘシ

事務引繼了ノ上ハ市町村長ヲ經テ監督官廳ニ其旨届出ツヘシ(三十二年十二月十四日縣訓令甲第八十五號ヲ以テ追加)

第十四條 教員轉任休職退職免職ノ命ヲ受ルトキハ速カニ書面ヲ以テ所管事務ノ頗末ヲ學校長ニ報告スヘシ

第十五條 學校長及教員病氣ノ爲メ休職ヲ命セラレタルトキハ以後三週間毎ニ主治醫ノ診斷書ヲ添ヘ其病狀ヲ郡市長ニ報告スヘシ(明治三十五年九月十二日縣訓令甲第五十四號ヲ以テ追加)

第十六條 學校長及教員ハ住所ヲ監督官廳ニ届出ツヘシ
住居移轉シタルトキハ五日以内ニ届出ツヘシ

學校長及教員ノ住居ニハ在勤校職氏名ヲ記シタル表札ヲ門戸ニ掲クヘシ

附 則

第十七條 本則ハ明治三十三年九月一日ヨリ施行ス
第十八條 明治二十五年(三月)奈良縣訓令甲第七號ハ廢止ス

○教員ヲシテ授業料ヲ取扱ハシムヘカラサル件

明治二十八年六月廿八日
奈良縣訓令第二十三號

郡 役 所

町村ノ收入ヲ受領スルハ收入役ノ職務ナルコトハ町村制第七十一條ノ規定スル所ナリ然ルニ近頃小學校教員又ハ保母ヲシテ児童ノ授業料又ハ保育料ヲ徵收セシムル向々有之趣右ハ教育上弊害尠ナカラサルノミナラス法律ニ違背シ不都合ニ候條小學校教員保母ヲシテ授業料保育料ヲ徵收セシムヘカラス

○小學校教員私宅教授及贈遺受領者ニ關スル取締方

明治二十八年四月二十七日
文部大臣訓令
東京府

小學校教員私宅ニ於テ教授時間外ニ其生徒ヲ教授スルトキハ生徒心身ノ發達ヲ害スルノミナラス徒ラニ教授ノ標準ヲ高シ生徒管理上偏愛ノ嫌疑ヲ受クルニ至リ且教授ノ準備ヲ妨クルコト尠カラサルヘシ又教員小使等ニ於テ生徒若ハ父兄ノ贈遺ヲ受クルカ如キハ是亦生徒間ノ感情ヲ害シ一般就學ノ妨ト爲ル等教育上弊害尠カラス候條特ニ公立小學校ニ在テハ注意ヲ加ヘ嚴重ノ取締ヲ爲スヘシ
小學校教員私宅教授及生徒贈遺ノ件ニ關シ別記ノ通東京府へ訓令相成候條自然費(府)(縣)(校)ニ於テ右様ノ儀有之候ハ、同ク御取締相成度命ニ依リ此段及御通候也

各地方長官(東京府ヲ除ク)兩高等師範學校長

普通學務局長

○學校職員及郡區書記戶長國庫費支辨ニ係ル旅費支給方

明治三十年十月七日
內務省訓令第二十號

學校職員及市町村吏員等國庫ノ用務ヲ以テ旅行セシムルトキ學校職員ハ明治三十年勅令第三百二十三號內國旅費規則ニ依リ其委任待遇ヲ受クル者ハ三等旅費判任待遇ヲ受クルモノハ四等旅費市町村吏員等ハ明治三十年內務省令第二十七號ニ據リ甲號表ノ旅費ヲ支給スヘシ
但本訓令ハ明治三十年十月ヨリ施行ス

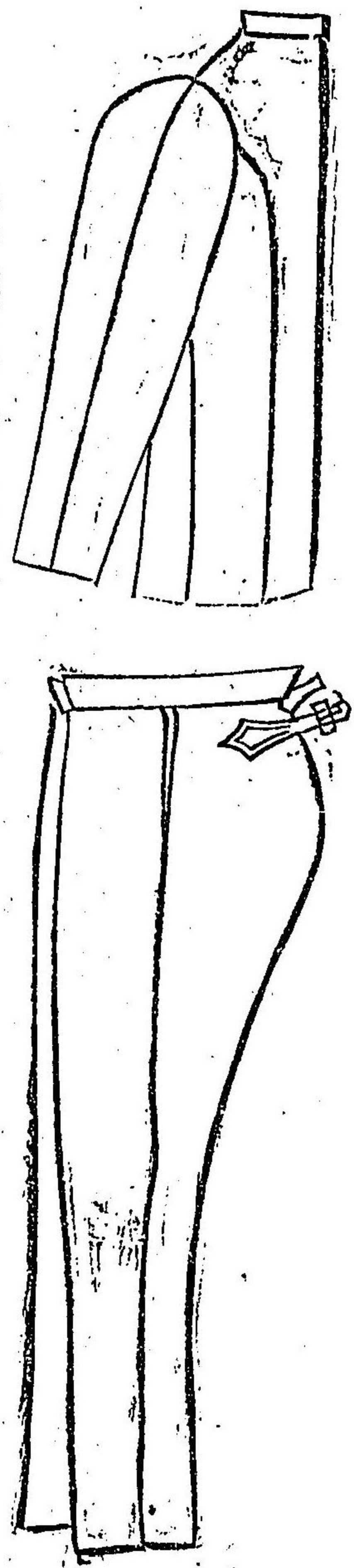
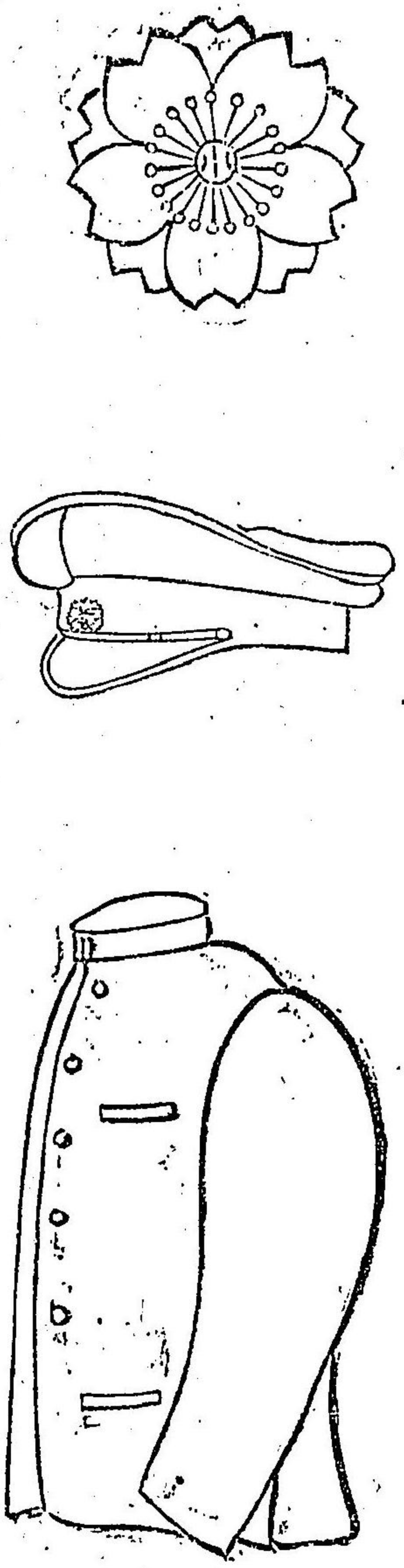
○小學校男教員職服制定ノ件

明治三十三年九月廿五日
奈良縣訓令甲第六十六號

郡 役 所
市 役 所

明治廿八年(七月)奈良縣訓令第二十七號市町村立小學校男教員職服左ノ通改定ス
但本令ニ依リ直ニ着用シ難キモノハ新調ノ時ヲ待テ之ニ依ルコトヲ得又新任ノモノ就職後六ヶ月間ハ之ヲ着用セサルモ妨ケナシ

袴	衣上		帽	
	地質	製	地質	鈕卸製
上衣ニ同シ	黒又ハ紺色ニシテ地質ハ適宜	小形五圓一行ニシテ其色地質ニ全シ	黒又ハ紺ノ羅紗	徑凡ソ一寸金色ニシテ形圖ノ如シ
圖ノ如シ	脊廣堅襟前角ノ卸止ニシテ前面ノ右ニ一個左ニ二個ノ物入ヲ附ス	圖ノ如シ	革表裏適宜	黒革留卸金色
上衣ニ全シ	暑中ハ白色ノモノヲ用ウルヲ得	備考	備考	暑中ハ白色ノ日履ヲ用ウルコトヲ得



○府縣立町村立學校長及教員任用ノ際本人ノ管轄廳等ニ照會方

明治十六年六月一日
文部省號外達

府縣

○小學校教員俸給義務超過等ノ場合指揮申請方

明治三十年七月廿四日
奈良縣訓令甲第四四號

學校職員タラシメントスル者ノ經歷等ハ之ヲ詳查スヘキコト勿論ノ儀ニ付府縣立町村立學校長教員任用ノ際ハ豫メ本人ノ管轄廳又ハ奉職ノ官廳若クハ學校等ニ就キ詳細照會ヲ遂クヘシ此旨相達候事

明治三十年(三月)奈良縣令第二十號小學校長及教員任用解職其他進退ニ關スル細則第一條第三ニ依リ町村又ハ町村學校組合及其區ノ同意ヲ求ムルトキ若クハ町村長ノ意見ヲ徵スル場合ニ於テハ豫メ其金額及事由ヲ詳具シ當廳ノ指揮ヲ請フヘシ(明治三十三年八月縣令第四十五號ヲ以テ進退ニ關スル規程改正)

(參照)
三第二四一九號ノ二奈良縣通牒 (明治三十五年八月廿七日)
小學校令施行規則第二百二十二條第一號ニ依リ小學校教員ノ休職ヲ命セラレタル者ハ其事故ノ止ミタルト同時ニ速ニ復任セシムヘキ等ニ候處往々故シク短期ニ至ラシムルコト有之右ハ休職ノ趣旨ニ相戻リ候儀ニ有之特ニ師範學校又ハ小學校教員講習科卒業生ノ義務年限未了ノ者ニシテ自然滿期退職セシムルカ如キハ不都合ノ儀ニ付嚴重御監督將來取締上十分御注意可相成

三第二〇九九號奈良縣通牒 (明治三十二年五月二日)
市町村立小學校訓導中小學校長ヲ兼任セシムルトキハ左記俸給ノ例ニ準據シ申請可相成

左記

一 尋常小學校	十二圓以上
一 學級	十四圓以上
二 學級	十六圓以上
三 學級	廿圓以上
四 學級	廿五圓以上
五 學級	三十圓以上
六 學級	三十五圓以上
七 學級	四十圓以上
八 學級	四十五圓以上
九 學級	五十圓以上
十 學級	五十五圓以上
一 尋常高等併置小學校	十六圓以上
一 學級	十八圓以上
二 學級	二十圓以上
三 學級	廿五圓以上
四 學級	三十圓以上
五 學級	三十五圓以上
六 學級	四十圓以上
七 學級	四十五圓以上
八 學級	五十圓以上
九 學級	五十五圓以上
十 學級	六十圓以上
一 高等小學校	十八圓以上
一 學級	二十圓以上
二 學級	廿五圓以上
三 學級	三十圓以上
四 學級	三十五圓以上
五 學級	四十圓以上
六 學級	四十五圓以上
七 學級	五十圓以上
八 學級	五十五圓以上
九 學級	六十圓以上
十 學級	六十圓以上

(明治三十四年三月廿二日三五五六號ヲ以テ通牒)

(同上)

秘第一二〇號通牒 (明治三十一年十二月八日)
近來本縣奉職中ノ教員ニシテ私ニ他府縣ニ對シ教員檢定出願スル者有之義ニ相聞エ候處右ハ甚不都合ニ付豫メ當廳ノ認可ヲ經サルモノハ相當處分可相成密ニ候條心得違ノ者無之樣監督上御注意可相成

◎教員資格

○小學校教員檢定等ニ關スル細則

明治卅三年八月卅一日
奈良縣令第四十六號

第一條 檢定ヲ受ケントスル者ハ第一號書式ノ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ町村役場郡市役所ヲ經テ當廳ニ差出

スヘシ

一 履歷書(第二號書式)

一 學業證書、教員免許狀ノ寫

前項ノ寫ハ市町村役場ニ於テ本紙ト照合ヲ要ス

一 本人ノ戶籍抄本

一 体格、體質、神經系、皮膚、視官、聽官、言語其他ニ關スル醫師ノ身體檢查書(第三號書式)

市町村長ハ本人ノ身分ニ就キ小學校令施行規則第四百條ニ抵觸ノ有無ヲ調査シ且平素ノ品行ニ關シ意見ヲ附スルヲ要ス

他管内ヨリ直ニ出願セントスルモノハ身分品行ニ關スル市區町村長ノ證明書ヲ添ヘ當廳ニ差出スルヲ得

第二條 (明治三十五年十月十七日縣令第五十三號ヲ以テ削除)

第二條 檢定ヲ受ケントスル者ハ願書ト共ニ左記ノ檢定手数料ヲ收ムヘシ但本縣師範學校教員講習科修了

生及本縣高等女學校補習科給費卒業生ハ檢定手数料ヲ免除ス

一 本科正教員 金五拾錢

一 專科正教員及准教員 金參拾錢

本科正教員專科正教員又ハ准教員ノ檢定ヲ全時ニ出願スルモノハ各別ノ願書ヲ要セス檢定手数料ハ金五拾錢トス

本條ノ手数料ハ郡市役所又ハ當廳ニ收受シタル後ハ何等ノ事由アルモ還付セス

第三條 試驗檢定ハ毎年四月、十月ニ之ヲ行フ其期日場所及出願期限ハ其都度告示ス

但時宜ニ依リ本文ノ期月ヲ變更シ又ハ臨時施行スルヲアルヘシ

師範學校教員講習科修了生ニ對スル試驗檢定ハ講習修了ノ際之ヲ行フ

第四條 小學校本科正教員又ハ准教員ノ試験ニ合格セサルモ尋常小學校本科正教員又ハ准教員ノ試験科目ニ合格シタルモノハ其免許狀ヲ授與スルヲ得

第五條 小學校令施行規則第百八條第百九條第百十一條及第百十二條但書科目ノ省署志望ノ者ハ其旨願書ニ記載スルヲ要ス

第六條 試験檢定執行ニ關スル細則ハ檢定委員長之ヲ定メ認可ヲ受クヘシ

第七條 檢定合格者ニハ郡市役所ヲ經テ免許狀ヲ下附ス但事宜ニ依リ直ニ本人ニ下附スルヲアルヘシ

第八條 府縣免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スルハ手數料トシテ金五拾錢ヲ納ムヘシ府縣免許狀ヲ有スルモノ族籍氏名ヲ變更シタルトキハ免許狀ヲ添ヘ其旨届出ヲ要ス其届書ニハ本人ノ戶籍抄本ヲ添付シ町村役場郡市役所ヲ經テ差出スヘシ

前項ノ免許狀ニハ其事由ヲ裏書シテ之ヲ下附ス

第九條 免許狀ノ種類様式左ノ如シ

一 正教員ニ授與スヘキモノ

師範學校卒業生ニ與フルモノ

小學校教員免許狀

族 籍

何學校卒業生

氏 名

生 年 月

右ハ奈良縣管内ニ於テ小學校本科正教員タルコトヲ免許

ス

年 月 日

縣知事位勳爵 氏 名 印

番 號

師範學校卒業ニ非サル者ニ與フルモノ

小學校教員免許狀

族 籍

何科目、何科目、何科目、

氏 名

生 年 月

右ハ前記ノ科目ニ就キ檢定シ奈良縣管内ニ於テ(尋常)小學校本科(專科)正教員タルコトヲ免許ス

年 月 日

縣知事位勳爵 氏 名 印

番 號

二 准教員ニ授與スヘキモノ

小學校准教員免許狀

族 籍 氏 名 生 年 月

右ハ前記ノ科目ニ就キ檢定シ奈良縣管内ニ於テ(尋常)小學校准教員タルコトヲ免許ス

年 月 日

番 號 縣知事位勳爵 氏 名 印

附 則

第十條 本則施行ノ際有効ノ本科准教員ノ免許狀ヲ所有スルモノハ期限満了後仍有効トス

第十一條 明治三十年(一月)奈良縣令第四號ハ之ヲ廢止ス

第一號書式 (用紙美濃紙)

小學校教員(無)試驗檢定願

志願學科(尋常)小學校本科正教員但何々學科目ヲ除ク又ハ(尋常)小學校准教員但何々學科目ヲ除ク小學校專科正教員何々學科目ノ類

私儀御縣下小學校教員志願候間前記ノ學科ニ就キ(無)試驗檢定相成度別紙履歷書身體檢査書相添此段奉願候也

年 月 日

本籍道廳府縣郡市區町村番地(何某方附籍)寄留全上

華士族平民何某何男女兄弟姉妹又ハ戶主職業(農、工、商、神職又ハ僧侶等)

年 月 日 生

履 歷 書

道廳府縣華士族平民

何 某

年 月 日 生

學 業

一年月日何學校ニ入學年月日何學科卒業証書寫別紙之通

一年月日ヨリ年月日迄何所ニ於テ何某ニ就キ何々修業

一年月日何々ニ依リ何免許狀ヲ受ク免許狀寫別紙之通

業 務

一年月日何官職拜命或ハ何業ニ從事年月日依願免官或ハ廢業又ハ現今在職從事等

賞 罰

一年月日何所ニ於テ何々ニ付何賞ヲ受ク或ハ何罰ヲ受ク
被産又ハ家資分産ノ有無
右之通相違無之候也

年月日

右

第三號書式 (用紙美濃紙)

身體検査書

道廳府縣華士族平民

何

何

某

某印

年月日生

- 一 体格甲或ハ乙或ハ丙 体格ノ完備シ強壯ノ者ヲ甲トシ之ニ亞ク者ヲ乙トシ現ニ疾患ナキモ身體薄弱ナルカ若クハ著シキ病歴ヲ有スルモノヲ丙トス
- 一 體質強壯或ハ稍弱 特ニ發見シタル條件アラハ之ヲ記スヘシ
- 一 身幹何尺何寸何分
- 一 胸圍何尺何寸何分 上肢ヲ水平ニ保タシノ乳房ノ部ニ於テ測ル
- 一 呼吸器 喉頭氣管支肺臟及肋膜ノ健否
- 一 神經系 腦及末梢神經ノ健否
- 一 皮膚 重患ニ因スル斑點結節ノ存否
- 一 体量何貫何百何十何匁

- 一 聽力尋常又ハ過敏或ハ遲鈍 六尺ノ距離ニ於テ低聲ヲ以テ試ミ次ニ兩耳ヲ各別ニ檢シテ其聽否ヲ察スヘシ
- 一 視力何々 ス子レン氏ノ試視法ヲ用テ検査シ辨色力ノ如何ヲモ檢シ異狀アルモノハ記載スルヲ要ス
- 一 言語明瞭ナルヤ否ヤ
- 一 痘、天然痘或ハ種痘
- 一 既往病歴
- 右ノ外現在セル疾患及變形ハ總テ之レヲ記載スルヲ要ス
- 右ノ通相違無之候也

官立何病院 (病院ニアラサレハ其族籍) 何

某印

○教員無試験檢定ニ關スル申告方

明治三十五年十一月廿日
奈良縣訓令乙第二六六號

郡 役 所
市 役 所

郡市長ニ於テ明治三十三年(八月)小學校令施行規則第七條第六號ニ該當スル者アリト認ムルトキハ其學
力經歷品行及身體ニ關スル事項等ヲ具シ知事ニ申告スヘシ

◎年功加俸

○市町村立小學校教育費國庫補助法

明治三十三年三月十六日
法律第六十三號

- 第一條 市町村立小學校教育費ヲ補助スル爲國庫ハ毎年豫算ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ支出ス
- 第二條 前條ノ補助金ハ市町村立小學校教員ノ年功加俸及市町村立尋常小學校教員ノ特別加俸ニ充ツ其ノ加俸ニ關スル方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 第一條ノ補助金ハ學齡兒童數ノ及就學兒童數ニ比例シテ之ヲ北海道廳及府縣ニ配賦ス
北海道廳及沖繩縣ノ配賦金ハ文部大臣之ヲ管理シ其他ハ之ヲ府縣ニ下附スヘシ

附 則

第四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス
第五條 市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法及小學校教育費國庫補助法ハ之ヲ廢止ス
第六條 本法施行ノ際市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法ニ依リ現ニ年功加俸ヲ受クル者ニハ同一學校ニ勤續スル間仍其加俸ニ相當スル金額ヲ支給ス但本法ニ依リ年功加俸ヲ受クル者ハ此限ニ在ラス
前項ニ依リ支給スル金額ハ第三條ノ配賦金ヨリ支出ス

○市町村立小學校教員加俸令 三十三年三月三十日 勅令第三百三十三號

第一條 沖繩縣ヲ除クノ外府縣ハ市町村立小學校教育費國庫補助法第三條第二項ノ下付金ヲ以テ市町村立小學校教員加俸資金トナシ特別會計ヲ設置スヘシ
前項ノ資金ハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得
第二條 市町村立小學校教員加俸資金ヨリ生スル收入ハ之ヲ資金ニ編入スヘシ
第三條 市町村立小學校本科教員ニシテ五箇年以上同一府縣内ノ市町村立小學校ニ勤續シ地方長官ニ於テ成績佳良ナリト認メタル者ニハ年功加俸ヲ給ス
年功加俸ハ正教員ニ在リテ八年額二十四圓トシ准教員ニ在リテ八年額十八圓トス但シ年功加俸ヲ受ケタル後勤續年數五箇年ヲ加フル毎ニ正教員ニ在リテ八年額十八圓ヲ加ヘ准教員ニ在リテ八年額十二圓ヲ加フルコトヲ得
第四條 兵役ニ服スル爲其ノ職ヲ去リタル者兵役ヲ終リタル後九十日以内更ニ就職シタルトキハ前後ノ在職年數ヲ勤續年數ニ通算ス學校ノ廢止若ハ學校編制ノ變更ニ因リ退職シタル者六十日以内更ニ就職シタルトキ亦同シ

ルトキ亦同シ

第五條 師範學校訓導ニ在職シタル年數ハ之ヲ勤續年數ニ通算ス
第六條 年功加俸ヲ受クル者懲戒處分ヲ受ケタルトキ又ハ地方長官ニ於テ成績佳良ナラスト認メタルトキハ年功加俸ヲ支給セス
第七條 市町村立尋常小學校本科正教員ニシテ單級學校ニ勤務スル者ニハ年額二十四圓以下ノ特別加俸ヲ給ス其ノ僻陬ノ地ニ在ル多級學校ニ勤務スル者ニハ地方長官ニ於テ必要ト認メタルトキハ年額十八圓以下ノ特別加俸ヲ給スルコトヲ得
第八條 小學校令ヲ施行セサル地方ニ於ケル訓導及訓導ノ資格アル學校長ハ本令ニ於テハ本科正教員ト看做ス
第九條 市町村立小學校教員加俸給與ニ關スル細則ハ地方長官之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第十條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第十一條 市町村立小學校教育費國庫補助法第六條第一項ニ依リ支給ヲ受クル者ニシテ本令第三條第一項ニ依リ年功加俸ヲ受ケ其ノ額同法ニ依リ受クル額ヨリ寡キトキハ同一學校ニ勤續スル間其ノ差額ヲ加給ス

○市町村立小學校教育費國庫補助法第三條第一項ノ學齡兒童數及就學兒童數算出方 三十五年三月廿九日 文部省令第七號

市町村立小學校教育費國庫補助法第三條第一項ノ學齡兒童數及就學兒童數ハ補助金ヲ配賦スヘキ年ノ前年三月ニ於ケル現在數ニ依ルモノトシ明治三十三年文部省令第八號ハ廢止ス
○市町村立小學校教員加俸給與細則 明治三十三年七月二十日 奈良縣令第四十號

明治三十三年(三月)勅令第百三十三號市町村立小學校教員加俸令第九條ニ依リ市町村立小學校教員加俸給與細則左ノ通相定ム

市町村立小學校教員加俸給與細則

第一條 郡市長ハ市町村立小學校教員ニシテ市町村立小學校教員加俸令第三條第六條第七條ニ該當スルモノアリト認ムルトキハ其事由及關係事項ヲ詳具シ本人履歷書相添エ上申スヘシ
第二條 特別加俸ヲ受クル者ニシテ他ノ學校ニ轉任スルトキハ別ニ辭令ヲ用非スシテ其加俸ヲ失フモノトス

第三條 加俸ノ支給増額減額ハ總テ發令ノ翌月ヨリ計算ス

第四條 加俸ハ毎年四月十月ニ於テ前六ヶ月分ヲ支給ス但休職退職ヲ命セラレ若クハ其他ノ事由ニ依リ加俸ヲ罷メラレタルトキハ月割計算ヲ以テ當月分迄其際之ヲ支給ス

第五條 加俸ハ病氣又ハ其他ノ事故ニ依リ欠勤スルモ之レヲ減給スルコトナシ

附 則

第六條 市町村立小學校教育費國庫補助法第六條ノ給與及市町村立小學校教員加俸令第十一條ノ加給ハ本則ノ規定ニ依リ支給ス

第七條 本年四月一日ヨリ本則施行期日迄ニ市町村立小學校教員加俸令第七條前段ノ特別加俸ヲ受クヘキモノニ對シテ勤務ノ當月ニ溯リ計算支給ス

○市町村立小學校教員加俸金ノ取扱方

明治三十三年八月七日
奈良縣訓令甲第五十五號

市町村立小學校教員加俸金ノ取扱方左ノ通相定ム

郡 役 所
市 役 所

第一條 年功加俸特別加俸及市町村立小學校教育費國庫補助法第六條並教員加俸令第十一條ノ給與ヲ受クルモノハ別記書式ノ請求書及領收證ヲ差出サシムヘシ

一人ニシテ二種以上ノ給與ヲ受クルモノハ各別ニ請求書、領收證ヲ要ス
第二條 前條ノ請求書ヲ差出シタルトキハ受領權ノ有無ヲ調査シ取纏メノ上毎年四月十日、十月十日限り當廳ニ進達スヘシ

但休職、退職其他ノ事故ニ依リ臨時支給スヘキモノハ其都度差出スヘシ
第三條 加俸其他ノ給與金ハ郡市役所ニ送達ス

前項給與金ノ送達ヲ受ケタル郡市役所ハ直ニ之ヲ本人ニ傳達シ二十日以内ニ領收證ヲ當廳ニ進達スヘシ
(別記) 請 求 書 (領收證)
一金何圓何拾錢

但何年何月ヨリ何年何月迄年功加俸(特別加俸)(舊年功加俸ノ相當額)(年功加俸ノ差額)
(但何年何月年功加俸、特別加俸辭令受得ニ付何年何月ヨリ何月迄何月分)其他休職、退職等ノ場合ハ事實ヲ詳記スヘシ

右金額御下渡相成(度及請求)候也
(正ニ領收)候也

年 月 日
知 事 宛
何 某 印

○市町村立小學校教員加俸給與并ニ停止辭令書式

明治三十三年六月十五日
奈良縣 廳 議

第一號 年功加俸辭令書式

(島ノ子長サ九寸
巾七寸二分)

奈良縣

市郡

小學校(准)訓導(兼校長)

氏

名

市町村立小學校教員加俸令第廿三條ニ依リ本縣市町村立小學校ニ勤務中年功加俸年額

給ス
年月日

奈良縣

第一號 特別加俸辭令書式 (用紙全上)

奈良縣

市郡

小學校訓導

氏

名

市町村立小學校教員加俸令第七條ニ依リ特別加俸年額
年月日 圓ヲ支給ス

第三號 年功加俸ヲ停ムル辭令書式 (用紙全上)

奈良縣

市郡

小學校(准)訓導(兼校長)

氏

名

市町村立小學校加俸令第六條ニ依リ年功加俸ヲ支給セス
年月日 奈良縣

奈良縣

(參照)
奈良縣通牒第一八三五號(明治三十三年七月廿四日)
本月二十日縣令第四十號小學校教員加俸令給與細則發布ニ付テハ同令第一條ニ據リ加俸ノ給與上申ニ關シ別記ノ趣旨ニ依リ御取扱可
相成 (各郡市長宛)
(別記)
一 登加俸令ニ依リ現ニ加俸ヲ受クルモノハ特ニ成績佳良ノモノハ外其儘トス
一 加俸令第三條ニ依リ新ニ年功加俸ヲ受クヘキモノハ成績超衆ノモノニ限ルヲ以テ其成績ヲ詳述スヘシ

一 加俸令第七條ニ依リ現任單級尋常小學校正教員ノ外本年四月以後單級尋常小學校正教員ニシテ既ニ他ニ轉任又ハ退職セシモノハ
其事實ヲ具申スヘシ
一 多級尋常小學校ノ正教員ニシテ特別加俸ヲ支給スヘキモノハ交通不便其他特種ノ事情アリテ正教員ヲ得難キ場合ニ限ルヲ以テ特
ニ其事情ヲ詳述スヘシ
奈良縣通牒第一二七一號ノ四(明治三十三年七月廿七日)
市町村立小學校教育費國庫補助法并ニ教員加俸令ニ關シ文部省ニ於テ審議決定ノ廉別記之通牒有之候條爲心得及移牒(各郡市長宛)
(別記)
一 教員加俸令(二十三年勅令第一三三號)第三條ノ本科正教員准教員ノ勤續年數ハ相互通算スヘシ
一 年功加俸及特別加俸ハ退職料及遺族扶助料法ニ於ケル諸給與及納金ニハ本俸ヲ加算スヘシ
一 本校ト分校トヲ設置スル小學校ニシテ本分校共ニ單級ニ編製スルモ加俸令第七條ノ所謂單級學校ト認ムルコトヲ得ス
一 尋常高等併置小學校ニ於テ其尋常科ノ兒童ヲ單級ニ編製スルモノハ加俸令第七條ニ於ケル單級學校ト認ムルコトヲ得ス
一 市町村立小學校教育費國庫補助法第六條ニ依リ支給スヘキ給與額ハ本年三月末迄加俸令(二十九年法律第一四號)ニ依リ計算シタ
ル金額ニヨル

◎授業料

○市町村立小學校授業料戰地勤務ニ因レル死傷者ノ子弟
ニ對シ徵收セサルコトヲ得ル規定

明治二十九年二月六日
勅令第五號

第一條 戰地ニ於ケル勤務ニ起因シテ死去シタル者ノ遺族ニシテ左ニ掲クル者ニ對シテハ市町村立小學校
ニ於テ授業料ヲ徵收セサルモノトス
一 軍人恩給法第二十七條第一ニ該當スル者及第四十條ニ掲ケタル者ニシテ第二十七條第一ニ該當スル
者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹
二 官吏遺族扶助法第四條第二項ニ該當スル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹
三 明治二十七年勅令第六十四號第一條第一項ニ該當スル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹
前項ノ遺族ニシテ扶助料ヲ受クヘキ者ナギモ死者ノ前項ニ該當シタル事實明白ナルトキハ其ノ同籍内ニ
在ル弟妹ニ對シ前項ヲ適用ス

第二條 戰地ニ於ケル勤務ニ起因シテ軍人恩給法第九條第十四條又ハ官吏恩給法第三條ニ該當スル者又ハ戰地ニ於テ傷疾ヲ受ケ疾病ニ罹リ明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ手當金ヲ受ケタル者又ハ公務ニ依リ從軍シタル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹ニ對シテハ市町村會ノ議決ニ依リ市町村立小學校ニ於テ授業料ヲ減額シ又ハ之ヲ徵收セサルコトヲ得

第三條 本令ニ依リ減額シ又ハ徵收セサル授業料ニシテ已ニ納付済ノモノハ還付セサルモノトス但市町村會ニ於テ還付ノ議決ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニアラス

(參照)

軍人恩給法

- 第四條 退職恩給ハ准士官以上左ニ掲ケル事項ノ一ニ當ルトキ之ヲ給ス
- 一 戰闘及戰時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ退職シタルトキ
 - 二 戰地ニ於テ流行病ニ罹リ又ハ戰時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メ健康ニ有害ナル感動ヲ受ケタルノ願ミルコト能ハスニテ勤務ニ從事シ給メニ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ退職シタルトキ
- 第九條 増加恩給ハ戰闘及戰時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ左ニ掲ケル事項ノ一ニ當ル者ニ退職恩給、免除恩給ノ外特ニ給スルモノトス
- 一 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ
 - 二 前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ
 - 三 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ
 - 四 前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ
 - 五 一眼前ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ
 - 六 前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ
- 第十四條 賑恤金ハ下士以下左ニ掲ケル事項ノ一ニ當リ第九條第六ヨリ輕症ニシテ免除恩給ヲ受ケタル者ニ之ヲ給ス
- 一 戰闘及戰地公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ第四條第三ニ原由スル疾病ニ罹リ現役ヲ離レタルトキ
 - 二 戰時平時公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ第四條第三ニ原由スル疾病ニ罹リ現役ヲ離レタルトキ
- 第二十七條 軍人左ニ掲ケル事項ノ一ニ當ルトキハ其寡婦ハ扶助料ヲ受ケタルノ權利アルモノトス
- 一 第四條第二第三ニ當リ死没シタルトキ
- 第四十條 陸軍見習士官、海軍候補生、陸海軍衛生隊定規ノ補助ヲ受ケタル屯田兵下士卒及海軍水雷夫ハ第四條第二第三ニ依リ死没シ又ハ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘサル者ニ限リ恩給ヲ受ケタルノ權利ヲ有ス

明治二十七年勅令第六十四號

第一條 第一項

陸海軍員、軍艦乗組員、官用船員、船員若クハ鐵道從事員其ノ他陸海軍員等ニシテ戰地ニ於テ公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ又ハ之ニ原因シテ死没シタルトキハ本令ニ依リ一時限リ手當金ヲ給ス

◎教育資金

○教育基金特別會計法

明治三十二年三月二十日 法律第八十號

- 第一條 教育基金ヲ置キ其ノ歲入歲出ハ一般會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス
- 第二條 償金特別會計資金ノ内千萬圓ハ教育基金ニ組入ルヘシ
- 第三條 教育基金ハ普通教育費ニ使用ス
- 第四條 前項普通教育費ノ使用ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第五條 教育基金ヲ使用セントスルトキハ其ノ金額チ一般ノ歲入ニ組入レ一般ノ歲出トシテ拂出スヘシ但シ元資金千萬圓ハ之ヲ費消スルコトヲ得ス
- 第六條 教育基金ハ大藏省預金ニ寄託シ其ノ利子ハ之ヲ基金ニ編入スヘシ
- 第七條 政府ハ毎年教育基金特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

○教育基金令

明治三十二年十一月二十一日 勅令第四百三十五號

朕教育基金令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

教育基金令

- 第一條 教育基金元資金ヨリ生スル收入ハ本令ノ規定ニ依リ之ヲ使用ス
- 第二條 文部大臣ハ教育基金特別會計法第四條ニ依リ一般ノ歲出トシテ毎年度豫算ニ於テ定マリタル金額

ナ前年々々年度末現在ノ學齡兒童數ニ應シテ北海道及府縣ニ配當ス(三十六年三月勅令第五十七號ヲ以テ改正)

第二條ノ二 文部大臣ハ公立小學校ノ校地校舍非常變災ニ因リ被害甚シキ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ前條ノ標準ニ依ラスシテ其被害アリタル道府縣ニ對シテ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得

前項ノ配當金額中前條ニ依リ配當スヘキ金額ニ超過シタル額ハ之ヲ受ケタル道府縣ノ翌年度以後ニ於ケル配當金ヨリ之ヲ控除スヘシ其ノ控除シタル金額ハ前條ノ標準ニ依リ之ヲ他ノ道府縣ニ配當ス(全上追加)

第三條 前二條ノ配當金ハ北海道及府縣ニ下付スヘシ

北海道及府縣ハ前項ノ下付金ヲ以テ其ノ教育資金ト爲シ特別會計ヲ設置スヘシ

前項ノ教育資金ハ北海道地方費及府縣費ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得(全上)

沖繩縣ノ配當金ハ前三項ニ依ラス文部大臣之レヲ管理ス

第四條 教育資金ヨリ生スル收入ハ之ヲ資金ニ編入スヘシ

第五條 教育資金ハ第八條ノ場合ヲ除クノ外公立尋常小學校ノ校地校舍ヲ設備スル費用ニ充ツル爲メ市町村制ヲ施行シタル地方ニ於テハ之ヲ市町村町村組合町村學校組合ニ貸與シ其他ノ地方ニ於テハ之ヲ小學校設置區域ニ補助ス

公立高等小學校ノ校地校舍ニシテ非常變災ニ罹リ設備ノ復舊ヲ要スル場合ニ在リテハ前項ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第六條 貸付金額ハ市町村町村組合町村學校組合ノ申請ニ依リ第五條ノ設備ニ要スル費用總額ノ十分ノ七以內ニ於テ地方長官之ヲ定ム

貸付金ノ償還期間ハ十ヶ年以內トシ年賦ヲ以テ之ヲ償還セシムヘシ

貸付金ニ對シテハ一ヶ年百分ノ五ノ利子ヲ附スヘシ

第七條 補助金額ハ第五條ノ設備ニ要スル費用ノ總額十分ノ三以內ニ於テ地方長官之ヲ定ム

但シ非常變災ノ場合ニ於テハ設備復舊費十分ノ五以內ヲ補助スルコトヲ得(全上)

第八條 北海道及府縣ハ毎年配當ヲ受ケタル金額十分ノ三以內ヲ限リ公立小學校教員ノ獎勵其他普通教育ニ關スル費用ニ充ツルコトヲ得(全上改正)

第九條 地方長官ハ教育資金ニ關スル規則ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ(全上)

第十條 北海道廳及沖繩縣ノ配當金ノ使用ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條ノ二 本令中公立小學校ニ關スル規定ハ師範學校附屬小學校ニ之ヲ適用セス(全上)

○教育基金令ニ依ル配當金ノ使用ニ關スル件

明治三十三年二月二十日 文部省訓令第二號

一 明治三十二年勅令第四百三十五號教育基金令第三條第三項ノ配當金ノ使用ニ關スル事務ハ其道廳長官及縣知事之ヲ行フヘシ

二 道廳長官及縣知事ハ前項配當金使用ニ關スル規則ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

○奈良縣教育資金使用ニ關スル規則

明治三十四年三月十二日 奈良縣令第十三號

奈良縣教育資金使用ニ關スル規則左ノ通相定ム

奈良縣教育資金使用ニ關スル規則

第一條 市町村ノ資力小學校設備ノ費用ヲ支出スルニ堪フルト認ムルトキハ教育資金ヲ貸付セサルモノトス

第二條 教育資金ノ貸付順次ハ左ノ標準ニ依リテ定ム(三十五年二月縣令第八號ヲ以テ改正)

一、市町村稅一戸平均ノ負擔額ハ縣下市町村稅一戸平均ノ負擔額ニ二倍以上ナルモノ

二、單級學校ノ設備ニ充ツルモノ又ハ一町村數學校ヲ有シ一學校ノ學齡兒童數平均百五十人以下ノモノ

- 三、小學教育ニ屬スル經常費一戸平均ノ負擔額ハ縣下市町村ノ小學教育ニ屬スル一戸平均ノ負擔額以上ナルモノ
- 四、市町村税一戸平均ノ負擔額ハ縣下市町村税一戸平均ノ負擔額以上ナルモノ
- 五、前四號ニ該當セサルモノ
- 前項ノ事情等シキ市町村二箇以上ナルトキハ貸付金額ノ少キモノヲ先トシ其金額全シキトキハ稟請ノ前後ニ依ル
- 災害ニ罹リ復舊ヲ要スルトキハ前二項ノ例ニ依ラサルコトアルヘシ
- 第三條 尋常高等小學校校地校舎ノ設備費ヲ貸付スルトキハ其總費額ノ五分ノ三ヲ以テ尋常小學校ノ設備費ト看做シ之ニ對スル貸付金額ヲ算定ス
- 第四條 市町村立尋常小學校々地、校舎ノ設備費ニ充ツル爲メ教育資金ノ貸付ヲ受ケントスルトキハ其事由ヲ具シテ稟請スヘシ
- 稟請書ハ貸付金使用ノ年度一ヶ月前ニ差出スヘシ但特別ノ事由アルモノハ此限リニアラス
- 町村立小學校ニ係ルモノハ郡役所ニ於テ當否ヲ調査シ意見ヲ副申スヘシ
- 第五條 前條申請書ニハ左ノ各項ヲ詳具スヘシ
 - 一 校地、校舎ノ設備設計書、圖面並工事豫定書
 - 二 前項設備ニ要スル費用豫算決議額及賦課方法
 - 三 貸付要求額
 - 四 償還期限並年賦償還額
 - 五 當該年度市町村歳入、歳出豫算表
- 六 市町村税負擔ノ狀況(市町村税一戸平均負擔額、市町村小學教育經常費一戸平均負擔額)(全上)

- 第六條 貸付金ノ利子ハ貸付ノ翌月ヨリ返納ノ月マテ徴收ス
- 利子金ハ毎年三月、九月ノ兩度納付スヘシ
- 第七條 貸付金ハ貸付ノ翌年度ヨリ年賦ヲ以テ償還セシム但本文ノ年限ハ十ヶ年ヲ超ユルコトヲ得ス償還金ハ毎年三月納付スヘシ
- 第八條 貸付金及償還金ハ五拾圓ヲ以テ單位トス
- 年賦償還額ハ貸付金五百圓未満ハ一ヶ年五拾圓以上貸付金五百圓以上ハ二ヶ年百圓以上貸付金千圓以上ハ一ヶ年百五拾圓以上貸付金貳千圓以下ハ二ヶ年參百圓以上貸付金參千圓以上ハ二ヶ年五百圓以上トス(全上)
- 第九條 區ノ負擔ニ屬スル尋常小學校校地校舎ノ設備費ニ就キ市町村ヨリ貸付ヲ稟請シタルトキハ其市町村ニ於テ設備スルモノト同視シ之ヲ處理ス
- 町村組合、町村學校組合ハ一町村ト同視シ之ヲ處理ス
- 教育基金令施行規程 明治三十六年三月三十一日 文部省令第十八號
- 第一條 教育基金令第二條ニ依リ沖繩縣ニ配當シタル金額ハ公立尋常小學校ノ校地校舎ノ設備ニ充ツル爲之ヲ區間切島ニ補助ス但シ配當金ノ一部ヲ以テ公立小學校教員ノ獎勵其ノ他普通教育ニ關スル費用ニ充ツルコトアルヘシ
- 第二條 教育基金令第二條ノ二第一項ニ依リ特別ノ配當ヲ受ケントスル道府縣ハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ
 - 一 各罹災小學校ノ校地校舎被害坪數及被害ノ狀況
 - 二 校地校舎ノ復舊ニ要スル費額
 - 三 配當ヲ受ケントスル金額
 - 四 校地校舎ノ復舊ニ關シ道府縣費ヲ以テ補助ヲ爲シ又ハ教育資金ノ補充ヲ爲ストキハ其ノ金額

附 則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス
明治三十三年文部省令第三號ハ之ヲ廢止ス

◎教員恩給

○市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法

明治二十三年十月二日
法律第九十號

第一條 市町村立小學校ノ正教員ハ此法律ノ規定ニ從ヒ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條 在職滿十五年以上ノ者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ終身退隱料ヲ給ス
一 年齡六十歳ヲ超ヘ退職ヲ命シタルトキ

二 傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

三 廢校ニ依リ退職シ又ハ學校編制ノ變更ニ依リ退職ヲ命シタルトキ

第三條 左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身退隱料ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七マテノ増加退隱料ヲ給ス

一 職務ニ依リ傷痍ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

二 職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

第四條 官吏恩給法第五條第一項第四項第五項第六條第十一條及第十二條第一項ハ退隱料ニ適用ス(明治三十三年法律第八十九號ヲ以テ改正)

退隱料等ノ支給上ニ關スル在職年數ノ算定ニ關スル規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治廿五年勅令第十八號ヲ以テ在職年數算定ニ關スル規則公布)

第五條

(明治三十二年法律第八十九號ヲ以テ第一項削除)

退隱料ヲ受クル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其間退隱料ノ支給ヲ停止ス

一 公務ニ就キ退職現時ノ給料額ト同額以上ノ給料ヲ受クルトキ

二 五箇年以上受領ヲ怠リタルトキ

三 公權ヲ停止セラレタルトキ(同上本項改正)

第六條 年齡未タ六十歳ニ至ラズシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若クハ失職ニ該當シタル者ハ退隱料ヲ受クルノ資格ヲ失フモノトス

第七條 市町村立小學校ノ准教員ハ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ第三條ニ該當スルモノニ限り退職現時ノ給料四分ノ一ノ退隱料ヲ終身給與ス

第八條 在職滿一年以上ニシテ退職シタル市町村立小學校正教員ハ退職現時ノ給料半箇月分ヲ以テ在職年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スル金員ヲ一時給與ス但休職滿期ニ依リ退職シタル者ハ其本職最終ノ給料額ニ依リ之ヲ給與ス

第九條 第三條又ハ第七條ニ依リ退隱料ヲ受クル者自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若クハ失職ニ該當シタル者ハ前項ノ限ニ在ラズ

本條ノ退職給與金ヲ受ケタル者他日市町村立小學校正教員ニ再任シ爾後退職シタルトキハ第一項ノ在職年數ハ其再任ノ月ヨリ起算ス(同上本條改正)

第十條 退隱料ノ支給及第八條ノ給與ハ市町村長ノ證明ニ依リ府縣知事之ヲ裁定ス
官吏恩給法第十六條及第十八條ハ退隱料ニ適用ス

第十條ノ市町村立小學校正教員左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法律ノ規定ニ從ヒ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

- 一 在職十五年以上ノ者在職中死去シタルトキ
- 二 在職十五年未滿ノ者職務ノ爲死去シタルトキ
- 三 退隱料ヲ受クル者死去シタルトキ

第十一條 官吏遺族扶助法第四條乃至第十條第十二條乃至第十六條ハ此法律ニ規定スル扶助料ニ適用ス
(項改正)
(同上本)

官吏遺族扶助法第十一條ハ此法律ニ規定スル扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戶籍内ニ在ル二十歳未滿又ハ癱疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姊妹アリテ之ヲ給養スル者ナキ場合ニ適用ス

第十二條 在職十五年未滿ノ市町村立小學校正教員在職中職務ノ故ニアラスシテ死去シタルトキハ其遺族ニ一時扶助金ヲ給ス

前項ノ扶助金ハ在職二年未滿ノ者ニ在テハ本職最終ノ給料一箇月分ニ當ル金員ヲ給シ二年以後滿一年毎ニ給料年額百分ノ二ニ當ル金員ヲ加フ(上)

第十三條 扶助料及扶助金ノ支給並第十二條第二項ノ給與ハ市町村長ノ申牒ニ依リ府縣知事之ヲ裁定ス(上)

第十四條 府縣ハ小學校教員恩給基金ヲ備フヘキモノトス
 市町村ハ其市町村立小學校ニ在職スル正教員ノ給料額百分ノ一ニ當ル金員ヲ毎年其府縣ニ納ムヘキモノトス

兼職ニ係ル加俸ニ對シテハ本條ノ納金ヲ要セス(上)
 本條第二項ノ納金ハ府縣小學校教員恩給基金ト爲スヘシ(上)

恩給基金ハ其利子ヲ以テ退隱料扶助料法第八條及第十一條第二項ノ給與ニ充ツルノ外之ヲ支消スルコトヲ得サルモノトス

本條第二項ニ依リ各府縣ニ於テ收入シタル納金額二分ノ一ニ當ル金員ヲ收入年度ノ翌々年度毎ニ國庫ヨリ府縣ニ給與スルモノトス(上)

退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ハ恩給基金ノ利子及國庫ノ給與金其他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨シ不足アルトキハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スヘキモノトス

恩給基金ノ管理並退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ノ支給等ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム(明治二十五年文部省令第一二號ヲ以テ支給規則公布)

恩給基金ノ管理並退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ノ支給等ニ關スル費用ハ總テ府縣ノ負擔トス

第十五條 此法律中第一條乃至第十三條ハ明治二十六年度ヨリ第十四條ハ明治二十五年年度ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 府縣制郡制又ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ此法律ノ條規ニ對シテ特例ヲ設クルコトヲ必要トスルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治二十四年勅令第二百四十八號ヲ以テ特例公布)
(備考) 明治三十二年法律第八十九號ヲ以テ改正ノ條項ハ同年四月一日ヨリ施行

○公立學校職員退隱料等ニ關スル規定 明治二十九年三月二十三日 法律第十三號

第一條 明治二十三年法律第九十號ハ第十五條ヲ除キ公立實業補習學校ノ教員ニ適用シ同年法律第九十一號ハ第一條及第二十條ヲ除キ公立ノ高等女學校專門學校實業學校(實業補習學校ヲ除ク)及其ノ他ノ公立學校ノ學校長教員舎監及書記ニ適用ス(明治三十二年法律第九十一號ヲ以テ改正)

第二條 明治二十三年法律第九十號第二條及同年法律第九十一號第三條ハ非職又ハ休職滿期ニヨリ退職シ及校務ノ伸縮ニ依リ退職ヲ命シタル場合ニモ適用ス

退隱料ハ本職最終ノ俸額ニ依リ之ヲ算定ス
 第三條 明治二十三年法律第九十號同年法律第九十一號及此ノ法律ニ依リ退隱料等ヲ受クヘキ學校長正教

員舎監及書記ノ在職年月數ハ各公立學校ノ間ニ於テハ之ヲ通算ス

第四條 府縣立師範學校長タリシ者他ノ文官トナリ若クハ他ノ文官タリシ者府縣立師範學校長ト爲リタルトキハ其在官年月數ハ明治二十三年法律第九十一號及官吏恩給法ニ於テハ各其ノ規定スル所ニ依リ其在官年數若ハ在職年數中ニ通算スヘキモノトス

第四條ノ二 學校長正教員舎監又ハ書記タリシ者教官其ノ他教育事務ニ従事スル文官ト爲リタルトキ若ハ教官其他教育事務ニ従事スル文官タリシ者學校長正教員舎監又ハ書記ト爲リタルトキハ各其ノ在官在職年數ヲ通算シ明治二十三年法律第九十一號及同年法律第九十一號ノ退隱料扶助料扶助金ヲ受クルコトヲ得通算スルコトヲ得ヘキ官職ノ種類及通算ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(同年勅令第二百一號ヲ以テ施行ニ關スル規定公布)

第四條ノ三 同一人ニシテ國庫ヨリ公立學校職員退隱料及官吏恩給又ハ軍人恩給(賑恤金、扶助金)若ハ同一ノ事由ノ爲メニ公立學校職員遺族扶助料及官吏遺族扶助法又ハ軍人恩給法ニ依レル扶助料ヲ併セ受クハキ者アルトキハ本人ノ所擇ニ任セ其ノ一ヲ給ス(明治三十二年法律第九十一號ヲ以テ追加)

附 則

第五條 此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

(參照)

明治二十三年法律第九十號ハ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法、法律第九十一號ハ府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法ナリ

(備考) 明治三十二年法律第九十一號ヲ以テ改正追加ノ條項ハ同年四月一日ヨリ施行

○公立學校職員退隱料等ニ關スル法律施行方

明治三十二年五月十六日 勅令第二百一號

第一條 明治二十九年法律第十三號ニ於ケル正教員准教員ノ別左ノ如シ

一 公立實業補習學校ニ於テハ訓導及訓導ノ資格アル學校長ヲ以テ正教員トシ准訓導ヲ以テ准教員トス

二 公立ノ高等女學校專門學校實業學校(實業補習學校校ヲ除ク)其ノ他ノ公立學校ニ於テハ教諭助教諭訓導ヲ以テ正教員トシ其ノ他ノ教員ヲ以テ准教員トス

第二條 明治二十九年法律第十三號ニ於テ通算スルコトヲ得ヘキ文官ノ種類左ノ如シ

- 一 官立ノ學校及圖書館職員
- 二 文部省官吏

三 教員事務ニ従事スル北海道府縣郡區島廳官吏

第三條 前條ニ掲グル文官ノ在官年數ヲ公立學校職員ノ在職年數ト通算スル場合ニ於テ算入又ハ除算スヘキ年月數ハ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ノ例ニ依ル

第四條 明治二十四年勅令第二百四十八號明治二十五年勅令第五號同年勅令第十八號同年勅令第三十二號及明治三十二年勅令第九十六號ハ明治二十九年法律第十三號ノ施行ニ關シ特ニ規定スルモノヲ除クノ外之ヲ準用ス

附 則

第五條 明治二十九年勅令第九十九號ハ廢止ス

(參照)

明治二十四年勅令第二百十八號ハ府縣制郡制又ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法及市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ノ施行ニ關スル件 同二十五年勅令第五號ハ府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法納金收入規則 同年勅令第十八號ハ市町村立小學校教員退隱料等ノ支給上ニ關スル在職年數算定ノ件 同年勅令第三十二號ハ府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員並市町村立小學校正教員ノ退隱料又ハ遺族扶助料ニ關シ權利ヲ保障セラレタトスル者ノ件 同三十二年勅令第九十六號ハ公立學校職員退隱料及遺族扶助料等ニ於ケル學校職員ノ資格及其在職年

數算定方ノ件 同二十九年法律第十三號ハ公立學校職員退隱料ニ關スル件 同年勅令第九號ハ同年法律第十三號ニ於ケル學校職員ノ資格及同法律ノ施行ニ關スル件ナリ

○公立學校職員退隱料等ニ於ケル法律ノ施行ニ關スル規定

明治二十九年五月十八日 文部省令第二十九號

明治二十九年法律第十三號ノ施行ニ關スル規定ヲ設クルコト左ノ如シ

第一條 國庫ヨリ他ノ退隱料又ハ恩給ヲ受クル者又ハ受クヘキ權利ヲ有スル者ニシテ府縣立師範學校校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ退隱料ヲ請求スルトキハ同時ニ國庫ヨリ他ノ退隱料若クハ恩給ヲ受ケサル旨ヲ請求書ニ記載スヘシ

第二條 國庫ヨリ他ノ扶助料ヲ受クル者又ハ受クヘキ權利ヲ有スル者ニシテ府縣立師範學校校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ扶助料ヲ請求スルトキハ同時ニ國庫ヨリ他ノ扶助料ヲ受ケサル旨ヲ請求書ニ記載スヘシ

第三條 教官其他教育事務ニ從事スル文官タリシ者ニシテ明治二十九年法律第十三號第四條ノ二ニ該當シ退隱料扶助料扶助金ヲ受クヘキ者アルトキハ其前職ニ屬スル種類ノ退隱料扶助料扶助金ヲ支給ス

第四條 明治二十四年文部省令第七號同第二十四號明治二十五年文部省令第一號同第二號明治二十七年文部省令第三號ハ明治二十九年法律第十三號施行上之ヲ準用ス

第五條 明治二十九年文部省令第四號ハ廢止ス

(參照) 明治二十四年文部省令第七號ハ府縣立師範學校校長俸給並公立學校職員退隱料ニ關スル條規ヲ施行セサル地方ニ於ケル市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法施行上正教員准教員ノ區別ノ件、同二十五年同第一號ハ公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則、同年第二號ハ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則、同二十七年同第三號ハ市町村立小學校廢止ノ際在職ノ教員即日他ノ市町村立小學校教員ニ在セラルトキハ勸勵者トスルノ件、明治二十九年法律第十三號ハ公立學校職員

退隱料等ニ關スル件、明治二十九年文部省令第四號ハ同年法律第十三號ノ施行ニ關シ現行ノ文部省令適用ノ件ナリ

○地方制度ヲ施行セサル地方ニ於テ教員退隱料及遺族扶助料法等施行方

明治二十四年十二月二十八日 勅令第二百四十八號

朕府縣制郡制又ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ府縣立師範學校校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法及市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ノ施行ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 府縣立師範學校校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法及市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ規定スル府縣知事ノ職務ハ北海道ニ於テハ北海道廳長官之ヲ行ヒ市町村長ノ職務ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ島司郡區長戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フヘシ

第二條 府縣立師範學校校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法及市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ規定スル府縣ノ負擔ハ府縣制又ハ地方稅ノ制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區町村公費ノ負擔トス

第三條 府縣立師範學校校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十六條第二項ノ納金ハ國庫ノ支辨ニ屬スル地方費ヲ以テ維持スル公立學校ノ學校長正教員ノ俸給ニ對シテハ之ヲ納ムルコトヲ要セス

第四條 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ規定スル府縣ノ負擔ハ府縣内ニ在ル島嶼ト本地ト經濟ニ異ニスルトキハ府縣知事ニ於テ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣文部大臣ノ認可ヲ得テ其島嶼ノ分擔額ヲ定ムヘシ

前項ノ規定ニ依リ難キ特別ノ事情アルトキハ府縣知事ニ於テ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣文部大臣ノ認可ヲ得テ該島嶼ノ爲ニ別ニ小學校教員恩給基金ヲ備ヘ總テ其負擔ヲ本地ト分別スルコトヲ得

○市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則

明治二十五年二月十日 文部省令第二號

明治二十三年(十月)法律第九十號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條ニ基キ市町村立小學

校教員退隱料及遺族扶助料支給規則ヲ定ムルコト左ノ如シ
市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則

第一章 退隱料ノ請求

第一條 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第二條第三條第四條第七條ニ依リ退隱料ヲ受クヘキ者ハ退隱料請求書ヲ作り退職ノ際勤務セシ小學校所屬市町村長ニ差出スヘシ

第二條 退隱料請求書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 在職中ノ履歷書

二 戶籍吏ノ作りタル戶籍謄本但市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第七條ニ掲ケタル者ハ之ヲ要セス(明治三十二年文部省令第二十八號ヲ以テ改正)

第三條 職務ニ依リ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ退隱料ヲ請求スル者ハ前條ニ掲ケタル書類ノ外尙左ノ書類ヲ添付スヘシ官吏恩給法第六條ヲ適用スヘキ者亦同シ

一 現認證書若クハ事實ヲ證スル公文ノ寫又ハ口供書

二 醫師ノ診斷書

第四條 退隱料請求書ヲ受ケタル市町村長ハ事實ヲ取調請求ノ理由アリト認ムルトキハ之ヲ證明シ證據書類ヲ添ヘ府縣知事ニ差出スヘシ

市町村長ニ於テ請求ノ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ具シテ之ヲ府縣知事ニ差出スヘシ

第五條 府縣知事ニ於テ前條ノ請求ヲ許可シタルトキハ退隱料證書ヲ作り之ヲ本人ニ交付スヘシ但退隱料増加ノ爲更ニ退隱料證書ヲ交付スルトキハ前ニ交付シタル證書ヲ返納セシムヘシ

第六條 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第八條第一項ニ依リ給與金ヲ受クヘキ者ハ給與金請求書ヲ作り在職中ノ履歷書ヲ添ヘ退職ノ際勤務セシ小學校所屬市町村長ニ差出スヘシ市町村長ハ事實ヲ取

調證據書類ヲ添ヘ府縣知事ニ差出スヘシ

府縣知事ニ於テ前項ノ請求ヲ許可シタルトキハ辭令書ヲ作り之ヲ本人ニ交付スヘシ

(同上第三項削除)

第二章 扶助料ノ請求

第七條 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十條第十一條第十二條ニ依リ扶助料又ハ扶助金ヲ受クヘキ者ハ扶助料請求書又ハ扶助金請求書ヲ作り退隱料ヲ受ケスニテ死去シタル者ノ遺族ニ在リテハ死者ノ最終勤務セシ小學校所屬市町村長ニ退隱料ヲ受ケ死去シタル者ノ遺族又ハ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ニ在テハ居住地ノ市町村長ニ差出スヘシ(明治三十五年五月省令第十二號ヲ以テ改正)

市町村長ハ其所屬市町村立小學校正教員遺族ノ扶助料又ハ扶助金ヲ受クヘキ者アルトキハ扶助料又ハ扶助金ノ請求上必要ナル書類ヲ遺族ニ交付スヘシ

第八條 扶助料請求書又ハ扶助金請求書ニハ戶籍吏ノ作りタル戶籍謄本及左ノ書類ヲ添付スヘシ(同上)

一 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十條第一第二第十二條ニ當ル者ノ請求書ニハ市町村長ヨリ交付シタル死者ノ履歷書

二 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十條第三ニ當ル者ノ請求書ニハ死者ノ退隱料證書

三 官吏遺族扶助料法第四條第二項ヲ適用スヘキ者ノ請求書ニハ傷病若クハ疾病ノ職務ニ起因シタル證據書類醫師ヲシテ診察セシメタルトキハ其診斷書及退隱料ヲ受ケスニテ死去シタル者ノ遺族ニ在テハ本條第一ノ書類退隱料ヲ受ケ死去シタル者ノ遺族ニ在テハ本條第二ノ書類

四 扶助料ヲ受クル者死去シ又ハ權利消滅シタルトキ其扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ノ請求書ニハ前者ノ扶助料證書

五 公權停止ニ依リ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ノ請求書ニハ前者ノ確定裁判ノ宣告書寫

六 官吏遺族扶助法第十五條ヲ適用スヘキ者ノ請求書ニハ其事由ヲ詳記シタル書類醫師ノ診斷書及退隱料ヲ受ケスシテ死去シタル者ノ孤兒ニ在テハ本條第一ノ書類退隱料ヲ受ケ死去シタル者ノ孤兒ニ在テハ本條第二ノ書類公務ニ起因スル傷痍若クハ疾病ニ依リ死去シタル者ノ孤兒ニ在テハ本條第三ノ書類扶助料ノ轉給ヲ受ケヘキ孤兒ニ在テハ本條第四ノ書類

第九條 扶助料請求書又ハ扶助金請求書ヲ受ケタル市町村長ハ事實ヲ取調證據書類ヲ添ヘ扶助料又ハ扶助金ヲ支給スヘキ地ノ府縣知事ニ差出スヘシ

府縣知事ニ於テ前項ノ請求ヲ許可シタルトキハ扶助料證書ヲ作り之ヲ本人ニ交付スヘシ其扶助金ニ係ルモノハ辭令書ヲ用フヘシ

第十條 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十一條第二項ニ掲ケタル給與金ノ請求等ハ扶助金ノ例ニ依ルヘシ但癩疾若クハ不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハサル者ノ請求書ニハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第三章 退隱料扶助料ノ支給及停止

第十一條 退隱料支給ノ期ハ退職ノ翌月ヨリ始マリ死去ノ月ヲ以テ終ルモノトス

限隱料及扶助料ハ其年額ヲ四分シ四月七月十月一月ニ於テ其前三箇月分ヲ支給スヘシ但權利消滅ノトキ及給與金扶助金ハ期月ニ拘ラス之ヲ支給スヘシ

第十二條 退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者其金額ヲ受領セントスルトキハ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ以テ其受領權アルコトヲ證明スヘシ

第十三條 退隱料ヲ受ケヘキ權利消滅シ若クハ停止セラルヘキ者ノ支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

- 一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告ヲ受タル日、日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタル日ヲ以テ支給ヲ終ル
- 二 公務ニ就キ退職現時ノ俸給額ト同額以上ノ給料ヲ受クルトキハ其給料ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以

テ支給ヲ停メ其給料ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス

三 五箇年以上受領ヲ怠リタルトキハ受領ヲ怠リタル支給期月ノ翌月ヨリ起算シ其怠リタル期ノ支給ヲ廢ス

四 公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラルヘキ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日ヲ以テ支給ヲ停メ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス(同上本條改正)

第十四條 扶助料支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

- 一 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタル日重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告ヲ受タル日ヲ以テ支給ヲ終ル
 - 二 公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラルヘキ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日ヲ以テ支給ヲ停メ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス
 - 三 公權停止中轉給ヲ受ケヘキ者ノ支給ハ本人停止ノ翌日ヲ以テ始メ復給ノ前日ヲ以テ終ル
- 第十五條 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第三條ニ掲ケタル增加退隱料ノ等差ハ左ノ如シ
- 第一項 兩限ヲ官シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ 十分ノ七
 - 第二項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ六
 - 第三項 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ五
 - 第四項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ四
 - 第五項 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ三
 - 第六項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ二
- 傷痍疾病ノ等差ハ明治十八年太政官達第十六號文官傷痍疾病等差例ニ依ル
- 第十六條 退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者他ノ市町村ニ轉籍若クハ寄留スルトキハ轉籍若クハ寄留シタル地

ノ市町村長ヲ經テ府縣知事ニ届出ヘシ

他ノ府縣ニ轉籍若クハ寄留スルトキハ轉籍若クハ寄留シタル地ノ市町村長ヲ經テ退隱料又ハ扶助料ヲ支給スヘキ地ノ府縣知事ニ届出ヘシ

退隱料又ハ扶助料ヲ支給スヘキ地ノ府縣知事ハ每期支給スヘキ退隱料又ハ扶助料ヲ轉籍若クハ寄留シタル地ノ府縣知事ニ送付シ其支給方ヲ委託スヘシ

第十七條 退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ又ハ公權ヲ停止セラレタルトキハ本籍市町村長ヨリ退隱料又ハ扶助料ヲ支給スヘキ地ノ府縣知事ニ報告スヘシ

第十八條 退隱料ヲ受クル者公務ニ就キタルトキハ其所屬主長ヨリ退隱料ヲ支給スヘキ地ノ府縣知事ニ報告スヘシ解職シタルトキ亦同シ其有給者ニ係ル報告書ニハ給料額及給料ノ支給ヲ始ムル日解職ノトキハ

第十九條 第十七條ノ場合ニ於テ扶助料ヲ受クヘキ者又ハ其轉給ヲ受クヘキ者ナキトキ又ハ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ失ヒ若クハ扶助料ノ支給ヲ廢スヘキ者ニ係ルトキハ本籍市町村長ハ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ收メテ退隱料又ハ扶助料ヲ支給スヘキ地ノ府縣知事ニ送付スヘシ

本人他ノ市町村ニ居住セル場合ニ於テハ該市町村長ニ委託シテ之ヲ收ムルコトヲ得

第四章 雜 則

第二十條 府縣知事ハ第五條又ハ第九條ニ依リ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ本人ニ交付スルト同時ニ之ヲ其本籍市町村長ニ通知スヘシ

第二十一條 水火災盜難等ニ依リ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ亡失シタル者ハ居住地ノ市町村長ヲ經テ退隱料又ハ扶助料ヲ支給スヘキ地ノ府縣知事ニ届出ヘシ

府縣知事ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ調査シ退隱料證書又ハ扶助料證書ノ謄本ヲ作り之ヲ交付スヘシ

第二十二條 退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者氏名ヲ改メタルトキハ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ添へ居住地ノ市町村長ヲ經テ退隱料又ハ扶助料ヲ支給スヘキ地ノ府縣知事ニ届出ヘシ府縣知事ハ證書ノ裏面ニ其事

實ヲ記載シ署名捺印シテ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第二十三條 此規則ニ規定スル府縣知事ノ職務ハ北海道ニ於テハ北海道廳長官之ヲ行ヒ市町村長ノ職務ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ島司郡區長戸長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フヘシ

○教員退隱料又ハ遺族扶助料ニ關シ權利ヲ障害セラレタルモノ、救正方

明治二十五年四月二日 勅令第三十二號

府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員舎監書記並市町村立小學校正教員ノ退隱料又ハ遺族扶助料ニ關シ行政上ノ處分ニ依リ權利ヲ障害セラレタルトスル者ハ一箇年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但左ノ事件ニ關シテハ文部大臣若クハ府縣知事ノ裁定ハ終審確定ノモノトス(明治三十二年勅令第百九十八號ヲ以テ改正)

- 一 傷病疾病ノ原因及其輕重
- 二 職務ニ堪ユルト否ヲサルト

○小學校令ヲ施行セサル地方ニ於ケル教員退隱料及遺族扶助料法施行上正教員准教員ノ區別

明治二十四年十一月十七日 文部省令第二十四號

明治二十三年(十月)勅令第二百十五號小學校令ヲ施行セサル地方又ハ同令中教員ニ關スル條規ヲ施行セサル地方ニ於テ明治二十三年(十月)法律第九十號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法施行上正教員准教員ノ別ハ市町村立小學校教員中訓導ヲ以テ正教員トシ授業生ヲ以テ准教員トスヘシ但本令ニ依リ難キモ

ノアル場合ニ於テハ北海道廳長官府縣知事ハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケテ特別ノ處分ヲナスコトヲ得

○市町村立小學校教員退隱料等ノ支給上ニ關スル
在職年數算定方

明治三十五年二月八日
勅令第十八號

- 第一條 市町村立小學校教員退隱料等ノ支給上ニ關スル正教員ノ在職年數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終リトス
- 第二條 左ニ掲ケル年數及月數ハ正教員在職年數ニ算入スヘシ
 - 一 市町村立小學校正教員休職中ノ年數及月數
 - 二 明治十四年六月以後市町村立小學校訓導ノ職ニ在リタル年數及月數
- 第三條 左ニ掲ケル年數及月數ハ正教員在職年數ヨリ除算スヘシ
 - 一 (明治三十二年勅令第百九十七號ヲ以テ削除)
 - 二 自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若ハ失職ニ該當シタル者再就職シタルトキハ其ノ前在職ノ年數及月數(同上)
 - 三 (同上)
 - 四 恩給若クハ退隱料ヲ受クヘキ職ニ在ル者ニシテ市町村立小學校正教員ヲ兼ヌルトキハ其兼職中ノ年數及月數

○市町村立小學校廢止ノ際即日他ノ市町村立小學校教員ニ任セララルモノ、勤續方

明治二十七年二月十日
文部省令第三號

市町村立小學校廢止ノ際其ノ小學校教員ノ職ニ在ル者即日他ノ市町村立小學校教員ニ任セララル、トキハ勤續者トス

○府縣小學校教員恩給基金管理規則

明治三十四年十月九日
文部省令第七號

明治二十三年(十月)法律第九十號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條ニ基キ府縣小學校教員恩給基金管理規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

府縣小學校教員恩給基金管理規則

- 第一條 小學校教員恩給基金ハ他ノ府縣有財產ト區分シテ之ヲ管理スヘシ
- 第二條 小學校教員恩給基金ハ現金又ハ國債證書トシ總テ大藏省預金局ニ寄託スヘシ(明治三十一年文部省令第九號ヲ以テ改正)
- 第三條 當該年度ノ支出ニ充テタル小學校教員恩給基金ノ利子及國庫ノ給與金其他ノ收入ニシテ殘餘アルトキハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ恩給基金ニ加入シ又ハ翌年度ヘ繰越スヘシ
- 第四條 小學校教員恩給基金ノ整理方法ハ特別ノ規定ナキモノハ總テ他ノ府縣有財產ノ例ニ依ル

○市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ノ納金收入規則地方長官ニ於テ規定方

明治三十四年十月九日
文部省令第三號

明治二十三年(十月)法律第九十號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條ノ納金收入ニ關スル規則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

○市町村納金納付方

明治三十四年四月廿六日
奈良縣訓令甲第三十號

明治二十三年法律第九十號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條第二項ノ市町村納金ハ每一ケ月ヲ翌月十日限り市ハ市長ニ町村ハ所管郡役所ヘ納付セシムヘシ

○小學校教員恩給國庫給與金豫算調書書式

明治三十二年五月十八日
文部省訓令第六號

明治二十三年法律第九十號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ依レル國庫給與金交付上ニ關シ明

治二十三年度分ヨリ左ノ書式ニ依リ毎年度豫算調書ヲ調製シ前年度七月卅一日限り當省へ差出スヘシ(三十五年十月文部省訓令第七號ヲ以テ改正)

明治二十六年文部省訓令第一號及第三號ハ廢止ス(書式)

明治何年度小學校教員恩給國庫給與金豫算調書

一金若干

小學校教員恩給國庫給與金

右ハ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條第二項ニ依リ前々年度即チ明治何年度ニ於テ實收シタル納金額若干ノ二分ノ一ニ當ル右ノ通ニ候也

年月日

北海道廳長官何府縣知事 氏

名印

文部大臣 宛

(參照)

明治二十六年文部省訓令第一號ハ府縣沖繩縣ニ對スル市町村立小學校教員恩給國庫給與金豫算調書式ノ件、同年同第三號ハ北海道廳及沖繩縣ニ對スル同上ノ件ナリ

○小學校教員退隱料及遺族扶助料證書等書式

明治二十五年二月十二日 文部省訓令第二號

北海道廳 府縣

明治二十五年(二月)文部省令第二號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則ニ依リ交付スヘキ退隱料證書及扶助料證書等ハ左ノ書式ニ依ルヘシ

退隱料證書書式

用紙ハ紙質堅緻ノモノヲ用フヘシ寸法ハ縦九寸横一尺三寸輪廓付

退隱料證書

族 籍

元何小學校訓導(准訓導)

位勳爵 氏

生 年 月

退隱料年額金若干

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ明治何年何月ヨリ前記ノ退隱料ヲ受クヘキコトヲ認メ此證書ヲ附與ス

此證書ハ市町村立小學校教員退隱料原簿第何號ニ登錄ス 北海道廳長官府縣知事位勳爵氏名印 北海道廳府縣書記官位勳爵氏名印

同上裏面

此證書ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス 水火災盜難等ニ依リ此證書ヲ亡失シタルトキハ居住地ノ市町村長ヲ經テ當廳ニ届出ヘ

本人氏名ヲ改メタルトキハ此證書ヲ添ヘ居住地ノ市町村長ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ 本人死去シタルトキ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ扶助料ヲ受クヘキ者アルトキハ扶助料請求書ニ此證書ヲ添付スヘシ扶助料ヲ受クヘキ者ナキトキハ此證書ヲ返納スヘシ 證書ノ年額ハ毎年四月七月十月一月ニ其前三箇月分ヲ給ス每期ノ給額左ノ如シ

金若干 但明治何年何月ノ給額ハ金若干 右金額ヲ受領セシトスルトキハ此證書ヲ呈示スヘシ

扶助料證書書式

用紙方法トモ退隱料證書書式ニ同シ

扶助料證書

族籍

故何小學校訓導位勳爵氏名寡婦
(孤兒)(父)(母)(祖父)(祖母)
位勳爵氏 名

生年月

扶助料年額金若干
市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ明治何年何月ヨリ前記ノ扶助料ヲ受
クヘキコトヲ認メ此證書ヲ附與ス
年 月 日

此證書ハ市町村立小學校教員遺族扶助料原簿第何號ニ登錄ス
北海道廳長官府縣知事位勳爵氏名印
北海道廳府縣書記官位勳爵氏名印

備考 公權停止中扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ニ交付スル證書ニハ明治何年何月ヨリ「トアル」何某公權停止中」ト記
スヘシ
同上裏面

此證書ハ賣買讓與質入スルコトヲ得ス
水次災盜難等ニ依リ此證書ヲ亡シタルトキハ居住地ノ市町村長ヲ經テ當廳ニ届出ヘ
本人氏名ヲ改メタルトキハ此證書ヲ添ヘ居住地ノ市町村長ヲ經テ當廳ニ届出ヘ
本人死去又ハ權利消滅シタルトキ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ扶
助料ノ轉給ヲ受クヘキ者アルトキハ扶助料請求書ニ此證書ヲ添付スヘシ扶助料ノ轉給
ヲ受クヘキ者ナキトキハ此證書ヲ返納スヘシ
表書ノ年額ハ毎年四月七月十月一月ニ其前三箇月分ヲ給ス每期ノ給額左ノ如シ
金若干
但明治何年何月ノ給額ハ金若干
右金額ヲ受領セントスルトキハ此證書ヲ呈示スヘシ

給與金辭令書書式

用紙適宜輪廓ナシ

元何小學校訓導

位勳爵氏 名

給與金若干

右市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ之ヲ給ス

年 月 日

北海道廳府縣

備考

支給規則第十條ノ給與金ノ辭令書ニハ本人肩書ヲ故何小學校訓導位勳爵氏名兄(弟)(姉)(妹)ト記シ兄弟姉妹數名
ノトキハ連名ニスヘシ

扶助金辭令書書式

用紙給與金辭令書書式ニ同シ

故何小學校訓導位勳爵氏名
寡婦(孤兒)(父)(母)(祖父)(祖母)
位勳爵氏 名

扶助金若干

右市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ之ヲ給ス

年 月 日

北海道廳府縣

○學校職員恩給審査規程

明治二十九年七月二日
勅令第二百六十四號

第一章

公立學校職員恩給審査委員

第一條 文部省ニ公立學校職員恩給審査委員ヲ置キ委員長一人及委員四人以内ヲ以テ之ヲ組織ス
 公立學校職員恩給審査委員ハ市町村立小學校及公立實業補習學校ニアラサル公立學校ノ學校長及教員ノ
 退隱料及遺族扶助料ヲ受クヘキ資格及權利ヲ審査ス(明治三十二年勅令第
 二百號ヲ以テ改正)

第二條 公立學校職員恩給審査委員長ハ審査ニ關スル事務ヲ管理シ審査ノ結果ヲ文部大臣ニ具申ス

第三條 公立學校職員恩給審査委員長及委員ハ文部省高等官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ命ス

第四條 文部省ニ恩給顧問醫三人ヲ置キ内一人ヲ常務顧問醫トス
 恩給顧問醫ハ公立學校職員恩給審査委員長ノ諮詢ニ應シ退隱料及遺族扶助料ニ關スル醫術上ノ事項ヲ審
 査ス但委員長ニ於テ總顧問醫ノ意見ヲ聞クコトヲ必要ト認メサルモノハ常務顧問醫之ヲ審査ス

第五條 審査上特殊ノ専門家ヲ要スル場合ニ於テハ臨時顧問醫ヲ加フルコトヲ得

第六條 恩給顧問醫ハ文部大臣之ヲ命ス

第七條 常務顧問醫ニハ一箇年五百圓以内其ノ他ノ顧問醫ニハ事件ノ輕重難易ヲ斟酌シ每件三圓以上十圓
 以下ノ手當ヲ給ス

第八條 公立學校職員恩給審査委員ノ事務ニ關シ書記ヲ置キ文部屬ヲ以テ之ニ充ツ

第二章 市町村立小學校教員恩給審査委員

第九條 北海道廳府縣ニ市町村立小學校教員恩給審査委員ヲ置キ委員長一人及委員四人以内ヲ以テ之ヲ組
 織ス
 市町村立小學校教員恩給審査委員ハ市町村立小學校教員並ニ公立實業補習學校ノ學校長及教員ノ退隱料
 及遺族扶助料ヲ受クヘキ資格及權利ヲ審査ス(上同)

第十條 市町村立小學校教員恩給審査委員長ハ審査ニ關スル事務ヲ管理シ審査ノ結果ヲ北海道廳長官府縣
 知事ニ具申ス

第十一條 市町村立小學校教員恩給審査委員長ハ其ノ廳高等官委員ハ其ノ廳官吏ノ中ヨリ北海道廳長官府
 縣知事之ヲ命ス

第十二條 北海道廳府縣ニ恩給顧問醫三人以内ヲ置ク
 恩給顧問醫ハ市町村立小學校教員恩給審査委員長ノ諮詢ニ應シ退隱料及遺族扶助料ニ關スル醫術上ノ事
 項ヲ審査ス

第十三條 審査上特殊ノ専門家ヲ要スル場合ニ於テハ臨時顧問醫ヲ加フルコトヲ得

第十四條 恩給顧問醫ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ命ス

第十五條 顧問醫ニハ相當ノ手當ヲ給ス其ノ費用ハ北海道廳及沖繩縣ニ在テハ地方經濟ニ屬スル費用ノ負
 擔トシ其ノ他ノ府縣ニ在テハ府縣ノ負擔トス

第十六條 市町村立小學校教員恩給審査委員ノ事務ニ關シ書記ヲ置キ北海道廳府縣屬ヲ以テ之ニ充ツ

○恩給顧問醫ノ醫術上ノ事項審査ニ關スル規定明治三十三年六月二十日
 勅令第二六九號

北海道廳府縣恩給顧問醫ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ公立學校職員ノ進退ニ關シ醫術上ノ事項ヲ審査ス

○小學校教員恩給基金收入取扱手續明治三十三年三月廿一日
 奈良縣訓令甲第二十三號

明治二十九年(三月)奈良縣訓令第二十七號小學校教員恩給基金收入取扱手續左ノ通り改正シ明治三十二年
 度ヨリ施行ス

小學校教員恩給基金收入取扱手續

第一條 小學校教員恩給基金ノ公債元利金及小學校教員恩給金ニ對スル國庫給與金ハ本廳縣出納吏ニ於テ

內務部
 郡役所
 市役所

但本訓令ニ抵觸スル從前ノ訓令ハ總テ廢止ス
 一 郡長及學校長ハ毎月納付スル國庫納金額ヲ取調ヘ別記第一號書式ノ報告書ヲ調製シ其月廿三日限り歳入徵收官ニ送付スヘシ
 一 各廳會計吏ニ於テ差引シタル納金ハ左ノ區別ニ從ヒ毎月廿五日迄ニ別記第二號書式ノ送納書ヲ添ヘ納付スヘシ
 一 師範學校、高等女學校職員ノ納金ハ本廳主任收入官吏ヘ
 一 前項外ノ納金ハ各所在郡役所分任收入官吏ヘ
 一 明治二十五年一月勅令第五號第三條ノ納金ハ郡長ニ於テ納入告知書ヲ發シ納入スヘシ
 一 郡立學校ニ屬スル納金ハ本訓令ニ準シ取扱ハシムヘシ
 (第一號書式) 用紙半紙野紙
 何年何月分國庫納金額報告書

一金何程
 內 譯

納 金 額	事 由	俸 給 額	官 (職) 氏 名

右及報告候也
 年 月 日

官(職) 氏 名 印

歳入徵收官官氏名宛

備考

- 一 事由ノ欄ニハ俸給ノ日割計算等納金額算出ノ基礎ヲ詳細ニ記入スヘシ
 - 一 俸給額ノ欄ニハ現俸額ヲ記入スルモノトス
- (第二號書式) 用紙半紙野紙
 何年何月分國庫納金送納書

一金何程

但官(職)何某外何名分國庫納金
 右及送納候也

年 月 日

收入官吏官氏名宛

會計吏 官 氏 名 印

◎第二編 中學校及高等女學校

◎總規

○中學校令

明治三十二年二月六日
勅令第二十八號

朕中學校令ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 中學校ハ男子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 北海道及府縣ニ於テハ土地ノ情況ニ應ジ一箇以上ノ中學校ヲ設置スヘシ

文部大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ府縣ニ中學校ノ増設ヲ命スルコトヲ得

第三條 前條ノ中學校ノ經費ハ北海道及沖繩縣ヲ除ク外府縣ノ負擔トス

第四條 郡市町村北海道及沖繩縣ノ區ヲ含ム又ハ町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其ノ區域内小學教育ノ施設

上妨ナキ場合ニ限り中學校ヲ設置スルコトヲ得

第五條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ中學校ヲ設置スルコトヲ得

第六條 土地ノ情況ニ依リ中學校ノ分校ヲ必要トスルトキハ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ設置スルコトヲ得

但シ一校ニ付一分校ニ限ル

第七條 中學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

中學校ノ設置廢止ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條 公立中學校ノ位置ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第九條 中學校ノ修業年限ハ五箇年トス但シ一箇年以内ノ補習科ヲ置クコトヲ得

第十條 中學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒リタル者

又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第十一條 中學校ノ學科及其程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十二條 中學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ地方長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科書ヲ使用スル必要アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ一時其ノ使用ヲ認可スルコトヲ得

中學校教科書ノ檢定ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十三條 中學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル教員免許狀ヲ有スル者タルヘン但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ本文ノ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

中學校教員免許狀ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十四條 公立中學校職員ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル規則ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第十五條 中學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十六條 公立中學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘン但シ特別ノ場合ニ於テハ之ヲ減免スルコトヲ得

授業料入學料等ニ關スル規則ハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第十七條 本令ノ規定ニ依ラサル學校ハ中學校ト稱スルコトヲ得ス

第十八條 本令施行ノ爲メニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

第十九條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第二十條 既設ノ尋常中學校分枝ニシテ第六條ノ制限ニ超過スルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經テ本令施行ノ日ヨリ五箇年以内存置スルコトヲ得

第二十一條 明治十九年勅令第十五號中學校令第十二條ニ依リ設置シタル農業工業商業等ノ專修科ハ本令施行ノ日ニ於テ現ニ在學スル生徒ノ卒業スル迄之ヲ存置スルコトヲ得

第二十二條 既設ノ公立尋常中學校ハ本令施行ノ日ヨリ中學校ト改稱ス

他ノ法令中尋常中學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然中學校ト看做ス

○中學校令施行規則

明治三十四年三月五日
文部省令第三號

中學校令施行規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一章 學科及其ノ程度

第二章 學年教授日數及式日

第三章 編制

第四章 設備

第五章 設備及廢止

第六章 入學、在學、退學及懲戒

第七章 補則

第八章 附則

中學校令施行規則

第一章 學科及其ノ程度

第一條 中學校ノ學科目ハ修身、國語及漢文、外國語、歴史、地理、數學、博物、物理及化學、法制及經濟、圖畫、唱歌、體操トス

外國語ハ英語、獨語、又ハ佛語トス

法制及經濟唱歌ハ當分之ヲ缺クコトヲ得、

第二條 修身ハ教育ニ關スル勸諭ノ趣旨ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ中等以上ノ社會ニ於ケル男子ニ必要ナル品格ヲ具ヘシメシテ期シ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス

修身ハ初ハ嘉言善行等ニ徴シ生徒日常ノ行狀ニ因ミテ道德ノ要領ヲ教示シ進ミテハ稍々秩序ヲ整ヘテ自己、家族、社會及國家ニ對スル義務ヲ知ラシメ又倫理學ノ一斑ヲ授クヘシ

第三條 國語及漢文ハ普通ノ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ得シメ文學上ノ趣味ヲ養ヒ兼テ智徳ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス

國語及漢文ハ現時ノ國文ヲ主トシテ講讀セシメ進ミテハ近古ノ國文ニ及ホシ又實用簡易ナル文ヲ作ラシメメ文法ノ大要、國文學史ノ一斑ヲ授ケ又平易ナル漢文ヲ講讀セシメ且習字ヲ授クヘシ

第四條 外國語ハ普通ノ英語、獨語又ハ佛語ヲ了解シ且之ヲ運用スルノ能ヲ得シメ兼テ智識ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字ヨリ始メ簡易ナル文章ノ讀方、譯解、書取、作文ヲ授ケ進ミテハ普通ノ文章ニ及ホシ又文法ノ大要、會話及習字ヲ授クヘシ

第五條 歴史ハ歴史上重要ナル事蹟ヲ知ラシメ社會ノ變遷、邦國、盛衰ノ由ル所ヲ理會セシメ特ニ我國ノ發達ヲ詳ニシ國體ノ特異ナル所以ヲ明ニスルヲ以テ要旨トス

歴史ハ日本歴史及外國歴史トシ、日本歴史ニ於テハ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ重要ナル事蹟ヲ授ケ外國歴史ニ於テハ世界大勢ノ變遷ニ關スル事蹟ヲ主トシ著名ナル諸國ノ興亡、人文ノ發達及我國ノ文化ニ關係アル事蹟ノ大要ヲ知ラシムヘシ

第六條 地理ハ地球ノ形狀、運動並ニ地球表面及人類生活ノ狀態ヲ理會セシメ我國及諸外國ノ國勢ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ日本地理並ニ我國ト重要ノ關係アル諸外國ノ地理ノ大要ヲ知ラシメ又地文ノ一斑ヲ授クヘシ

第七條 數學ハ數量ノ關係ヲ明ニシ計算ニ習熟セシメ兼テ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ算術、代數、幾何及三角法ヲ授クヘシ(明治三十五年二月省令第二號ヲ以テ改正)

第八條 博物ハ天然物ニ關スル智識ヲ與ヘ其ノ相互及人生ニ對スル關係ヲ理會セシムルヲ以テ要旨トス

博物ハ重要ナル植物、動物、礦物ニ關スル一般ノ智識并ニ人體ノ構造、生理及衛生ノ大要ヲ授クヘシ

第九條 物理及化學ハ自然ノ現象ニ關スル智識ヲ與ヘ其法則并ニ人生ニ對スル關係ヲ理會セシムルヲ以テ要旨トス

物理及化學ハ重要ナル物理上及化學上ノ現象及定律、器械ノ構造及作用、元素及化合物ニ關スル智識ヲ授クヘシ

第十條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民ノ生活ニ必要ナル智識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

法制及經濟ハ現行法規ノ大要及理財、財政ノ一斑ヲ授クヘシ

第十一條 圖畫ハ物體ヲ精密ニ觀察シ正確且自由ニ之ヲ畫クノ能ヲ得シメ意匠ヲ練リ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス

圖畫ハ自在畫及用器畫トシ自在畫ニ於テハ寫生畫ヲ主トシ臨畫ヲ加ヘ授ケ又時々自己ノ考案ヲ以テ畫カシメ用器畫ニ於テハ幾何畫ヲ授クヘシ

第十二條 唱歌ハ歌曲ヲ唱フコトヲ得シメ美感ヲ養ヒ心情ヲ高潔ニシ兼テ徳性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス

唱歌ハ單音唱歌ヲ授ケ又便宜輪唱歌、複音唱歌ヲ授クヘシ

第十三條 體操ハ身体ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメテ之ヲ強健ナラシメ四肢ノ動作ヲ機敏ナラシメ精神ヲ快活剛毅ナラシメ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ普通體操及兵式體操トシ普通體操ニ於テハ矯正術、徒手體操、嘯鈴體操、球竿體操及棍棒體操ヲ授ケ兵式體操ニ於テハ柔軟體操、器械體操、各個教練、小隊教練及中隊教練ヲ授ケヘシ

第十四條 各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年				
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	一	一	一	一	一
國語及漢文	七	七	七	六	一
外國語	六	六	七	七	六
歷史			三	三	七
地理			三	三	六
數學			四	四	三
博物學	二	二	四	二	四
物理及化學			一	二	四
法制及經濟					三三四
圖畫	一		一	一	
唱歌	一	一	一	一	
體操	三	三	三	三	三

計 二二八 二二八 二二九 三〇〇 三〇〇

前表ノ外生徒ノ志望ニ依リ第五學年ニ於テ圖畫一時ヲ課スルコトヲ得

體操ハ前表ノ教授時數ヲノ時以內増加シテ之レヲ課スルコトヲ得 (全上)

法制及經濟ヲ缺キタル學校ニ於テハ其ノ每週教授時數ハ外國語、歷史、地理ニ唱歌ヲ缺キタル學校ニ於テハ其每週教授時數ハ圖畫ニ配當スヘシ

第十五條 補習科ノ學科目ハ第一條ノ學科目中ニ就キ之ヲ定ムヘシ

補習科ノ各學科目ハ隨意科目ト爲スコトヲ得

第二章 學年、教授日數及式日

第十六條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

學年ハ分テ三學期トシ第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日マテトシ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日マテトシ第三學期ハ翌年一月一日ヨリ三月三十一日マテトス

前二項ノ規定ハ補習科ニ關シテハ之ヲ適用セス

第十七條 教授日數ハ每學年二百日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此限リニアラス

試驗及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第十八條 傳染病豫防ノ爲メ必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ事由アルトキハ地方長官ハ道廳府縣立以外ノ中學校ノ休業ヲ命スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ事由ヲ具シ遲滯ナク文部大臣ニ届出ツヘシ

第十九條 紀元節、天長節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章 編制

第二十條 中學校ノ生徒數ハ四百人以下トス但シ特別ノ事情アルトキハ六百人マテ之ヲ増スコトヲ得
分校ノ生徒數ハ三百人以下トス

補習科ノ生徒數ハ前學年ニ於テ當該學校ヲ卒業シタル者ノ數ヲ超ユルコトヲ得ス
前項ノ生徒數ハ第一項ノ生徒數ニ算入セス

第二十一條 學級ハ全學年ノ生徒ヲ以テ之ヲ編制スヘシ
一學級ノ生徒數ハ五十人以下トス

第二十二條 修身、唱歌及體操ハ學年又ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得
第二十三條 分校ニハ第四學年以上ノ生徒ヲ置クコトヲ得ス

第二十四條 教員ノ數ハ五學級以下ノ學校ニ於テハ一學級毎ニ二人以上トシ五學級以上一學級ヲ加フル毎
ニ一人半以上ノ割合ヲ以テ之ヲ増スヘシ但シ一學級毎ニ一人ハ他ノ職ヲ兼ス又ハ他ノ職ヨリ兼ササル
コトヲ要ス

第四章 設 備

第二十五條 中學校又ハ其分校ニ於テハ校地、校舍、寄宿舎、體操場及校具ヲ備フヘシ且ツ文部大臣ノ認可
ヲ受ケ寄宿舎ヲ備ヘサルコトヲ得

第二十六條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ道德上并ニ衛生上害ナキ所タルヘシ

第二十七條 校舍ハ教授上、管理上并ニ衛生上適當ニシテ質朴堅牢ナラシムコトヲ要ス

第二十八條 校舍ニハ左ノ諸室ヲ備フヘシ
一 通常教室

二 博物、物理及化學、圖畫ノ各特別教室
三 講堂

四 圖書室、器械室、標本室

五 職員室、生徒控所、其他必要ナル諸室

博物、物理及化學ノ特別教室ハ便宜兼用スルコトヲ得
講堂、教室ハ便宜兼用スルコトヲ得

圖書室、器械室、標本室、職員室ハ便宜兼用スルコトヲ得

第二十九條 教室ノ大ハ一學級ノ生徒ヲ容ルニ足ルヲ度トシ生徒一人ニ付容積百二十立方尺ノ割合ヨリ小
ナルヘカラス

第三十條 寄宿舎ニハ自修室、寢室、舍監室、食堂、應接所、浴室、盥嗽所、病室等ヲ備フヘシ
自修室、寢室ハ便宜兼用スルコトヲ得

第三十一條 自修室ノ大ハ生徒一人ニ付容積三百二十四立方尺、寢室ノ大ハ生徒一人ニ付容積四百八十六
立方尺、自修室、寢室ヲ兼用スルトキハ生徒一人ニ付容積五百六十七立方尺ノ割合ヨリ小ナルヘカラス

第三十二條 體操場ハ分テ屋外體操場及屋内體操場トス
屋外體操場ハ方形若ハ之ニ類スル形狀ニシテ二千坪以上ノ面積ヲ備フヘシ
但特別ノ事情アルトキハ千坪迄ニ減スルコトヲ得

屋内體操場ハ生徒控所ニ兼用シ又ハ土地ノ情況ニ依リ之ヲ設ケサルコトヲ得

第三十三條 校具ハ圖書、器械、器具、標本、模型及表簿等トス

第三十四條 中學校又ハ其ノ分校ニ於テ備フヘキ表簿ノ種類左ノ如シ

一 中學校ニ關係アル法令

二 學則、日課表、教科用圖書配當表及學校醫視察簿

三 職員ノ名簿、履歷書、出勤簿並ニ擔任學科目及時間表

四 生徒ノ學籍簿、出席簿、身體檢查ニ關スル表及徴兵猶豫ニ關スル書類
 五 入學試験及學年試験ノ問題、答案及成績表
 六 資産原簿、出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿及圖書、器械、器具、標本、模型ノ目錄
 七 往復書類

生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族籍、居所、生年月、入學前ノ學歷、入學、轉學、退學ノ年月日及其學年、卒業ノ年月日、入學試験ノ有無、轉學、退學ノ事由、徴兵事故、保證人氏名及居所等ヲ記載スヘシ(全上)

第一項ノ表簿中生徒學籍簿ハ永久之ヲ保存シ其ノ他ノ表簿ハ五ヶ年以上之ヲ保存スヘシ

第三十五條 土地ノ情況ニ依リ學校長、舍監及教員ノ住宅ヲ設クヘシ

第三十六條 校舍、寄宿舎ノ建設又ハ變更ハ道廳府縣立中學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ届出ツヘク其他ノ中學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ニ依リ地方長官ニ於テ認可ヲ爲シタルトキハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ届出ツヘシ

第三十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ假校舍ヲ使用スルコトヲ得

一 新ニ中學校又ハ其分校ヲ設置スルトキ

二 非常變災アリタルトキ

前項第一號ノ場合ニ於ケル假校舍ノ使用ハ道廳府縣立中學校ニ在リテハ文部大臣ニ届出ツヘク其ノ他ノ中學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ第一號ノ場合ニ於ケル假校舍ノ使用ハ文部大臣ニ届出ツヘシ

前項ニ依リ地方長官ニ於テ認可ヲ爲シタルトキハ文部大臣ニ届出ツヘシ

假校舍使用ニ關スル認可申請又ハ届出ヲ爲ストキハ其ノ事由及使用期間ヲ具シ且前條及次條第四項ノ圖面分拆表ヲ添付スヘシ

第五章 設置及廢止

第二十八條 中學校又ハ其分校ノ設置ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

一 名稱

二 生徒定員

三 開校年月

四 經費及維持ノ方法

前項ノ事項ノ外公立學校ニ就キテハ地方長官ニ於テ位置ノ認可ヲ申請シ私立學校ニ就キテハ設立者ニ於テ位置ヲ具シ申請スヘシ

第一項第一號乃至第三號及位置ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前二項ノ位置ニ關スル申請ニハ校地ノ面積、地質、屋外體操場ノ區域、面積并ニ附近ノ情況ヲ記載シタル圖面及飲用水ノ定性分拆表ヲ添付スヘシ

第三十九條 中學校又ハ其分校ノ廢止ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

第四十條 公立中學校ノ費用負擔者ヲ變更シ、私立中學校ヲ公立中學校ニ公立中學校ヲ私立中學校ニ變更シ、若ハ分校ヲ獨立ノ中學校ト爲サントスルトキハ第三十八條第一項ノ事項ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六章 入學、在學、退學及懲戒

第四十一條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス但缺員アルトキハ第二學期及第三學期ノ始ヨリ十日以内ニ臨時入學セシムルコトヲ得

第四十二條 第一學年入學志願者中高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒業シタル者ニ就キテハ試験ニ依リテ其學力ヲ檢定スヘシ

第一學年入學志願者中高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒業シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チテ入學ヲ許スコトヲ得

高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒業シタル者ノ數入學ヲ許スヘキ人員ニ超過スルトキハ試験ニ依リテ入學者ヲ選拔スヘシ

第四十三條 前條第一項ノ試験ハ國語、算術、日本歴史、地理ニ就キ同條第三項ノ試験ハ國語、算術ニ就キ高等小學校第二學年ノ程度ニ依リテ之ヲ行フヘシ

第四十四條 第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ相當年齢ニ達シ前各學年ノ課程ヲ卒業シタル者ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其各學科目ニ就キ試験ニ依リテ檢定スヘシ

第四十五條 中學校生徒ニシテ退學シタル者一ケ年以内ニ其中學校ニ再入學ヲ志願シタルトキハ試験ニ依ラスシテ原學年以下ノ學年ニ入學ヲ許可スルコトヲ得

第四十六條 他ノ中學校ニ轉學ヲ志望スル生徒アルトキハ學校長ハ正當ノ事由アリト認めタル場合ニ限り其ノ生徒ノ在學證書及成績表ヲ移轉先學校ニ送付スヘシ

移轉先學校ニ於テハ缺員アル場合ニ依リ前項生徒ノ轉學ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ轉學ヲ許可スル生徒ハ試験ヲ行ハスシテ全一學年ニ編入スルコトヲ得

第四十七條 各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ

試験ハ分テ學期試験及學年試験トシ學期試験ハ第一學期及第二學期內ニ於テ之ヲ行ヒ學年試験ハ學年末

ニ於テ之ヲ行フヘシ

但シ正當ノ事由アリテ試験ニ缺席シタル者ノ爲メ特ニ追試験ヲ行フコトヲ得(全上)

試験ハ國語、漢文、外國語、數學、圖畫、唱歌、體操ニ就キテハ之ヲ行ハサルコトヲ得

第四十八條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第四十九條 學校長ハ中學校ヲ卒業セリト認めタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

第五十條 補習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校ヲ卒業シタル者タルヘシ

學校長ハ補習科ヲ修了セリト認めタル者ニハ修業證書ヲ授與スルコトヲ得

第五十一條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

- 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認めタル者
- 二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認めタル者
- 三 引續キ一ケ年以上缺席シタル者

四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一ケ月以上缺席シタル者

第五十二條 生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十三條 學校長ハ教育上必要ト認めタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第七章 補 則

第五十四條 中學校ノ學則ヲ定メタルトキハ遲滞ナク文部大臣ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキモ亦同シ

學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

- 一 休業日ニ關スル事項
- 二 學科課程、教授時數ニ關スル事項

三 課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項(全上)

四 生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項

五 授業料、入學料等ニ關スル事項

六 寄宿舎ニ關スル事項

第五十五條 道廳府縣立以外ノ中學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第五十六條 本令中、學校ノ設置及廢止ニ關スル申請ニ就キテハ地方長官ハ其意見ヲ具スヘシ

第五十七條 本令中、學校長トアルハ私立學校ニ在リテハ其學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ヲ包含ス

第五十八條 本令ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

第五十九條 本令施行ノ際現ニ中學校ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ其生徒ノ卒業スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第六十條 明治二十七年文部省令第七號及全第十三號ノ規定ニ依リ設ケタル中學校ノ實科ハ本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ノ卒業スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依ル

第六十一條 明治十九年文部省令第十四號、明治二十七年文部省令第七號、全第十三號、明治三十二年文部省令第三號、全第四號、全第十四號、全第二十三號ハ之ヲ廢止ス

○高等女學校令 明治三十二年二月七日 勅令第三十一號

第一條 高等女學校ハ女子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 北海道及府縣ニ於テハ高等女學校ヲ設置スヘシ

前項ノ校數ハ土地ノ情況ニ應シ文部大臣ノ指揮ヲ承ケ地方長官之ヲ定ム

第三條 前條ノ高等女學校ノ經費ハ北海道及沖繩縣ヲ除ク外府縣ノ負擔トス

第四條 郡市町村北海道及沖繩縣ノ區ヲ含ム又ハ町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其ノ區域内小學校教育ノ施設上妨ナキ場合ニ限り高等女學校ヲ設置スルコトヲ得

第五條 郡市町村立ノ高等女學校ニシテ府縣立高等女學校ニ代用スルニ足ルヘキモノアルトキハ地方長官ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ府縣費ヲ以テ相當ノ補助ヲ與ヘ第二條ノ設置ニ代フルコトヲ得

第六條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ高等女學校ヲ設置スルコトヲ得

第七條 高等女學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 公立高等女學校ノ位置ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第九條 高等女學校ノ修業年限ハ四箇年トス但シ土地ノ情況ニ依リ一箇年ヲ伸縮スルコトヲ得

第十條 高等女學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒リタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第十一條 高等女學校ニ於テハ女子ニ必要ナル技藝ヲ專修セントスル者ノ爲ニ技藝專修科ヲ置クコトヲ得

第十二條 高等女學校ノ學科及其程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十三條 高等女學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ地方長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科書ヲ使用スルノ必要アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ一時其ノ使用ヲ認可スルコトヲ得

高等女學校教科書ノ檢定ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム(明治三十二年文部省令第二十三號)

第十四條 高等女學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ本文ノ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

高等女學校教員ノ免許ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十五條 公立高等女學校職員ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル規則ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第十六條 高等女學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 公立高等女學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニ於テハ之ヲ減免スルコトヲ得

授業料入學料等ニ關スル規則ハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第十八條 本令ノ規定ニ依ラサル學校ハ高等女學校ト稱スルコトヲ得ス

第十九條 本令施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

第二十條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令施行ノ日ヨリ四箇年以内第二條ノ設置ヲ延期スルコトヲ得

○高等女學校令施行規則

明治三十四年三月二十二日 文部省令第四號

高等女學校令施行規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一章 高等女學校令施行規則

第一章

學科及其ノ程度

第二章 學年、教授日數及式日

第三章 偏制

第四章 設備

第五章 設置及廢止

第六章 入學、在學、退學及懲戒

第七章 補則

第八章 附則

高等女學校令施行規則

第一章 學科及其ノ程度

第一條 高等女學校ノ學科目ハ修身、國語、外國語、歷史、地理、數學、理科、圖畫、家事、裁縫、音樂、體操トス但シ修業年限ヲ短縮シタル學校ニ於テハ外國語ヲ缺ク

外國語ハ英語又ハ佛語トス

外國語ハ之ヲ缺キ又ハ隨意科目ト爲スコトヲ得

音樂ハ學習困難ナリト認メタル生徒ニハ之ヲ課セサルコトヲ得

第一項ノ學科目ノ外隨意科目トシテ教育、手藝ノ一科目又ハ二科目ヲ加フルコトヲ得但シ修業年限ヲ短縮シタル學校ニ於テハ此限ニアラス

第二條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ中等以上ノ社會ニ於ケル女子ニ必要ナル品格ヲ具ヘシメテ期シ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス

修身ハ初ハ嘉言善行等ニ徴シ又生徒日常ノ行狀ニ因ミテ道德ノ要領ヲ教示シ又作法ヲ授ケ進ミテハ稍々秩序ヲ整ヘテ自己、家族、社會及國家ニ對スル義務ヲ知ラシムヘシ

第三條 國語ハ普通ノ言語、文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ得シメ文學上ノ趣味ヲ養ヒ

兼テ智徳ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス

國語ハ現時ノ文章ヲ主トシテ講讀セシメ進ミテハ近古ノ文章ニ及ホシ又實用簡易ナル文ヲ作ラシメ文法ノ大要及習字ヲ授クヘシ

第四條 外國語ハ普通ノ英語又ハ佛語ヲ了解シ且之ヲ運用スルノ能ヲ得シメ兼テ智識ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字ヨリ始メ簡易ナル文章ノ讀方、譯解、書取、作文ヲ授ケ進ミテハ普通ノ文章ニ及ホシ又文法ノ大要、會話及習字ヲ授クヘシ

第五條 歴史ハ歴史上重要ナル事蹟ヲ知ラシメ社會ノ變遷、文化ノ由來ヲ理會セシメ特ニ我國ノ發達ヲ詳ニシ國體ノ特異ナル所以ヲ明ニスルヲ以テ要旨トス

第六條 地理ハ地球ノ形狀、運動并ニ地球表面及人類生活ノ狀態ヲ理會セシメ我國及諸外國ノ國勢ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

第七條 數學ハ數量ノ關係ヲ明ニシ計算ニ習熟セシメ兼テ生活上必要ナル事項ヲ知ラシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

第八條 理科ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則并ニ其ノ相互及人生ニ對スル關係ヲ理會及化學上ノ現象及定律、器械ノ構造及作用、元素及化合物ニ關スル智識ヲ授クヘシ

第九條 圖畫ハ物體ヲ精密ニ觀察シ正確且自由ニ之ヲ畫クノ能ヲ得シメ意匠ヲ練リ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス

第十條 家事ハ家事整理上必要ナル知識ヲ得シメ兼テ勤勉、節儉、秩序、周密、精潔ヲ尙フノ念ヲ養フヲ以テ要旨トス

第十一條 裁縫ハ裁縫ニ關スル知識技能ヲ能シメ兼テ節約利用ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

第十二條 音樂ハ音樂ニ關スル知識技能ヲ得シメ美感ヲ養ヒ心情ヲ高潔ニシ兼テ徳性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス

第十三條 體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメテ之ヲ強健ナラシメ四肢ノ動作ヲ機敏ナラシメ容儀ヲ整ヘ精神ヲ快活ニシ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

第十四條 教育ハ教育ニ關スル普通ノ知識ヲ得シメ家庭教育ニ資スルヲ以テ要旨トス教育ハ教育ノ理論ノ大要ヲ授クヘシ

第十五條 手藝ハ女子ニ適切ナル手藝ヲ習ハシメ指手ノ動作ヲ巧緻ナラシメ兼テ勤勉ヲ好ムノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

兼テ智徳ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス

手藝ハ編物、組絲、襪物、刺繡、造花等土地ノ情況ニ適切ナルモノヲ授クヘシ
 第十六條 各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年				
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	二	二	二	二	二
國語	六	六	六	五	五
外國語	三	三	三	三	三
歷史					
地理	三	三	三	二	三
數學	二	二	二	二	二
理科					
圖畫	一	一	一	一	一
家事					
裁縫	四	四	四	四	四
音樂	二	二	二	二	二
體育	三	三	三	三	三
合計	二八	二八	二八	二八	二八

教育ヲ加ヘタルトキハ其每週教授時數ハ二時トシ第四學年ニ於テ國語ノ每週教授時數ヲ減シテ之ニ充テ
 手藝ヲ加ヘタルトキハ其每週教授時數ハ二時トシ二學年以上裁縫ノ每週教授時數ヲ減シテ之ニ充ツヘシ
 又外國語ヲ缺キタル學校ニ於テハ其每週教授時數ハ便宜他ノ學科目ニ配當スヘシ
 修業年限ヲ延長シタルトキハ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年				
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	二	二	二	二	二
國語	六	六	六	五	五
外國語	三	三	三	三	三
歷史					
地理	三	三	三	二	三
數學	二	二	二	二	二
理科					
圖畫	一	一	一	一	一
家事					
裁縫	四	四	四	四	四
合計	二八	二八	二八	二八	二八

音	體	教	手	計
樂	操	育	藝	
二	三			二八
二	三			二八
二	三			二八
二	三			二八

教育ヲ加ヘタルトキハ其每週教授時數ハ二時トシ第五學年ニ於テ國語ノ每週教授時數ヲ減シテ之ニ充テ
 手藝ヲ加ヘタルトキハ其每週教授時數ハ二時トシ二學年以上裁縫ノ每週教授時數ヲ減シテ之ニ充ツヘシ
 又外國語ヲ缺キタル學校ニ於テハ其每週教授時數ハ便宜他ノ學科目ニ配當スヘシ
 修業年限ヲ短縮シタルトキハ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	第一學年	第二學年	第三學年
修身	二	二	二
國語	八	八	七
歷史			
地理	三	三	三
數學	二	二	二
理科	二	三	一
圖畫	二	一	一

家事	裁縫	音樂	體操	計
三	四	二	三	二八
三	四	二	三	二八
三	四	二	三	二八
三	四	二	三	二八

土地ノ情況ニ依リ前三表中各學科目ノ每週教授時數ヲ増減スルノ必要アルトキハ其事由ヲ具シ文部大臣
 ノ認可ヲ受クヘシ但每週教授時數ハ三十時ヲ超ユルコトヲ得ス

第十七條 補習科ノ學科目ハ第一條ノ學科目中ニ就キ之ヲ定ムヘシ
 補習科ノ各學科目ハ隨意科目ト爲スコトヲ得

第十八條 技藝專修科ノ修業年限ハ二ケ年乃至四ケ年トス

第十九條 技藝專修科ノ學科目ハ技藝ニ關スル學科目ノ外修身、國語、數學、理科、圖畫、家事、裁縫、音樂、體
 操トス

數學、理科、圖畫ハ之ヲ缺キ又ハ隨意科目ト爲スコトヲ得
 音樂ハ學習困難ナリト認メタル生徒ニハ之ヲ課セサルコトヲ得

技藝ニ關スル學科目ノ種類及各學科目ノ程度ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
 第二十條 專攻科ノ修業年限ハ二ケ年又ハ三ケ年トス

第二十一條 專攻科ノ學科目及其ノ程度ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條 補習科、技藝專修科及專攻科ノ每週教授時數ハ三十時ヲ超ユルコトヲ得ス

第三章 學年、教授日數及式日

第二十三條 高等女學校ノ學年、教授日數及式日ニ關シテハ中學校令施行規則第十六條乃至第十九條ノ規定ヲ準用ス

第三章 編制

第二十四條 高等女學校ノ生徒數、學級ノ編制及教員ノ數ニ關シテハ中學校令施行規則第二十條第一項、第二十一條及第二十四條ノ規定ヲ準用ス

第二十五條 修身、音樂、體操及手藝ハ學年又ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得 隨意科目ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ五十人ヲ超エサル場合ニ限り同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第四章 設備

第二十六條 高等女學校ニ於テハ校地、校舍、體操場及校具ヲ備フヘシ 道廳府縣立高等女學校ニ於テハ前項ノ外寄宿舎ヲ備フヘシ但シ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ備ヘサルコトヲ得

第二十七條 校地、校舍、教室、寄宿舎、校具及住宅ニ關シテハ中學校令施行規則第二十六條、第二十九條乃至第三十一條、第三十三條、第三十五條乃至第三十七條ノ規定ヲ準用ス

第二十八條 校舍ニハ左ノ諸室ヲ備フヘシ

- 一 通常教室
- 二 理科、圖畫、裁縫、音樂ノ各特別教室
- 三 講堂
- 四 圖書室、器械室、標本室
- 五 職員室、生徒扣所、其他必要ナル諸室

講堂、教室ハ便宜兼用スルコトヲ得

圖書室、器械室、標本室、職員室ハ便宜兼用スルコトヲ得

第二十九條 體操場ハ分テ屋外體操場及屋内體操場トス

屋外體操場ハ方形若ハ之ニ類スル形狀ニシテ相當ノ面積ヲ備フヘシ 屋内體操場ハ生徒控所ニ兼用スルコトヲ得

第五章 設置及廢止

第三十條 高等女學校ノ設置及廢止ニ關シテハ中學校令施行規則第三十八條乃至第四十條ノ規定ヲ準用ス 前項ノ外設置ニ關スル申請ニハ修業年限ヲ具スヘシ

第六章 入學、在學、退學及懲戒

第三十一條 高等女學校生徒ノ入學、在學、退學及懲戒ニ關シテハ中學校令施行規則第四十一條乃至第四十五條、第四十八條乃至第五十條第一項、第五十一條乃至第五十三條ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 他ノ高等女學校ヨリ轉學ヲ志望スル生徒アルトキハ學科程度同一ナル學校ニ限り試験ヲ行ハスシテ同一學年ニ編入スルコトヲ得

中學校令施行規則第四十六條第一項及第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條 各學年ノ課程ノ修了又ハ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ但シ修身、歷史、地理、理科、家事及教育ニ就キテハ試験ヲ行フコトヲ得

第三十四條 學校長ハ補習科ヲ修了シ又ハ專攻科、技藝專修科ヲ卒業セリト認メタル者ニハ修業證書又ハ卒業證書ヲ授與スヘシ

第七章 補則

第三十五條 中學校令施行規則第五十四條乃至第五十六條ノ規定ハ高等女學校ニ關シ之ヲ準用ス

第八章 附 則

- 第三十六條 本令ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス
- 第三十七條 本令施行ノ際現ニ高等女學校ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科、學科目及其ノ程度ニ關シテハ其ノ生徒ノ卒業スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得
- 第三十八條 明治三十二年文部省令第五號第十四號ノ規定ニ依リ高等女學校ノ生徒數ニ關シ文部大臣ニ於テ爲シタル指揮ハ本令ノ規定ニ依リ其ノ効力ヲ失フコトナシ
- 第三十九條 本令施行前ニ設置シタル高等女學校ニ於テ校舍及寄宿舎ノ設備ニ關シ本令ノ規定ニ依リ難キ事情アルトキハ明治三十五年三月三十一日マテハ之ニ依ラサルコトヲ得
- 第四十條 明治三十二年文部省令第五號及同第七號ハ之ヲ廢止ス

○學校名稱ニ道廳府縣郡市町村私立等ノ文字冠用方

明治三十四年四月二十日 文部省令第十一號

師範學校及小學校ヲ除ク外學校ノ名稱ニハ費用負擔ノ區別ニ從ヒ道廳府縣立、郡立、市町村立又ハ私立等ノ文字ヲ冠スヘシ

既設學校ノ名稱ハ前項ニ依リ本令施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ改稱シ當省ヘ開申スヘシ

○寄附財産ヲ以テ設置スル官立公立學校ニ關スル規定

三十三年三月三十日 勅令第三百三十六號

(本文一二四頁載録)

○縣立中學校授業料積立方法

明治三十六年一月十五日 奈良縣告示第十七號

第一條 縣立中學校ニ於テ徵收スル生徒ノ授業料ハ壹人貳拾錢ノ割ヲ以テ積立テ縣ノ特別會計ト爲シ利殖スルモノトス

第二條 積立金ニ對シ寄附金アルトキハ之レヲ採納スルモノトス

第三條 積立金ハ每校參拾萬圓ニ達スルヲ以テ限度トス

○縣立高等女學校授業料積立方法

明治三十六年一月十五日 奈良縣告示第十六號

第一條 縣立高等女學校ニ於テ徵收スル生徒ノ授業料ハ壹人拾五錢ノ割ヲ以テ積立テ縣ノ特別會計ト爲シ利殖スルモノトス

第二條 積立金ニ對シ寄附金アルトキハ之レヲ採納スルモノトス

第三條 積立金ハ參拾萬圓ニ達スルヲ以テ限度トス

第四條 此方法ハ明治二十六年四月一日ヨリ施行ス

◎教科

○中學校教授要目

明治三十五年二月六日 文部省訓令第三號

北海道廳 府縣

今般本省ニ於テ左ノ通中學校教授要目ヲ編纂セリ地方長官ハ宜ク各中學校長チシテ之ヲ斟酌シ適當ナル教授細目ヲ定メ以テ各學科教授ノ效果ヲ完カラシメテコトヲ力ムヘシ

- 中學校教授要目
- 本要目實施上ノ注意
- 修身
- 國語及漢文
- 外國語
- 歴史

地理
 數學
 博物
 物理及化學
 法制及經濟
 圖畫
 唱歌
 體操

中學校教授要目

本要目實施上ノ注意

- 一 中學校ニ於ケル教授ハ常ニ訓育ト相待チテ高等普通教育ノ目的ヲ達センコトヲ期スヘシ
- 二 教授ハ各學科目固有ノ目的ヲ失ハサランコトニ留意シ相互ノ連絡ヲ保チテ全體ノ統一ヲ圖ルヘシ
- 三 教授ハ漫ニ繁多ノ事項ニ涉リ又ハ形式ニ流ル、コトナク生徒ヲシテ正確ニ理會シ應用自在ナラシメンコトヲ期スヘシ
- 四 學科目ノ性質上止ムヲ得サルモノ、外ハ教科書ヲ用ヒテ之ヲ教授スヘシ
 教科書ハ常ニ之ヲ活用センコトニ留意シ之カ爲ニ箝束セラレサランコトヲ力ムヘシ
 教科書ハ其ノ選擇ヲ慎ミ濫ニ之ヲ變更スルコトアルヘカラス
- 五 教授ハ學年ノ始ニ精クシテ其ノ終ニ粗ナルカ如キ弊ニ陷ラサランコトヲ要ス
- 六 各學校ニ於ケル教授實施ノ日數ハ之ヲ一定シ難シト雖モ第一學期及第二學期ハ各凡七十五日、第三學期ハ凡五十五日ヲ下ラサランコトヲ要ス

七

教授用備品ハ教授上差支ナキ限必シモ正式精緻ノモノタルコトヲ要セス成ルヘク日用品ヲ利用シ又ハ教員自ラ製作シテ之ヲ充テマコトヲ力ムヘシ

諸學科目ニ通スル備品ハ教授上差支ナキ限成ルヘク之ヲ兼用スヘシ必シモ各別ニ之ヲ備フルコトヲ要セス

- 八 學校所在地ニ圖書館、博物館、工場、試驗場等ノ設アルトキハ之ヲ利用スルコトヲ怠ルヘカラス
 修身

第一學年及第二學年

每週一時

道德ノ要領

嘉言善行等ニ徴シ生徒日常ノ行狀ニ因ミテ近易ノ事項ヲ授クヘシ其ノ目ハ概ネ次ノ如シト雖モ必シモ之ニ拘ラス又整然秩序ヲ設クルコトヲ要セス生徒學力ノ進度ト時機トニ適應シ實踐ニ適切ナラシムヘシ
 生徒心得

當該學校ノ規則、師長ニ對スル心得、生徒ノ本分等

衛生ニ關スル心得

運動ヲ勉ムヘキコト、飲食ヲ節制スヘキコト、身體衣類住居ヲ清潔ニスヘキコト等

修學ニ關スル心得

志操ヲ堅固ニスヘキコト、學業ニ精勵ナルヘキコト、困難ヲ忍ブヘキコト等

朋友ニ對スル心得

信義ヲ重ニスヘキコト、愛情ヲ以テ交ハルヘキコト、互ニ助力スヘキコト等

起居動作ニ關スル心得

時ヲ貴フヘキコト、秩序ヲ整フヘキコト、禮容ヲ重ニスヘキコト等

家庭ニ於ケル心得

父母ニ孝ナルヘキコト、兄弟ニ友ナルヘキコト等

國家ニ對スル心得

國體ヲ尊崇スヘキコト、國法ニ遵フヘキコト、義勇公ニ奉スヘキコト等

社會ニ對スル心得
長者ヲ尊フヘキコト、公德ヲ尙フヘキコト、自己ノ地位職業ニ對スル責任ヲ重ニスヘキコト等

修徳ニ關スル心得
主要ナル諸徳ノ説明及其ノ實踐ノ方法、誘惑ノ危險ナルコト、操持ヲ完ウスヘキコト等

第三學年及第四學年

每週一時

道徳ノ要領

自己ニ對スル責務

身體

健康

生命

精神

知情意

自立

職業

財產

人格

家族ニ對スル責務

父母

兄弟、姉妹

子女

夫婦

親族

祖先、家門

婢僕

社會ニ對スル責務

個人

他人ノ人格

他人ノ身體、財產、名譽

秘密、約束等

恩誼

朋友

長幼、貴賤、主從等

女性

公衆

協同

社會ノ秩序

社會ノ進步

所屬團體

國家ニ對スル責務

國體

皇室

忠君

皇祖、皇宗

皇運

國家

國憲、國法

愛國

兵役

租稅

教育

公務 公權 國際
人類ニ對スル責務
萬有ニ對スル責務
動物 天然物 眞、善、美
前記ノ目ハ主トシテ責務ノ對象タルヘキモノナレハ之ニ就キテ主要ナル責務ヲ授クヘシ例ヘハ自己ノ精神ノ目ニ於テハ智能ヲ練磨シ情慾ヲ制シ情操ヲ養ヒ意志ヲ鍛鍊シ常職ヲ養フヘキコト等又他人ノ人格ノ目ニ於テハ其ノ權利、思想、信仰、感情、希望等ヲ推重スヘキコト等成ルヘク遺漏ナク舉ゲンコトヲ要ス責務ト關聯シテ徳ヲ説明シ諸責務及諸徳相互ノ關係ヲ知ラシメ且嘉言善行等ヲ引用シテ之ヲ心裏ニ浸潤セシムヘシ

第五學年

每週一時

倫理學ノ一斑

行爲ノ要素、良心、理想、責務、德、修徳ノ工夫、倫理法ト自然法トノ關係等ノ簡單ナル解説
道徳ノ要領

前各學年中授ケタル事項ノ總攬

教授上ノ注意

- 一 格言例話ヲ引用スルニハ必シモ其ノ多キヲ求メス務メテ現代ノ時勢ト生徒ノ境遇トニ適切ナルモノヲ選フヘシ詭激ナル例語ハ成ルヘク之ヲ避クヘシ若シ偶々之ニ及フコトアルトキハ其ノ應用ヲ誤ラズサランコトニ留意スヘシ
- 二 責務ヲ授グルニハ生徒將來ノ地位職業等ノ差別アルコトニ注意シ其ノ各方面ニ亘リテ之ヲ應用ヲ知ラシムヘシ
- 三 第二學年又ハ第三學年ニ於テハ生徒ノ身體及精神漸ク變動ヲ起シ内外ノ誘惑ニ陥リ易キヲ例トスルヲ以テ特ニ此時期ニ注意シ堅固ノ志操ヲ養ヒ良習慣ヲ作ラシメンコトヲカムヘシ
- 四 倫理學ノ一斑ハ徒ニ高尚ニ馳セ又ハ諸學派ノ異説ニ涉ルコトナク普通ノ概念ノ解説ニ止メ生徒ヲ其ノ思想ヲ確實ナラシメンコトヲ要ス
- 五 教訓ニ資スヘキ事件ノ偶發シタルトキ又ハ式日、紀念日等ニ際シテハ全校又ハ一部ノ生徒ヲ集メ臨時教訓スルヲ可トス

國語及漢文

第一學年

每週七時

每週五時

講義

讀方

國語ハ發音ニ注意シ特ニ方言的發音ヲ矯正セシムコトヲカムヘシ漢文ハ成ルヘク國語ノ法則ニ從ヒ特ニ文字ノ用法顛倒等ニ注意セシムヘシ

解釋

成ルヘク口語ト密接シテ語義、文義ヲ正確ニ解釋セシムヘシ

暗誦

讀本中ノ佳句、格言、諷誦スヘキ詩歌等ヲ暗誦セシムヘシ

講讀ノ材料

國語ハ小學校ニ於ケル國語トノ連絡ヲ圖リ今文ヲ用ヒテ修身、歴史、地理、理科、實業等ニ關スル事項ヲ記シタル現代作家ノ平正ナル記事文、敘事文等ヲ採ルヘシ又普通今文ノ外正確ナル口語ノ標準ヲ示スヘキ演説、談話ノ筆記並ニ現代名家ノ書牘文及新體詩ヲモ含マシメテ可ナリ其ノ程度ハ文部省編纂高等小學讀本ノ第六卷及第七卷ニ準スヘシ

漢文ハ初ヨリ文意完結セル全篇ヲ採ルコトヲ要セス第一學期ニ於テハ單語單句ヲ舉ケテ其ノ組織ト國語ノ組織トノ異同ヲ示シ第二學期以後ニ於テハ我國近世作家ノ用語平易ニ構造簡易ナル短章ニ句讀、返リ點、送り假名ヲ施シタルモノヲ授ケ時々既ニ課シ了リタル國語ノ一二節ヲ漢譯シタルモノヲモ交ヘテ之ヲ對照セシムヘシ

國語漢文ヲ課スル比ハ國語八、漢文ニタルヘシ

每週一時

文法

假名遣附字音假名遣ノ大要 國語品詞ノ分別 漢文品詞ノ分別ノ大要 國語文法ハ言文ノ對照ヲ主トシ常ニ口語ト今文トヲ關聯セシメテ今文ニ必須ナル法則ヲ示スヘシ漢文ノ語法ハ漢文ヲ理會シ易カラシムル程度ニ止ムヘシ

作文

書取 假名遣ヲ正シ漢字ノ字畫ヲ正確ナラシメ且速記ノ慣習ヲ養フヘシ

復文 口語ヲ今文ニ、若ハ今文ヲ口語ニ譯セシムヘシ
作文 書翰文、今文體ノ記事文、但記事文ハ豫メ其ノ構造ヲ示スヘシ
作文ノ即題ハ凡隔週一回、宿題ハ凡毎月一回之ヲ課スヘシ

習字

楷書 行書

毎週一時

清書ハ凡隔週一回之ヲ課スヘシ

第二學年

講讀

毎週七時
毎週五時

讀方 前學年ニ同シ

解釋 前學年ニ同シ

暗誦 前學年ニ同シ

講讀ノ材料

國語

今文 前學年ニ準シ又現代作家ノ論說文ヲ加フ

近世文

今文ニ最モ近キモノ、例ヘハ橘南谿ノ東西遊記、伴蒿蹊ノ近世畸人傳、貝原益軒ノ訓誡書類、成島司直ノ徳川實記附録ノ類

漢文

前學年ニ準シ又我國近世作家ノ簡易ナル敘事文或ハ傳記紀行等ノ文意完結セル短篇ヲ加フ、例ヘハ賴山陽ノ日本外史、大槻磐溪ノ近古史談、塩谷岩陰ノ岩陰存稿、安井息軒ノ讀書餘適ノ類

國語漢文ヲ課スル比ハ國語七、漢文三ニシテ國語ハ今文一、近世文一ノ比ヲ以テ之ヲ課スヘシ

毎週一時

文法

品詞各論

作文

書取 前學年ニ同シ

復文 前學年ニ同シ

作文 書翰文、記事文、敘事文、但敘事文ハ豫メ其ノ構造ヲ示スヘシ

作文ノ即題ハ凡隔週一回宿題ハ凡毎月一回之ヲ課スヘシ

習字

毎週一時

前學年ニ同シ

第三學年

講讀

毎週七時
毎週五時

讀方 發音ノ外抑揚緩急ニ注意スヘシ

解釋 語義、文義ノ外文法上ノ句法ニ注意スヘシ

暗誦 前學年ニ同シ

講讀ノ材料

國語

今文 現代ノ思想及事實ヲ敘述論議スル今文

近世文 室鳩巢ノ駿臺雜話、安藤年山ノ年山紀聞、新井白石ノ讀史餘論、本居宣長ノ玉勝間ノ類

近古文 鎌倉室町時代ノ文、例へハ保元平治物語、神皇正統記、十訓抄、樵談治要ノ類
韻文 主トシテ今様歌

漢文

前學年ニ準シ又我國作家ノ論説文ヲ加フ、例へハ頼山陽ノ日本外史ノ敘論ノ類
國語漢文ヲ課スル比ハ國語七、漢文三ニシテ國語ハ今文三、近世文二、近古文一ノ比、漢文ハ記事文、敘事
文一、論説文一ノ比ヲ以テ之ヲ課スヘシ

文法及作文 每週一時

文章論ノ大要 係結ノ法則 文章ノ解剖
作文

書取 文章ヲ朗讀シテ其ノ大意ヲ記述セシムヘシ

譯文 漢文ヲ譯セシメ又時トシテ外國文ヲ譯セシムヘシ且簡單ナル國文ヲ漢文ニ譯セシメテ用字ノ法
ヲ知ラシムルモ可ナリ

作文 記事文、敘事文、傳記文、但傳記文ハ豫メ其ノ構造ヲ示スヘシ

作文ノ即題ハ凡隔週一回、宿題ハ凡毎月一回之ヲ課スヘシ

文法及作文ヲ授クル際便宜辭典、字書ニ就キ假名引、畫引、偏傍冠等ノ名稱ヲ授ケテ國語又ハ漢字ノ檢
索方ヲ知ラシムヘシ

習字

行書 草書

第四學年

每週一時

每週六時

講讀

讀方 前學年ニ同シ

每週五時

解釋 國語ノ古文ハ口語ヲ以テ之ヲ解釋スルノミナラス又之ヲ今文ニ對照シ漢文ハ之ヲ國文ニ對照シテ
意味セシメ修辭上ノ注意ヲ加フヘシ

誦讀 前學年ニ同シ又時トシテ名家ノ文章ヲ誦讀セシムヘシ

講讀ノ材料

國語

今文 前學年ニ準シ又詔勅、上書等ヲ加フ

近世文 新井白石ノ折焚柴の記、大宰春臺ノ經濟錄ノ類、但神史ノ類ト雖モ教育上ノ目的ニ戻ラサル限
ハ之ヲ採ルル可トス

近古文 源平盛衰記、太平記ノ類

歌 古今和歌集ノ類

漢文

句讀及返リ點ヲ施シ送り假名ヲ省キタルモノ

散文 前學年ニ準シ又支那作家ノ簡易ナル傳記、紀行等ノ文ヲ加フ例へハ清初作家、唐宋八家ノ文、佐
藤一齋、松崎慊堂ノ文ノ類

詩 唐詩選ノ類

國語漢文ヲ課スル比ハ國語六、漢文四ニシテ國語ハ今文二、近世文一、近古文一ノ比、漢文ハ我國作家ノ文
一、支那作家ノ文一ノ比ヲ以テ之ヲ課シ詩歌ハ適宜之ヲ加ヘ授クヘシ

每週一時

文法

前各學年中授ケタル事項ノ復習 近古以上ノ文ニ特有ナル法則

作文

書取 前學年ニ同シ

譯文 前學年ニ同シ

作文 記事文、敘事文、傳記文、論說文、但論說文ハ豫メ其ノ構造ヲ示スヘシ
作文ハ即題宿題トモ各凡毎月一回之ヲ課スヘシ

第五學年

每週六時

講讀 第一學期及第二學期

每週五時

第三學期

讀方 前學年ニ同シ

解釋 前學年ニ同シ

詰誦 前學年ニ同シ

講讀ノ材料

國語

今文 前學年ニ準ス

近世文 前學年ニ準ス

近古文 前學年ニ準ス

歌 前學年ニ準ス

漢文

散文 前學年ニ準シ又史記、蒙求、論語ノ類ヲ加フ

詩 前學年ニ準ス

國語及漢文ヲ課スル比ハ國語六、漢文四ニシテ國語ハ今文一、近世文一、近古文一ノ比、漢文ハ我國作家ノ文一、支那作家ノ文三ノ比ヲ以テ之ヲ課シ詩歌ハ適宜之ヲ加ヘ授クヘシ

國文學史 第三學期

每週三時

主要ナル文學時代 顯著ナル文學者 顯著ナル著作物 各種ノ文體、歌體國文學史ヲ授クルニハ我國ノ

漢學ヲモ度外ニ置クヘカラス又上古文學ノ一斑ヲモ窺ハシムヘシ

文法及作文

每週一時

文法

前各學年中授ケタル事項ノ復習 單語ノ構造 國語沿革ノ大要

作文

書取 前學年ニ同シ

譯文 前學年ニ同シ

作文 前學年ニ同シ

各學年ニ於ケル講讀ノ教授ハ國語、漢文ノ時間ヲ分タス之ニ用フル讀本ハ成ルヘク國語ト漢文トヲ適當ニ交ヘテ組織シタルモノヲ採ルヘシ

讀本ニ於ケル今文ノ材料ハ創作ノ必要少カラス又漢文、外國語ヲ今文ニ翻譯シタルモノニシテ其ノ模範トナスヘキモノハ之ヲ採ルヘシ

口演ハ別ニ之ヲ學ケスト雖モ常ニ生徒ヲシテ言語態度ニ留意セシメ又時々生徒ノ學習或ハ經驗セル事項ニ就キテ談話解説等ヲナサシメ正シキ國語ノ使用ニ慣レシムヘシ

教授上ノ注意

- 一 讀本中ノ事項ハ單ニ其ノ意義ヲ解釋スルニ止メス之ニ關スル説明ヲ加ヘ成ルヘク地圖、繪畫、標本等ニ依リ生徒ノ理會ヲ明確ナラシムヘシ
- 二 故事古語等ハ之カ解釋出處ニ關シテ徒ニ生徒ヲ苦マシムルコトナク初ヨリ其ノ説明ヲ與フヘシ
- 三 國語ノ文法ニ於テ最モ誤リ易キハ活用語ノ用法ナルヲ以テ教授ノ際特ニ之ニ注意シ常ニ其ノ練習ヲ忘ラサルヘシ
- 四 作文ハ其ノ文體、教授法等ニ關シテ一定ノ標準ヲ定メ難シト雖モ迂遠ニ流レス難澁ニ失セス簡易ニシテ實用ニ適切ナラシムコトヲ期スヘシ
- 五 漢字ノ字畫ノ似タル瓜、瓜、傳、傳ノ類ハ誤リ易キモノナレハ書取、作文ヲ授クル際特ニ之ニ注意セシムヘシ

外國語

此要目ハ英語ニ就キテ之ヲ定ム獨語、佛語ニ就キテハ之ニ準スヘシ
 各學年ノ教授事項ハ之ヲ分割スルコトナク同一教授時間ニ於テ相關聯シテ之ヲ授クヘシ但特ニ示シタル場合ニ於テハ教授時間ヲ分ツコトヲ得ト雖モ尙其ノ相互ノ連絡ニ留意セシムコトヲ要ス

第一學年

每週六時

發音、綴字

初ハ發音ヲ正シ單語ニ就キテ綴字ヲ授ケ其ノ概要ニ通シタル後ハ讀方、會話ト附帶シテ之ヲ練習セシムヘシ

讀方、譯釋、會話、書取

平易ナル文章

文部省正則讀本、なしゝなる讀本、ろんぐまんす讀本、すういんとん讀本等ノ第一卷又ハ第二卷ノ初ノ

程度ニ依ルヘシ

讀本ヲ授クル際隨時常用ノ名詞及代名詞ノ數、性及人稱、形容詞及副詞ノ比較、常用ノ動詞ノ直說法變化、主要ナル不規則動詞、頭文字ノ用法等ヲ知ラシムヘシ

習字

本學年ニ於テハ專ラ習字ヲ授クル爲每週一時ヲ分ツコトヲ得

第二學年

每週六時

讀方、譯釋、會話、作文、書取

平易ナル文章

前ニ學ケタル讀本ノ第二卷又ハ第三卷ノ初ノ程度ニ依ルヘシ又日常ノ應對ニ必要ナル用語ヲ授ケテ其ノ應用ヲ練習セシムヘシ

讀本ヲ授クル際隨時文法ニ關シテ前學年ノ事項ノ外文章ノ構造、名詞及代名詞ノ格、句讀點ノ用法等ヲ知ラシムヘシ

第三學年

每週七時

讀方、譯釋、會話、作文、書取

平易ナル文章

前ニ學ケタル讀本ノ第三卷又ハ第四卷ノ初ノ程度ニ依ルヘシ

文法

名詞ノ變化 代名詞ノ種類及其ノ變化 動詞ノ種類及其ノ變化 形容詞及副詞ノ比較冠詞ノ種類 文章ノ解剖

本學年ニ於テハ專ラ文法ヲ授クル爲每週一時ヲ分ツコトヲ得

第四學年

每週七時

讀方、譯解、書取
普通ノ文章

前ニ學ケタル讀本ノ第四卷ノ程度ニ依ルヘシ

會話、作文

平易ナル對話 平易ナル翻譯 簡單ナル記事文、書翰
文法

代名詞ノ用法 時及法ニ關スル動詞ノ用法 前置詞ノ用法 冠詞ノ用法 文章論

本學年ニ於テハ專ラ文法ヲ授クル爲毎週一時ヲ、專ラ會話、作文ヲ授クル爲毎週二時以內ヲ分ツコトヲ得

第五學年

每週七時

讀方、譯解、書取

普通ノ文章

前ニ學ケタル讀本ノ第五卷又ハろんぐまんヲ讀本ノ第六卷ノ程度ニ依ルヘシ

會話、作文

前學年ニ準シテ稍々其ノ程度ヲ進ムヘシ

前記ノ事項ノ教授ニ附帶シテ文法ヲ復習シ又接頭語、接尾語、同意語等ノ説明ヲ與フヘシ
本學年ニ於テハ專ラ會話、作文ヲ授クル爲毎週二時以內ヲ分ツコトヲ得

教授上ノ注意

一 英語ヲ授クルニハ習熟ヲ主トスヘシ生徒ノ學力ヲ顧ミスシテ徒ニ課程ヲ進ムルコトアルヘカラス
二 第二學年以後ニ於テハ發音、綴字、習字ノ日ヲ學ケスト雖モ讀方、會話、作文及書取ニ附帶シテ便宜之ヲ

練習セシムヘシ

三 發音ハ特ニ英語教授ノ初期ニ於テ嚴ニ之ヲ正シ又國語ニ存セサル發音ニ留意シテ之ニ習熟セシムヘシ

四 英語ノ意義ヲ了解セシムルニハ之ヲ譯解シ又ハ實物、繪畫等ニ依リ之ヲ直指スヘシ稍々進ミタル生徒

ニ對シテハ英語ヲ用ヒテ説明スルコトアルヘシ

五 譯解ハ正シキ國語ヲ以テシ成ルヘク精密ニ原文ノ意義ニ適應セシムヘシ

譯解ヲ授クル際東西ノ人情、風俗、制度等ノ異同ヲ知ラシムヘシ

六 讀方ハ既ニ意義ヲ了解セル文章ニ就キテ反復練習セシメ又時々誦讀ヲ課シ發音、抑揚、緩急及止聲ニ留

意シ生徒ヲシテ誦讀ニ依リテ文章ノ意眞自ラ見ハル、様之ニ習熟セシムヘシ

七 書取ハ讀本中ノ文章又ハ生徒ノ容易ニ了解シ得ヘキ文章ニ就キテ之ヲ授ケ生徒ノ耳ヲ慣ラシ且綴字、

運筆ニ習熟セシムヘシ

八 會話ハ讀本中ノ文章又ハ事項ニ因ミテ之ヲ授ケ進ミテハ日常ノ事項ニ就キテ對話ヲナサシメ生徒ヲシ

テ文字ヲ離レテ英語ヲ了解シ又自己ノ思想ヲ表ハスコトヲ習ハシムヘシ

九 文法ヲ授クルニハ生徒ヲシテ煩雜ナル規則ノ記憶ニ陷ラシムルコトナク應用自在ナラシメメコトヲ期
スヘシ

十 適當ノ機會ニ於テ辭書ノ用法ヲ授ケ漸次對譯ニアラサル辭書ノ使用ニ慣レシムヘシ

歴史

第一 日本歴史

第一學年

每週一時

太古

神代、皇基ノ遼遠

上古

神武天皇 崇神天皇、景行天皇、日本武尊、熊襲及蝦夷、成務天皇 神功皇后、韓土內附 仁德天皇、雄略天皇 韓土ノ變遷、歸化人及其ノ子孫、韓土傳來ノ工藝文物 佛教ノ傳來、蘇我物部兩氏ノ爭亂 聖德太子、佛教ノ興隆、文物制度、遣唐使 蘇我氏ノ專橫及滅亡

中古

大化ノ新政 越蝦夷征伐、隼人及西南諸島、百濟高麗ノ滅亡
天智天皇、藤原鎌足 壬申ノ亂 律令ノ撰定 奈良奠都、國史ノ撰修 聖武天皇、寺院ノ造營、美術、工藝、風俗 和氣清麿 平安奠都、蝦夷ノ鎮定、渤海ノ入貢 嵯峨天皇、入唐ノ高僧及新宗派、漢文學及學校ノ設立 藤原氏及他氏ノ盛衰、皇族賜姓、攝政關白 菅原道真、延喜時代、地方ノ狀況 承平天慶ノ亂 藤原氏家門ノ爭、藤原道長 國文ノ隆盛、工藝、風俗 刀伊ノ亂、地方ノ亂、前九年ノ役

第二學年

每週二時

中古ノ續キ

後三條天皇 院政、武人ノ登用、僧徒ノ跋扈 後三年ノ役、源氏 保元ノ亂、平治ノ亂 平清盛、平氏ノ繁榮 諸源ノ舉兵、平氏ノ滅亡

近古

鎌倉幕府、守護地頭 鎌倉三代 承久ノ亂 北條氏ノ執權、貞永式目 鎌倉武士、京都公卿、風俗、文學、新宗派 元寇 兩皇統ノ交立、五攝家 元弘ノ亂、勤王諸將、北條氏ノ滅亡 建武中興 足利尊氏ノ反 南北朝 室町幕府、鎌倉管領 足利義滿ノ驕奢、應永ノ亂 永享嘉吉ノ亂 應仁ノ亂 關東ノ分裂、北條早雲 東山時代、文學、美術、工藝、風俗 足利季世京都ノ衰替 群雄割據 皇室、織田信長 豐臣秀吉 朝鮮征伐

近世

德川家康、關原ノ役 江戸幕府、諸侯 天主教、島原ノ亂、通商貿易 後水尾天皇 文學ノ復興、德川光圀、著名ナル學者 元祿時代、奢侈、風俗 新井君美 德川吉宗ノ治、實學及殖産ノ獎勵 田沼意次ノ執柄 松平定信、諸藩ノ治附著名ノ藩侯 國學、尊王論、關學、海防策 露人ノ寇、英船其ノ他ノ來航 米國使節ノ來朝、開港攘夷ノ論 安政ノ大獄、井伊直弼ノ武斷、幕府ノ衰頹 討幕論、元治ノ變、長州征伐 大政奉還、伏見ノ戰 戊辰ノ役

現代

明治新政、五條ノ誓文、開港、奠都

第五學年

每週一時

建國ノ體制

大化以前ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括、支那及韓土トノ關係 氏族部民ノ制、祭祀教法

大化以後延曆以前ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括、支那及韓土トノ關係 制度ノ概略(官制、田租賦役、兵制、刑制等)文化

平安時代ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括、文物制度ノ變遷

院政及平氏時代ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括、莊園ノ起源、寺院ノ勢力、武門ノ興起 鎌倉時代ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括、幕府ノ制度、朝廷ト幕府トノ關係

南北朝及足利時代ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括、室町幕府ノ制度明トノ交通、(倭寇) 歐洲人ノ來航、通商貿易、天主教ノ傳播、外征及冒險ノ氣象

天文慶長年間ニ於ケル國內變動ノ概要

江戸時代ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括
江戸幕府ノ諸制度

邊境ノ事情、洋學

維新ノ原因及其ノ事蹟ノ概括

明治新政、新設官制、版籍奉還、廢藩置縣

外交、大使派遣、歐米文物制度ノ採用

朝鮮トノ關係、征韓論、佐賀ノ亂

臺灣征討、北海道、樺太及千島

熊本及秋ノ暴動、鹿兒島ノ亂

琉球ノ處分、朝鮮ノ修好及事變、天津條約

民選議員論、元老院、地方官會議、府縣會、國會開設ノ請願、政黨、新聞紙、國會開設ノ準備

憲法、皇室典範、帝國議會

諸制度ノ發達、學術ノ進歩、交通機關ノ擴張、殖産工業貿易ノ振興、條約改正

明治二十七八年ノ戰役

世界ニ於ケル日本ノ地位

第二 東洋歴史

第三學年

每週二時

上古

上代ノ支那 唐虞三代 春秋ノ世 周ノ制度文物 孔子 戰國 周末ノ學術 上代ノ印度、佛教ノ興起

中古

秦ノ一統、漢楚ノ爭 漢高祖、文帝景帝ノ治 武帝ノ業、四夷ノ服屬、王氏ノ篡立 後漢ノ政、匈奴、西域ノ叛服 三國 晋、五胡、十六國 北南朝 隋 唐太宗、武韋ノ禍 開元ノ治、安史ノ亂 藩鎮宦官ノ禍、唐末ノ大亂 朝鮮半島ニ於ケル諸國ノ盛衰、渤海 漢唐ノ儒學文藝 佛教道教及其ノ他ノ宗教、南海ノ貿易 五代 宋太祖、仁宗ノ治 王安石ノ新法 遼金ノ廢興、高麗ノ盛衰、宋金ノ交渉 宋代ノ儒學文藝及宗教

近古

蒙古ノ勃興、元太祖ノ西征 太宗憲宗ノ南征 附拔都及旭烈兀ノ西征 世祖ノ一統及東侵 元代ノ治亂附諸汗國ノ盛衰 明ノ太祖、靖難ノ役、成祖ノ遠略 帖木兒 明ノ中世(邊境ノ寇、大禮ノ議)交趾ノ叛服、沿海ノ寇盜 明ノ末世、(萬曆朝鮮ノ役、東林ノ獄、流賊) 元明ノ儒學文藝 莫臥兒帝國ノ興亡 倭寇ノ起

近世

清ノ開國、世祖ノ一統 清聖祖高宗ノ業 清ノ學術 東洋ニ於ケル蘭英諸國ノ競争 英領印度 清英ノ交渉 長髮賊ノ亂、英佛ノ北清侵伐 露ノ東略、清露ノ關係 安南暹羅、清佛ノ交渉 日清韓ノ關係、日清ノ戰役 東洋ニ於ケル英露及佛獨米 世界ニ於ケル東亞諸國ノ現勢

第三 西洋歴史

第四學年

每週二時

上古

エジプト、ヘブライ、フェニキヤノ文化 ばびるにあ、あつしりあ へるしあ、だりうす、くせるくせずノ業 ざりしあ、ざりしあノ文物 くてん、すばるた、てーべ、べるしあノ交渉 黒海沿岸ノ地方、まげどにあ、あれくさんどるノ業 ふおえにざあ殖民地、いたりあ統一ニ至ルるーま ばえに戰役 あれくさんどる後ノ東方諸國(ざりしあ、まげどにあ、えじふと、しりあ、ばるちあ、ばくとりあ) ろーま共和制ノ末路 ろーまノ

東征 かえざるノ業 ろーま帝政ノ初 ろーまトばるちあ、べるしあ ろーまノ制度及國情、基督教
中古

けるまにノ遷徙 東のーまトべるしあ、すらぶ諸部落 さらせん 中古ニ於ケル東歐ト西歐、かるる大帝
ノ業 のるまん 神聖ろーま帝國、法皇ノ權威 西歐ノ制度及國情 十字軍ト東方諸國 いぎりすトふ
らんす 東歐ノ國情、蒙古ノ侵入 古學復興、活版ノ發明、兵制ノ變遷、地理上ノ發見 附するこぼーろノ日
本 西歐諸國ノ中央集權、議會ノ起、地方ノ連合 宗教ノ頽廢及救濟ノ企圖 おつとまんとるこノ侵入
宗教改革 いすばにあトふらんす しゅまるかるでん同盟
近古

はるとがる、いすばにあノ殖民策 宗教改革ノ反動 たらんだノ獨立 いぎりすノちゅーどる朝 ふら
んす宗派ノ争 三十年戰役 ふらんす國家主義ノ確立及外國侵略、いすばにあ繼承ノ役 いぎりすノ革
命 南洋及東洋ニ於ケルはるとがるいすばにあ、たらんだ、いぎりす 近古に於ケル北歐及東歐諸國ノ盛
衰 北歐ノ戰役 ばーらんとト近隣諸國、ふるしあノ勃興 かりすとりあ繼承ノ役 七年戰役 いぎり
す、ふらんすノ殖民策 ろしあノ外交及拓殖 北米合衆國ノ獨立 十八世紀ニ於ケル歐洲列國ノ情勢及
文物

第五學年

毎週一時

近世

ふらんす革命 ばーらんとノ滅亡 列國局面ノ變化 なければん一世ノ業 いぎりす殖民地ノ擴張
ろつば獨立ノ戰役 ぶいーん列國會議 歐洲亂後ノ國情 あめりか諸國及ぎりしあノ獨立 七月革命
及其ノ影響 いぎりすノ政黨政治 東方問題 二月革命及其ノ影響 西歐ト東歐(なければん三世、くり
ひ戰爭)あしあニ於ケルろしあ、いぎりす、ふらんす いたりあ統一、どいつ統一ノ企圖 北米合衆國ノ經

濟ト南北戰爭 めさして、ふらんすノ交渉 しゅれすう、くほるすたいん問題、ふるしあ、かりすとりあ
ノ戰役 どいつ、ふらんすノ確執、どいつ統一 ろしあトばるかん半島、埃及問題 英、西、蘭佛、獨、米ト
太平洋洲、北米合衆國是ノ變遷ト太平洋、あふりか南部の拓殖、ばんすらぶいすむ 十九世紀ノ文明及思
潮(政治上、宗教上、社會上、經濟上ノ進歩)世界ニ於ケル日本ノ地位及日本ト諸外國トノ關係
前記各學年ノ事項ハ便宜分合シテ之ヲ授クルコトヲ得

教育上ノ注意

- 一 歴史ヲ授クルニハ社會ノ變遷、邦國ノ盛衰ニ關スル明晰ナル概念ヲ得シムルコトヲ主トシ正確ヲ期ス
ル爲徒ニ細密ナル事實ノ穿鑿ニ流レサランコトヲ要ス
- 二 偉人ノ事蹟ヲ授クルニ當リテハ其ノ性行、事業及當時ノ事情ヲ詳ニシ生徒徳性ノ涵養ニ資センコトヲ
カムヘシ
- 三 有名ナル詩歌、文章、傳記等ニシテ歴史上ノ事蹟ノ説明ニ資スヘキモノハ便宜之ヲ引用シテ興味ヲ助ク
ヘシ
- 四 特ニ學校所在地方ニ關係多キ事蹟ハ稍々詳ニ之ヲ授クルヲ可トス
- 五 外國歴史ハ特ニ我國ト關係アル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ
- 六 對照年表ヲ用ヒテ紀年ノ連絡ヲ知ラシメ又常ニ地圖、實物、圖畫、標本等ヲ示シテ生徒ノ知識ヲ確實ナ
ラシムヘシ
- 七 地名人名等ノ稱呼ハ必シモ此要目ノ示ス所ニ依ルコトヲ要セス
- 八 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ

御歴代表、對照年表、各國帝王、及諸家ノ系統表等ノ掛圖 日本沿革及現代地圖 東洋諸國沿革及現代地
圖 西洋諸國沿革及現代地圖

著名ナル城邑、戰場、其ノ他古蹟ノ寫真又ハ圖畫 著名ナル人物ノ肖像 古人ノ筆蹟、古文書等ノ實物又ハ模寫
風俗工藝ノ變遷、文化ノ程度等ヲ示ス實物、模型又ハ圖畫

地理

第一學年

每週二時

緒論

大洋 大洲、島嶼 兩極、赤道 三帶 經緯度 地圖ノ描キ方及讀ミ方ニ關スル簡單ナル解説
日本地理

總論

位置

位置 境域 廣袤

地勢

海岸 地形 山系 水系

氣候

温度 海流 雨量 風

天產物

住民

種族 人口 教育 宗教

政治

國體 政體 區畫 兵備

生業

農業 鑛業 林業 水産業 工業 商業

交通

道路 鐵道 航路 郵便 電信 電話

地方誌

地方誌ニ於テハ北海道、臺灣及府縣ノ區分ニ依リ地方ノ天然上及人事上國民ノ生活ニ關スル事項ヲ授クヘシ

外國地理

あじあ

總論

位置 地勢 氣候 天產物、住民 交通

朝鮮

第二學年

每週一時

外國地理ノ續キ

あじあノ續キ

支那

あじあろしあ

あじあとるこ附あらびあ

いらん地方

いんご

いんど支那半島
まらい群島

大洋洲

總論

前二準ス

おーすとらりあ

めらねじあ

みくろねじあ

ぼりねじあ

第三學年

外國地理ノ續キ

よーろつぱ

總論

前二準ス

ろしあ

すうえでん、のるうえい

でんまるく

どいつ

おーすとらりあ、ほんがりあ

すいす

毎週一時

ふらんす
おらんた
べるぎい
いぎりす
いすばにあ
はるとがる
いたかりあ
ばるかん半島

第四學年

外國地理ノ續キ

あふりか

總論

前二準ス

北部あふりか

中部あふりか

南部あふりか

あめりか

總論

前二準ス

かなだ

毎週一時

北米合衆國

めきしこ附中央わめりか、西いんど諸島
南わめりか

西部 東部

結論

世界ニ於ケル貿易及交通 世界ニ於ケル人口、言語、宗教 日本ト列國トノ關係及其ノ富力、兵力、領土、
殖民地ノ比較 世界ニ於ケル日本ノ地位

第五學年

每週一時

地文

總論

太陽系 地球ノ形、大サ 地球ノ密度 地熱 地球ノ運動、晝夜、四季、日蝕及月蝕 經緯度 標準時

地圖

陸

沿岸線

地勢及構造

山嶽、原野、谿谷等 泉、河、湖 岩石及造岩礦物 地層 岩脈

地殻内ノ産物即有用ノ礦物及岩石

變動

火山 地震 大陸及山脈ノ生成 沿岸線ノ生成 大氣 水 生物

日本ノ土地發育

大氣

性質及作用 温度 氣壓・風 濕氣 氣候及天氣

海

海水ノ組織、色、鹽分等 海底 海水ノ温度 波、海流、潮汐

生物

分布 植物景

教授上ノ注意

一 地理ヲ授クルニハ生徒既知ノ事實ト關係アル事實ニ及サンコトヲ旨トシ必シモ此要目ノ順序ニ依ルコトヲ要セス

二 地理ヲ授クルニハ成ルヘク事實ノ比較適合ヲ力メ特ニ外國地理ヲ授クルニ當リテハ我國ノ狀勢ヲ以テ比較ノ基礎トナスヘシ

三 日本地理及外國地理ヲ授クルニハ常ニ地文ニ關スル事項及實業ニ關スル事項ニ留意シ濫ニ細密繁多ナル事實數量ヲ記憶セシムルコトハ之ヲ避クヘシ

四 外國地理ヲ授クルニハ我國ト關係多キ地方ニ留意シ此要目ノ中特ニ重要ナル部分ハ更ニ之ヲ細分シテ授クルコトヲ得

五 歷史上著名ナル場所ニ就キテハ其事蹟ノ大要ヲ附説スヘシ

六 有名ナル詩歌文章紀行等ニシテ地理教授ニ資スルニ足ルモノハ便宜之ヲ引用シテ興味ヲ助ケヘシ

七 實地ニ觀察シ得ヘキ事項ハ成ルヘク直接ニ觀察セシメ其ノ他ハ常ニ地圖、標本、寫眞、繪畫、表等ニ依リ生徒ノ知識ヲ確實ナラシムヘシ又生徒ヲシテ略圖ヲ描カシムルモ可ナリ但徒ニ精密ニ沙リ時間ヲ浪費セサランコトヲ要ス

八 地文ハ特ニ我國ニ關スル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ
 九 地名ノ稱呼ハ必シモ此要目ノ示ス所ニ依ルコトヲ要セス
 十 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ

日本及世界地形圖 世界分圖 日本行政區畫圖 日本及世界交通地圖 人種分布地圖 日本及世界水陸動物分布圖 日本及世界植物區系圖 日本地質圖 日本及世界同溫線圖 日本及世界同壓線圖 日本及世界風向圖 日本及世界雨量圖 日本及世界海流圖 同時潮圖 地震及火山分布圖 日本地震圖 天氣圖ノ一例 其ノ他人文、地文ヲ説明スル地圖
 諸統計ヲ示ス圖又ハ表 風俗、風景、其ノ他地文上ノ現象ヲ示ス圖畫又ハ寫眞 土地ノ高低、褶曲、斷層等ヲ示ス模型又ハ圖畫 主要ナル岩石 主要ナル造岩礦物 日本ノ主要ナル農産、林産、水産物及加工品ノ標本 主要ナル貿易品ノ標本 風化ヲ示ス標本 主要ナル化石又ハ其ノ模型或ハ圖畫 其ノ他ノ掛圖等
 地球儀 羅針盤 測斜器 あねろいど晴雨計 水銀晴雨計 寒暖計 日時計
 人文地理ニ關スル事項ハ時々異動ヲ來スコト多ケレハ之ヲ圖表等ハ常ニ其ノ訂正増補ニ留意シ最近ノ形勢ヲ示スモノヲラシムヘシ

數學

第一 算術

每週四時

緒論

命數法 記數法 小數
 整數及小數

加減乘除

諸等數

時間 めーとる法度量衡 尺貫法度量衡 本邦貨幣 外國度量衡及貨幣 諸等通法及命法 諸等數ノ加減乘除
 英國度量衡及貨幣其ノ他十進法ニ依ラサル複雜ナル諸等數ハ分數ノ中或ハ分數ノ後ニ於テ便宜之ヲ授クルコトヲ得

整數ノ性質

可約性 素數 約數 最大公約數 最小公倍數
 分數

分數ノ主要ナル性質 約分 通分 分數ヲ小數ニ化スルコト 小數ヲ分數ニ化スルコト 分數ノ加減乘除

比 比例

第二學年

每週二時

比及比例ノ續キ

連鎖法 比例配分 混合
 割合

總說 歩合算 利息算其ノ他割合ニ關聯スル日用諸算
 冪及根

自乘冪及平方根 三乘冪及立方根 求積

第二 代數

第二學年

每週二時

緒論

記號ノ定義 代數式 結合ノ法則 定義ノ擴張 負數

整式 加減乗除

方程式

一元一次方程式

第三學年

每週二時

方程式ノ續キ

多元一次ノ聯立方程式

整式ノ續キ

分配ニ關スル公式 因數 最大公約數 最小公倍數

分數式

分數ノ基本性質 約分、通分 分數ノ加減乗除

方程式ノ續キ

一次式ニ歸セシムルコトヲ得ヘキ一元方程式 一元二次方程式 二次式ニ歸セシムルコトヲ得ヘキ一元

方程式 二次方程式ヲ含ミタル聯立方程式

方程式ノ解決ニ關スル釋義

第四學年

每週二時

無理式

指數定義ノ擴張 無理數 無理數ニ近似スル有理數値 比及比例

不名數ノ場合 量ノ場合(通約スヘキ量、通約スヘカラサル量) 不盡數

級數

等差級數 等比級數

順列及組合

二項式定理

正整數ナル指數ノ場合

對數

對數ノ基本性質 對數表

第三 幾何

第三學年

每週二時

緒論

直線

角 平行線 三角形 平行四邊形

圓

圓ノ基本性質 中心ニ於ケル角 弦 弓形ニ於ケル角 切線 ニツノ圓 軌跡

第四學年

每週二時

圓ノ續キ

內接形及外接形

面積

直線形ノ面積ノ等同

比例

等シキ比ノ定義 此定義ヨリ派生スル一般ノ定理

比例ノ應用

比例線 相似形

第五學年

每週二時

比例ノ應用ノ續キ

面積 軌跡

平面

直線及平面 立體角

多面體

角錐 角錐 正多面體

曲面體

球 圓錐 圓錐

第四 三角法

第五學年

每週二時

角ノ計リ方

六十分法

圓函數

銳角ノ圓函數 圓函數相互ノ關係 餘角ノ圓函數 格別ナル角ノ圓函數

真數表

直角三角形ノ解法

圓函數ノ續キ

圓函數ノ一般ノ定義 圓函數相互ノ關係 圓函數ノ符號及大サノ變化 負角ノ圓函數 補角ノ圓函數

角ノ和ニ對スル公式

二ツノ角ノ和及差ノ圓函數 倍角及分角ノ圓函數 圓函數ノ積ニ對スル公式 圓函數ノ和及差ニ對スル公式

公式

三角形ノ邊ト其ノ角ノ圓函數トノ關係

對數表ノ用法

三角形ノ解法

高サ、距離等ノ測法及之ニ關スル實習

教授上ノ注意

一 數學ヲ授クルニハ常ニ正確ナル言語ヲ用ヒテ法則、命題等ノ宣言證明ヲナシ正確ニ理會セシメノコトヲカムヘシ

二 算術ニ於テハ單ニ算法ヲ授クルニ止メス常ニ實算ヲ重シ正確ニ且迅速ニ計算シ得ルニ至ラシムヘシ

三 計算ニハ成ルヘク驗シテ行ハシメ之ニ對スル自信ヲ深厚ナラシムヘシ

四 算術ノ例題ハ成ルヘク生業上適切ナルモノヲ選ヒ歩合算其ノ他日用諸算ニ關スル例題ヲ課スルニハ特ニ注意シテ其ノ事項ヲ説明スヘシ

五 算術ヲ授クル際法制ノ理由ヲ充分ニ理會セシメ難キ場合ニ於テハ單ニ其ノ一端ヲ指摘スルニ止メ直ニ

- 六 法則其ノ物ニ移リ其ノ嚴格ナル理由ノ説明ハ之ヲ代數ニ讓ルヘシ
- 七 代數ニ於テ一次方程式ヲ授クルニハ之ヲ一箇處ニ纏ムルコトナク其ノ最モ簡易ナルモノハ成ルヘク早ク之ヲ引用シテ代數ノ趣味ヲ得シムヘシ
- 八 幾何ヲ授クルニハ論理ノ嚴格ヲ重ニスヘシ例ヘハ比例論ヲ授クル場合ノ如キ濫ニ簡易ニ就カントスル爲之ヲ省略シ若ハ之ヲ曖昧ニ附シ去ル弊ニ陷ラサシムコトヲ要ス但生徒學力ノ進度ニ依リ一時之ヲ假定シテ後回シトナスハ妨ナシ
- 九 作圖題ハ證明ノ連絡上適當ノ處ニ於テ之ヲ授クヘシ
- 十 定理ノ形式、其ノ相互ノ關係等ハ最初ニ於テ授クルヨリモ寧ろ稍々進ミタル後便宜之ヲ授クルヲ可トス
- 十一 三角法ニ於テ高サ、距離等ノ測法ハ其ノ實習ト共ニ成ルヘク早ク之ヲ授ケテ興味ニ訴フルコトヲ要ス
- 十二 圓函數ハ初真數ヲ用ヒ後對數ヲ用フルヲ可トス
- 十三 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ
 - 日時計 時計 羅針盤 めーとる法尺 三種比較尺 日本秤 めーとる法分銅 臺秤 液量樹 數量樹 めーとる法量器 外國度量器 黑板用こんばす 黑板用各種ノ定規 ふゐるにえー模型 ておどり
 - つと 卷尺 ちいん 旗竿等
 - 日本貨幣圖 外國貨幣圖 幾何立體ノ模型 博物

第一 礦物界

第一學年

每週二時

礦物界ノ教授ハ細密ナル記載ニ偏スルコトナク又科學上ノ順序ニ泥ムコトナク生徒日常ノ經驗ニ訴ヘ成ルヘク具象ノ標本ヲ基礎トシテ礦物界ニ關スル主要ナル事項ヲ約説スヘシ其ノ目凡次ノ如シ

水晶、砂岩

水晶ノ玉(石英) 水晶ノ自然ノ形(結晶) 結晶ノ見分ケハ稜ニ銳鈍ニ依ルコト 結晶ノ生長ノ仕方 結晶ノ集合體 水晶ノ脈等(産出ノ狀) 其ノ硬度 硬度ノ計リ方 花崗岩ノ中ノ石英 石英ノ砂 河海ノ砂 砂層、粘土層、礫層(破片質水成岩)地層ノ形 砂岩 濱ノ砂ノ中ノ介 砂岩ノ中ノ介(化石)

教授用具

水晶ノ玉 山ヨリ出テタル儘ノ水晶 測角器 水晶ノ晶族 水晶ノ晶群 硬度計 花崗岩 川ノ砂 砂岩 介化石ヲ含ミタル砂岩 硅岩

石炭

漁車漁船等ノ動力 石炭ノ用途 其ノ色、脆サ、焰ノ臭ミ等 石炭坑 石炭層 其ノ變位(皺、斷層等)九州、北海道ニ於ケル石炭ノ産地 石炭ノ生因 仙臺ノ埋レ木 泥炭 石墨 教授用具

石炭ノ片 石炭坑内ノ畫 厚紙、板、粘土等(地層ノ曲リ、厚サノ變化、斷層等ヲ説明スル爲ノモノ)仙臺ノ埋木 泥炭 鉛筆

粘土、粘板岩

瓦、煉化石、茶碗等ノ原料 其ノ製法 河沼等ノ底ニアル粘土 粘土ノ性質 陶土 粘土ノ中ニ介化石ノ存在スルコト 石盤硯石等 粘板岩ト粘土ノ比較 教授用具

石灰

瓦、煉化石、茶碗 捏ネタル粘土 川ノ粘土 介化石ヲ含ミタル粘土 學校ノ石盤 黒キ硯石

漆喰ノ中ノ一原料 燒キテ石灰ヲ得ル石 石灰ノ燒キ籠 石灰岩ノ産出 鐘乳石ノ生因 鹽酸ト石灰岩トノ反應 石灰岩ニ對スル水ノ作用 石灰洞石灰岩ノ材料ナル方解石 其ノ劈開 重屈折 大理石 美濃赤坂ノ石灰山 石版用ノ石灰岩

珊瑚礁 教授用具

石灰 石灰岩 石灰ノ燒キ籠ノ畫 石灰岩掘リ場ノ畫 固有ノ凹凸多キ石灰岩表面ヲ示ス畫 鐘乳洞ノ畫 鹽酸 方解石ノ劈開片(透明ナルモノ) 大理石 石版印刷ノ石 珊瑚礁ノ畫

石油

石油ノ産出ト採取 汲ミ井戸、噴キ井戸其ノ色、臭ミ、比重、揮發性 製油所 ランプ油、器械油、石蠟 越後ノ火ノ井戸(石油ト共ニ出ル瓦斯)

教授用具

山ヨリ出テタル儘ノ石油 石蠟ノ蠟燭 機械油 硫黃

附木ノ硫黃 硫黃ノ色、つや、燃ユル臭ミ等 火山ノ蒸氣ト其ノ臭ミ 同所ニ生スル花硫黃 硫黃ノ産出ノ狀 噴火山 硫氣ノ岩石分解 火山ノ岩石 火山灰 熔岩ノ形(其ノ生因) 岩脈 熔岩流 教授用具

附木 硫黃ノ粉 火山ノ花硫黃 硫氣ニテ朽チタル火山ノ石 火山岩 火山灰 富士ノ繩狀熔岩 岩脈ヲ示スヘキ粘土即成ノ模型 熔岩流ヲ示ス圖 銀、銅、鉛、鐵等

銀、銅、鉛、鐵等及其ノ合金ノ用途 銀、銅、鉛、鐵ノ鑛石 其ノ鑛山 輝銀鑛ノ外見 方鉛鑛ニモ銀ヲ含ム

コト 黃銅鑛 其ノ色、つや、粉末ノ色、燒クル臭ミ等 方鉛鑛 其ノ色、つや、劈開等 吹管ヲ用ヒテ分解スレハ鉛ヲ得ルコト 磁鐵鑛 其ノ色、磁氣 鑛石一般ノ産出 鑛脈、鑛床 教授用具

銅板 鉛ノ玉 鐵釘 輝銀鑛 黃銅鑛 條痕板 方鉛鑛(粗粒質ノモノ) 木炭 ソーダ 吹管 ちな板 酒精燈 磁鐵鑛 鑛脈ヲ示ス圖 鑛塊ノ畫 鑛脈、鑛塊ノ粘土模型

黄金

黄金ノ用途 其ノ鑛展 其ノ色、つや、比重 砂金 金鑛 北海道、佐渡等ニ於ケル金産地 教授用具

金箔 砂金場ノ畫 黄金ヲ含ミタル石英脈

飾リノ石

寶石ノ特性 金剛石 日本ノ黃玉、水晶 孔雀石、瑪瑙 大理石、蛇紋石 琥珀等 是等ノ物ノ用途 教授用具

日本ノ黃玉 孔雀石 大理石 蛇紋石 琥珀

岩石

石灰岩、砂岩、礫岩(層狀岩) 安山岩、花崗岩(塊狀岩) 岩石ノ生因(水成岩、火成岩) 土地ノ岩石ノ生因ヨリ昔ノ地勢等ヲ知ルコト 岩ノ中ノ化石 海ノ介カ山ノ岩ノ中ニ見出サル、コト 奇形ノ化石ト其ノ時代 岩石識別ノ諸點 其ノ薄片ヲ顯微鏡ニテ見タル様子 粘板岩、大理石等、建築ノ石材 石垣ノ石材 礫岩等、道鋪ノ石材 石碓 教授用具

石灰岩 安山岩 花崗岩 あんもん介又ハ其ノ畫 顯微鏡ニテ岩石ヲ見タル様子ヲ示ス圖

地球

地殻ノ構造(岩ト土) 層、皺、斷層、岩脈、岩株等 岩石分解、崩壊等 水蝕ト沈澱 石垣等ノ風化、景色
ト地質トノ關係 地中ノ有用物 地變(火山、地震、山崩等) 大氣、氣象 四季、晝夜、地球ト日月 日蝕
月蝕 月ノ表面、運動 惑星、太陽系 其ノ他ノ天體
教授用具

土 鐵道切り割りニ於ケル地層ノ斷面圖 堅岩ノ山ト軟岩ノ山ノ景色畫 風化シタル岩ト其ノ新鮮ナル部分 火山、地震、山崩等ノ畫 雨量圖 風向圖 同溫線圖 地球儀 羅針盤 日時計 日蝕、月蝕ノ説明圖 月ノ表面ノ畫 太陽系ノ略圖
前記ノ教授事項及用具ノ目ハ其ノ目的及範圍ヲ示スニ止マレハ必シモ之ニ拘ハルコトナク便宜之ヲ變更スルコトヲ得要スルニ是等ハ成ルヘク日常卑近ノモノニシテ鑛物及岩石ノ類ヲ代表シ且廣ク形態、理化學性、產出ノ狀、生因及變化、應用、地質上ニ於ケル相互ノ關係等ニ涉リテ鑛物界全般ノ概念ヲ得シムル便アランモノタルヘシ

第二 植物

第二學年

每週二時

植物ノ教授ハ分類ニノミ偏スルコトナク植物界ノ現象全般ニ涉ルヘシ其ノ事項ノ主要ナルモノ次ノ如シ

形態 植物體ノ主要ナル器官 其ノ種々ナル變形

解剖

植物體根本的構造ノ大要(細胞、導管、組織、細胞含有物ノ主要ナルモノ、根、莖、葉等ノ解剖) 蟲眼鏡及顯微鏡ノ用法

生理

營養 同化 吸收 通發 呼吸 生長 運動 刺戟感應 生殖等ノ大要 是等ノ諸作用ト人體及動物體ニ於ケルモノトノ類同

生態

植物生活ト外圍トノ關係 其ノ形態、解剖、生理、分布上ニ於ケル影響

分類

分類ノ主意 簡易ナル一ノ自然分類法 雙子葉類、其ノ主要ナル科ノ數例

單子葉類、其ノ主要ナル科ノ數例 松柏類 羊齒門、蕨苔門 菌藻門ノ大要、醱酵、腐敗、傳染病ノ原因タル下等植物ノ大要 學校所在地方ノ普通植物中顯著ナルモノ、種類、名稱

分布

學校所在地方ニ於ケル植物ノ分布 生態的分布 植物群落 高山植物 海濱植物 砂地植物 濕地植物

等

應用

植物カ自然界ノ經濟上ニ及ホス影響 植物ノ人生ニ於ケル關係 木材其ノ他食用、藥用、工業用、園藝用等ニ係ル日本産及外國産植物中最主要ナルモノ其ノ有用ナル部分ノ特性

前記ノ事項ハ必シモ順序ヲ追フテ授クルコトヲ要セス適宜分合シテ之ヲ授クルコトヲ得、特ニ季節ニ應シテ適當ナル題目(例ヘハ春季ニ發芽、櫻花、菜花、秋季ニ果實、紅葉、落葉等)ヲ選ミ之ニ就キテ便宜形態、解剖、生理、生態、分類、分布、應用ノ諸項若ハ其ノ中ノ數項ヲ歸納的ニ授クルカ如キハ生徒ノ興味ヲ増シ理會ヲ助クル益アルヘシ

第三 生理及衛生

總論

人體ハ有機體ナルコト 生理、衛生ノ意義 其ノ人生ニ於ケル價值、衛生及道德 人體作用ノ主要ナルモノ
ノ 器官系統 人體ヲ構造スル結局ノ要素ハ植物ニ於ケルカ如ク細胞ナルコト
骨骼系統

骨格ノ大要(頭骨、軀幹骨、上肢骨及下肢骨ノ主要ナルモノ)

關節及其ノ種類 骨ノ構造 軟骨 骨格ノ作用

筋系統

筋ノ構造 腱、靱帶 筋ト骨トノ關係 筋系統ノ作用 直立及諸種ノ運動(步行、走行、跳ぶこと) 顯著
ナル筋肉(兩頭筋、三稜筋、大臂筋、腓腸二頭筋等)

衛生

消化系統

消化系統ノ諸部 其ノ消化作用 食物ノ種類 普通食物ノ成分ノ大要、其ノ營養及消化ノ程度

衛生

循環系統

血液 心臟ノ構造 動脈 靜脈 毛細管 心臟ノ鼓動 脈搏及其ノ數 循環系統ノ作用 淋巴管及腺

衛生

呼吸系統

肺臟及氣管ノ構造 呼吸運動 呼吸系統ノ作用 發聲器

衛生

皮膚

皮膚ノ構造、結締組織、脂肪 皮膚ノ作用 毛髮、爪

衛生

腎臟

腎臟ノ構造及作用

衛生

神經系統

腦ノ構造及作用 脊髓ノ構造及作用 神經ノ構造及作用 交感神經

衛生

五官

眼ノ構造及作用 耳ノ構造及作用 嗅器ノ構造及作用 味器ノ構造及作用 觸器ノ構造及作用

衛生(特ニ近視眼豫防上ノ注意)

全身ニ關スル事項

體温、發熱 新陳代謝、生長、肥滿、竊瘦 全身ノ調整

全身ノ衛生

清潔 運動、休息 起臥 修學時間 旅行ニ對スル心得 救急療法 疾病ニ對スル心得等
公衆衛生

各器官系統ノ衛生ヲ授クル際其ノ系統ノ最躍リ易キ疾病ノ名稱ヲ知ラシムヘシ

第四 動物

第三學年第三學期

第四學年第一學期及第二學期

每週二時

每週一時

動物ノ教授ハ分類ニノミ偏スルコトナク動物界ノ現象全般ニ涉ルヘシ其ノ事項ノ主要ナルモノ次ノ如シ

分類ノ主意 分類ノ方法 動物界諸門ノ概性

脊椎動物

哺乳類

鳥類

爬蟲類

兩棲類

魚類

各類諸目ノ大要

節足動物

多足類、蜘蛛類

昆蟲類

其ノ諸目ノ大要

甲殼類

軟體動物

瓣鳃類

腹足類

頭足類

蠕形動物

棘皮動物

腔腸動物

海綿動物

原生動物

分類ヲ授クルニハ顯著ナル適例ヲ示シテ綱或ハ主要ナル目ヲ説明スルニ止メ分類區分ノ名稱、特徵等ヲ

細密ニ授クルコトナク主トシテ動物界ニ含有セラル、動物ノ概念ヲ與フルコトヲカムヘシ又必スモ前

記ノ順序ニ依ルコトヲ要セス

習性

生徒ノ容易ニ實驗又ハ目撃シ得ヘキモノ、自然界ノ現象トシテ趣味アルモノ、及人類ニ關係アルモノノ解剖、組織

脊椎動物ノ解剖ハ人體解剖ト比較シテ大要ヲ授ケ其ノ下等ニ至ルニ從ヒ漸次簡單ニナルコトヲ知ラシメ無脊椎動物ニ在リテハ其ノ一二ニ就キテ解剖ヲ授ケ其ノ他ハ特ニ注目スヘキ點又ハ外部ヨリ觀察シ得ヘキ點ヲ舉クルニ止ムヘシ

組織ニ於テハ動物體ハ細胞ヨリ成ルコトヲ知ラシムルヲ旨トシ必スシモ各器官ニ就キテ詳細ナル説明ヲナスコトヲ要セス

生殖、發生、生長

生物界ニハ自然發生ナキコト 無性生殖 有性生殖 卵 其ノ發生ノ大要 昆蟲特ニ蠶ノ變體 其ノ他ノ變體ノ大要

卵ノ發生ハカヘる、うに、なめくじら等を等ノ卵ニ就キテ之ヲ説明スヘシ

生態 寄生 共生 保護色及其ノ他ノ彩色等

分布

動物ノ散布 世界分布區系ニ就キ二三顯著ナル事實

動物界ノ變遷

化石 過去ノ動物ハ現今ノ動物ト異ナルコト 顯著ナル化石

動物ノ數例

動物界ト植物界、礦物界トノ關係

應用

●寄生蟲ニ對スル豫防 病媒媒介動物ニ對スル注意 農林業上ノ有害動物、有益動物 兩者ノ關係及其ノ應用 家畜、人爲淘汰 肥料 我國特ニ學校所在地方ニ於ケル主要ナル水産物ノ利用 食料 衣料 藥品、香料、染料 裝飾品等

前記ノ事項ハ分類ヲ主トシ各類ニ就キテ之ヲ授クルトモ、或ハ其ノ或ルモノハ分類ト同時ニ之ヲ授ケテ其ノ他ノモノハ別ニ之ヲ授クルトモ妨ナシ

第四學年第三學期ニ於テハ第一學年ヨリ授ケ來リタル事項ヲ總括シテ

自然界ノ微妙複雜ナル關係 生存競争 自然淘汰 人爲淘汰 進化論

ノ大意ヲ約說シ自然界ト人類トノ關係ヲ理會セシムヘシ

教授上ノ注意

一 博物ニ於テハ室内教授ニ伴フニ野外觀察ヲ以テシ生徒ヲシテ修業ノ後博物ノ名ヲ聞クトキハ直ニ自然界ヲ想ヒ出スニ至ラシメンコトヲ期スヘシ

二 博物ヲ授クルニハ實物ニ依リテ生徒ノ觀察及記載ヲ練習シ常ニ實物ニ訴ヘテ事物ヲ判斷スル習性ヲ養成スヘシ之ヲ爲時トシテ其ノ教材タル實物ノ要點ヲ簡明ニ寫生セシムルコトアルヘシ

三 博物ハ區分シテ之ヲ授クト雖モ常ニ礦物、植物、動物三界ノ相互ノ關係ニ留意シ生徒ヲシテ自然界ノ統一ニ就キテ明晰ナル概念ヲ得シムヘシ

四 人生ニ關係アル顯著ナル天然物ニ就キテハ直接、間接ニ其ノ有用又ハ有害ナル理由ヲ示シ且其ノ利用ヲ苟且ニ附スヘカラサルコトヲ知ラシムヘシ

五 各地固有ノ風景ハ之ヲ構成スル礦物、岩石、植物、動物ニ歸スルコト多キモノナレハ學校所在地方ニ於ケル其ノ種類、公布又ハ生態ヲ野外ニ於テ親シク示シ生徒ヲシテ自然界ヲ愛シ從ヒテ己ノ郷土ヲ慕フ念ヲ起サシメ又進ミテハ熱帶、溫帶、寒帶ノ風景ノ異ナルコトヲ說キテ他郷異邦ニ遊ブ快樂ヲ覺ラシム

ヘシ

六 植物及動物ノ教材ハ成ルヘク日本産普通ノ生物中ヨリ之ヲ採ルヲ可トス雖モ亦世界各地ニ産スル生物ニシテ最モ顯著ニ且最モ緊要ナルモノ、如キハ之ヲ引用センコトヲ要ス

七 解剖、組織ヲ授ケルニハ實物ニ就キテ解剖ヲ行ヒ又諸組織ノ簡易ニシテ生徒ノ理會シ得ヘキモノハふればらりと用ヒテ説明スヘシ

八 人體内臓ノ構造ヲ授クルニハ他ノ動物、就中哺乳類ヲ解剖シテ之ヲ明ニスヘシ又毛細管中ノ循環ハ蛙等ニ就キテ其ノ實狀ヲ目撃セシムヘシ

九 植物ノ教材ハ悉ク季節ニ從ヒテ之ヲ配列スルコト能ハサルモ成ルヘク季節ニ對應セシメンコトヲ力ムヘシ

十 生理及衛生ヲ授クルニハ各器官系統相互ノ關係ニ注意シ其ノ箇々獨立ノモノニアラサルコトヲ明ニスヘシ

十一 生理及衛生ノ事項ハ出來得ル限生徒自身ノ身體及經驗ニ訴ヘテ歸納的ニ之ヲ授ケ其ノ生徒自身ニ極メテ親密ナル關係アルコトヲ知ラシムヘシ

十二 適當ノ機會ニ於テ日常卑近ノ現象、例ハ循環ニ於テ赤面スルコト、顔面ノ蒼クナルコト、呼吸ニ於テくさめ、さくり、あくび、せきノ類ヲ説明シテ興味ヲ添ヘン事ヲ力ムヘシ

十三 衛生ニ於テハ吾人、日常ノ生活ニ最モ近接ナル事項ヲ授クヘシ

十三 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ

- 博物全體ニ通スルモノ
- 顯微鏡 蟲眼鏡 解剖用具(解剖針、解剖刀、解剖鉗、解剖皿、びんせつと等)みくろとーむ 剃刀 革砥
- 消毒器 酒精燈 試驗管 諸種ノ壘 貯藏藥品 其ノ他ノ材料

顯微鏡ハ接物れんす及接眼れんすノ組ミ合セニ依リ凡五十倍乃至四百倍ノ間ニ種々ノ廓大度ヲ有スルモノヲ以テ最モ便利トス
鑛物ニ關スルモノ

鐵槌 採集囊 吹管分拆用具 硬度計 天秤 螺旋秤 測角器 條痕板 おねろいど晴雨計 寒暖計
日時計 羅針盤 地球儀

主要ナル鑛物 結晶、晶簇、晶群ヲ示ス標本 主要ナル岩石 化石ヲ含ミタル岩石 鑛物、岩石ヲ原料トシタル加工品 風化ヲ示ス標本 簡單ナル結晶形ヲ示ス模型 鑛脈、鑛床、鑛坑ノ内部、地層、斷層、火山等ヲ示ス模型又ハ圖畫 風景圖 雨量圖 風向圖 同温線圖 其ノ他ノ掛圖
植物ニ關スルモノ

採集胴籠 壓搾器 主要ナル生理器械
乾燥標本

主要ナル植物ノ腊葉 學校所在地方ノ植物腊葉 材鑑 年輪其ノ他幹ノ構造ヲ示スモノ 纖維原料及製品 有用乾燥果實及種子 藥用植物、纖維植物、染料植物等ノ有用植物 澱粉製品 有毒植物 農業植物及果樹ノ媒助昆蟲 主要ナル組織ノふればら—と 微細植物のふればら—と
乾燥標本トシテ備フルモノハ生標本ヲ得難キモノ又ハ腊葉トシテ尙天然ノ色及形ヲ保存スルモノタルヘシ而シテ有用植物ノ標本ハ單ニ花及枝葉ノ形狀ニ重キヲ置カス主トシテ其ノ用途ニ從ヒテ有用ノ部分ヲ具備セシムヘシ例ヘハ根ヨリ澱粉ヲ取ルモノハ根部、皮ヨリ纖維ヲ取ルモノハ皮部ヲ具備セシムルカ如シ
あるこ—る又ハふふるまりん標本

多肉果實 多肉植物 食蟲植物 寄生植物 有毒菌類 食用菌類

あるこ—る又ハふふるまりん標本トシテ備フルモノハ實驗ニ使用スヘキ材料ニシテ季節ニ於テ容易ニ得難キモノ又ハ其ノ時期長カラスシテ適當ノ季節ヲ誤ル標本アルモノ、模範的ニシテ大ナル果實ノ解剖標本、其ノ他乾燥スルトキハ天然ノ狀態ヲ損フコト甚シキ標本アルモノタルヘシ
生標本

主要ナル山林樹木 藥用植物、纖維植物、染料植物等ノ有用植物 有毒植物 花又ハ果實ノ色、大サ、形等ノ顯著ナルモノ 形狀、生態等ノ珍奇ナルモノ 普通ノ接木、採木等花壇ハ定時又ハ臨時ニ材料ヲ得ル所タルノミナラス又屋外教授ヲモナシ得ヘキ所タランコトヲ要ス

花壇ニハ簡單ナル分類花壇ノ外、生理花壇、生態花壇等ヲ設ケ生理花壇ニハ就眠植物、纏繞植物等ヲ、生態花壇ニハ肉食植物、寄生植物等ヲ植ウルモ亦興アルヘシ

前記ノ外模型又ハ圖畫ヲ利用スルコトヲ怠ルヘカラス

植物園、農事試驗場等ノ設アル地方ニ在リテハ之ヲ利用シ學校ノ設備ノ不足ヲ補ハンコトヲ力ムヘシ
生理及衛生ニ關スルモノ

檢眼鏡 暗箱 實體鏡 觸覺ヲ測ル器 體温器 救急函 人体骨格 人体ノ紙塑模型 眼ノ模型 耳ノ模型 主要ナル組織ノふればら—と 病菌ノふればら—と 人体寄生動物掛圖

動物ニ關スルモノ
捕蟲網 どれつち とろ—る ちつば— 採集箱 展翅板 注射器 解剖用録 骨鈹

主要ナル綱目ヲ代表スル動物 其ノ骨格 解剖、生長、變體等ヲ示ス標本又ハ模型 保護色、季候變形、兩性變形、寄生、共生等ヲ示ス標本又ハ模型 有用動物 有害動物 學校所在地方ノ動物 動物ヲ原料トシタル加工品 主要ナル組織ノふればら—と 微細動物ノふればら—と 化石動物數種又ハ其ノ模型或ハ圖

動物ノ標本ハ生標本ヲ以テ最良トス然レトモ種々ノ事情ニ依リ之ヲ備ヘ難キコト多キカ故ニ剝製標本、
あるこゝる標本等ヲ備フルコトヲ要ス而シテ是等ノ標本ハ生キタル動物ノ代表者ナレハ成ルヘク其ノ生
態ヲ示スモノヲ可トスあるこゝる標本ニシテ收縮等ニ依リ其ノ生時ノ状態ヲ推知シ能ハサルモノ、如キ
ハ教授上殆ト無益ナリトス

掛圖ハ時トシテ標本ヨリモ用ヲナスコト多キコトアレハ十分ニ之ヲ利用スヘシ
動物園、水産試験場等ノ設アル地方ニ在リテハ之ヲ利用シ學校ノ設備ノ不足ヲ補ハンコトヲ力ムヘシ
物理及化學

第一 物理
第五學年
每週四時

力學
長サ、面積、立積、時ノ單位 靜止及運動 速度及其ノ計リ方 加速度 運動ノ組立及分解 圓運動 慣
性 力 質量 質量ノ單位 密度 力ノ絕對單位 力ノ重力單位 運動量 作用及反動 質點ニ作用ス
ル力ノ組立及分解 重力 落體 拋射體 剛體ニ作用スル力ノ組立及分解 力ノ能率 重心物體ノ座リ
天秤 挺子、輪軸、滑車等 摩擦 仕事 仕事ノ單位 之ねるぎ一ニ二種アルコト 之ねるぎ一ノ保存
單振子 合成振子 相當單一振子 時計 之ねるぎ一ノ測定 宇宙引力
物性

分子 分子力 物質ノ三態 彈性 ふつくノ定律 毛管現象表面張力 滲散 滲透 吸收 液體ノ壓力
ばすかるノ原理 水壓器 重力ニヨリテ生スル壓力 水平面 水準器 あるきめですノ原理 浮游體
比重及其ノ測定 浮秤 流出液ノ速度 大氣ノ壓力 ところちえり一ノ實驗 晴雨計 晴雨計ニヨリテ
山ノ高サヲ測ルコト 大氣中ノ浮力 ぼいるノ定律 空氣ばんぶ 水ばんぶ 物質ノ保存

音響

振動 週期 振動數 振幅 波動 波及ノ速度 波長 位相高低波 疎密波 音響ノ發生及傳達 音響
ノ速度 音ノ反射 音ノ干涉 音ノ強サ 音ノ高サ 音ノ音色 原音 陪音 入ノ音聲及音樂ニ用フル
音ノ振動數 蘇音器 唸リ 共鳴リ 絃、板、膜、棒、氣柱等ノ振動

熱

溫度 諸種ノ寒暖計 固體ノ膨脹 膨脹ニ伴フ密度ノ變化 膨脹係數 液體ノ膨脹 水ノ膨脹 氣體ノ
膨脹 じやゝるノ定律 ぼいの定律トしやゝるノ定律トノ關係 絕對溫度 熱量及其ノ單位 物體ノ熱
容量 物質ノ比熱 比熱ノ測定 熱ハ之ねるぎナルコト 仕事當量 じやゝるノ實驗 蒸氣機關 融解
及凝固 融解熱 寒劑 蒸發 沸騰 氣化熱 液化 濕度及濕度計 蒸溜 傳導 安全燈 對流 輻射

光

光體 光ノ直進 陰影 速度 透明、半透明、不透明 光ノ強サ 光度計 反射ノ定律 散光 平面鏡
像 球面鏡 焦點距離 屈折ノ定律 屈折率 逐次ノ屈折 全反射 れんす れんすノ焦點距離及れん
すノ作ル像 暗箱 眼鏡 顯微鏡 望遠鏡 幻燈 ぶりすむ 光ノ分散 すべくとる 分光器 すべく
とるノ種類 ふうらんぼーふゝる線 輻射線ノ種類 輻射ト吸收トノ關係 すべくとるノ分拆 虹 物
體ノ色 燐光螢光 光ノ波動說 波長 光ノ干涉 光ノ偏リ 複屈折

磁氣

磁石ノ兩極 羅針盤 兩極間ノ作用 磁氣ノ感應 くりろんノ定律 磁場及指方線 磁石ノ作り方 地
磁氣 方位角 傾角 水平分力 等磁線及地磁氣ノ變化

靜電氣

摩擦ニヨル發電 傳導 二種ノ電氣 くりろんノ定律 電氣量ノ單位 驗電器 電氣ノ分配 尖點ノ作

用 電氣ノ感應 ういひしゃすとの起電機 ぼてんしゃる 電氣容量 れいでん瓶及てんでんさい 雷電 避雷針

流動電氣

電池、極 電流 輪道 電動力 各種ノ電池 えるすてつどの實驗 あんべーるノ定律 電流ノ作ル滋場 それのいど 電流相互ノ作用 電磁石 電鈴 電信機 電流計 無定位針抗抵 おーむノ定律 電氣諸量ノ單位 輪道ノ分派 電池ノ繋キ方 電磁氣感應 相互感應 れんつノ定律 自己感應 るーむこるふノ感應器 電氣火花 がいすれる管 くるーくす管 れんとげんノ實驗 電話 微音器 だいなも及電氣發動機 じやうるノ定律 電燈 熱電流 電流ノえねるぎー 電氣分解 ふあらでーノ定律 電鍍術及電鑄術 蓄電池 尺貫法單位ノ外めーとる法特ニCGS法ヲ授クヘシ 光ノ波動説、偏リ及複屈折ハ其ノ大意ヲ説クニ止ムヘシ

第二 化學

第四學年 第一學期及第二學期 第三學期

每週三時 每週四時

普通ノ氣體

空氣、酸素及窒素 燃燒及酸化 化學變化 化合物、單體及元素 質量ノ不變 水及水素 定比例ノ定律 無水炭酸 炭素ノ循環 元素ノ不滅 酸化炭素 倍數比例ノ定律 鹽化水素及鹽素 おむむにあ及鹽化 おむむにうむ氣體ノ通性 氣體反應ノ定律 分子量 原子量 記號 分子式 實驗式 原子價 基 示性式 原子分子説 酸素及其ノ化合物 酸素及かぞん 酸化物、水酸化物及過酸化物 酸化物ノ分類酸、鹽基及鹽非金屬元素及金屬元素

はろげん及其ノ化合物

鹽素、臭素、沃素及弗素 はろげん化合物 はろげんノ酸化物、酸及鹽 溶液 飽和及結晶 電解及其ノ定律

硫黃及其ノ化合物

硫黃 硫化物 硫黃ノ酸化物、酸及鹽 溶液

溶液

溶液ノ滲透壓 蒸氣壓、沸點及冰點ノ變化 電解質ノ水溶液ノ特點 電離 酸及鹽基ノ強弱 中和熱 反應熱

窒素、磷、砒素及其ノ化合物

窒素、磷及砒素 其ノ水素化合物 其ノはろげん化合物 其ノ酸化物、酸及鹽 窒素ノ循環 活動量

化學變化ノ速度 活動量 可逆反應 化學平衡

炭素、珪素、硼素及其ノ化合物

炭素 木炭及石炭 石炭瓦斯及水瓦斯 めたん、おちれん及あせちれん 火焰 炭素ノ酸化物及硫化物 炭酸及其ノ鹽 しあん及しあん化合物 錯鹽 珪素、珪酸及其ノ鹽 硼素、硼酸及其ノ鹽 金屬及其ノ化合物

なとりうむ、かりうむ及其ノ化合物 おむむにうむ化合物

かるしうむ及其ノ化合物 まぐねしうむ、 亞鉛及其ノ化合物 鐵、につける、こばると、まんがん、くろむ、あるみにうむ及其ノ化合物 錫、鉛、著鉛、 わんちもん及其ノ化合物 銅、銀、水銀、金、白金及其ノ化合物 合金 冶金術 週期律

原子量ノ順序ニ配列シテノ元素ノ比較 原子量ト物理性質及化學性質トノ比較
有機化合物通説

有機化合物ノ特性 其ノ成分 異性體 構造式
脂肪族化合物

鎖狀炭化水素 石油 あるこゝる類 はろげん誘導體 えーてる類 あるでひと類及けとん類 酸類
えすてる類 蠟 油及脂肪 石鹼 あみん類及あみど化合物 炭水化物
芳香族化合物

こゝるたゝる べんせん及其ノ同族體 にとろ及あみの誘導體 ふえの類 酸類 なふたれん及あんつ
らせん ありざりん、藍靛及わにりん染料 てるべん及樟腦族 びりぢん、さのりん及あるかういど 蛋
白質

醱酵及腐敗
醱酵 酵素及酵母 腐敗 消毒及防腐
硫酸、あるかり、漂白劑、肥料、硝子、陶磁器、漆喰、せめんと、合金等ノ製法及用途、普通金屬ノ冶金、寫眞、染
色、醸造等應用ニ關スル事項ハ適當ノ機會ニ於テ之ヲ授クヘシ

教授上ノ注意
一 物理及化學ヲ授クルニハ成ルヘク卑近ナル實例ニ依リ且器械、標本等ノ許ス限リ實物ヲ示シ實驗ヲ行
フヘシ

二 密度ト比重ト、質量ト重サトノ區別ハ初學者ノ誤リ易キモノナレハ特ニ注意シテ之ヲ明ニスヘシ
三 物質保存及えぬるぎ一保存ノニ大定律ハ物理學ノ骨子タレハ其ノ諸目ヲ授クルニ當リ常ニ此ニ定律ニ
留意スヘシ

四 化學上ノ定律及學說ハ生徒既知ノ事實ニ關聯シテ之ヲ授ケ尙暹ク化學ノ諸目ニ通シテ之ヲ活用ヲ示シ
徒ニ高遠ナル理論ニ馳セサランコトヲ要ス時ニ溶液ニ關スル諸目ノ如キハ日常ノ事柄ニ聯關スルモノ
少カラサレハ適例ヲ舉ケテ充分之ヲ説明スヘシ

五 時々簡易ナル計算問題ヲ課シ生徒既得ノ知識ヲ精確ナラシムヘシ
六 實驗ハ教授前周到ニ注意シテ之ヲ試ミ教授ノ際任損シナカランコトヲカムヘシ

七 實驗ニ要スル器械、器具、材料及藥品等ハ成ルヘク教授前ニ教室ニ出シテ準備シ置クヘシ
八 實驗ハ之ヲ全體ノ生徒ニ同時ニ示サンコトニ留意シ教員及前面ノ生徒ノミ之ヲ見テ他ハ之ヲ見得サル
弊ニ陥ラサランコトヲ要ス例ハ物理ニ於テ金箱驗電器ノ金箱ノ閉閉及電流計ノ針ノ運動ヲ示ス如キ
實驗ハ之ヲ一人ツ、各自ニ見シムルトキハ時間ヲ費ヤスコト多キニヨリ能フヘクハ教室ノ窓ヲ閉チ
テ暗黒ナラシメ得ル裝置ヲナシヘリおすたつとヲ以テ太陽ノ光ヲ導キ色消れんすノ口徑五六センチ
トとるニシテ焦點距離ノ長キモノ(一メートル)ト短キモノ(二十乃至三十センチ)ト使用シテ
幻燈的ニ教室ノ内壁ニ投影セシムルナドモ一策ナリ

九 學校附近ニ工場等アルトキハ成ルヘク實地ニ就キテ機械工業、化學工業等ノ説明ヲ與フヘシ
十 物理ト化學トハ成ルヘク同一ノ教員之ヲ擔任シ其ノ教授ハ互ニ關聯補充スヘキハ勿論又他ノ學科目特
ニ博物數學トノ連絡ヲ圖ルヘシ

十一 術語ハ物理ニ於テハ成ルヘク東京數學物理學會編纂物理學術語和英佛獨對譯字書ニ、化學ニ於テハ
成ルヘク高松豐吉櫻井錠二編纂化學語彙ニ據ルヘシ

十二 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ
物理ニ關スルモノ

尺 めゝとる尺 卷尺 紙すけゝる數枚 日本樹 五〇〇及五〇〇〇ノ硝子製量器 時計 やえるにえ

物理ニ關スルモノ

尺 めゝとる尺 卷尺 紙すけゝる數枚 日本樹 五〇〇及五〇〇〇ノ硝子製量器 時計 やえるにえ

一模型 回轉器 鐵、亞鉛、銅、真鍮等ノ同大ノ球及圓筒 象牙球 鐵すぶりんぐ(螺旋形ニシテ強キモノ及弱キモノ)化學天秤 精微分銅一組 天秤 日本秤 蠟秤 分銅 鉛製分銅數箇(五十瓦、百瓦、一きろ瓦等各數箇) 大小單滑車數箇 輪軸 各種滑車 斜面螺旋等ノ標本 鞆すたんど數箇 上下臺 取付萬力 試驗管各種 蒸發皿 ビーカー大小數箇 硝子管大小數種 毛細管數種 ふらすこ若干 硝子板 硝子管細大數種 木栓大小數種 金工道具 木工道具

ばすかるノ原理ヲ示ス器 底壓ヲ示ス裝置 ぶらま水壓器 連通水平器 準^{ミシヤ}浮秤(にこるそん及ぼーめー)あるきめですノ原理ヲ示ス裝置 比重瓶 水銀晴雨計 あねろいど晴雨計 空氣ばんぶ及附屬品 水ばんぶ 波動ヲ示ス裝置 さうわーる齒輪 音叉(振動數ノ知レタルモノ二三種及兩脚ニ重錘ヲ附シ之ヲ移動セシメテ音調ヲ變シ得ルモノ二三種)ものこーど 風琴管 りーどばいぶ 蘇音器 さいれんくらとにノ實驗ヲ示ス圓板、角板及萬力

寒暖計(水銀、あるこーる、最高、最低、乾濕球等ノ攝氏目盛寒暖計外ニ華氏目盛寒暖計一本)標準點ヲ定ムル裝置 金屬ノ膨脹ヲ示ス器 補整振子 蒸氣器械模型 いんげんはらす熱傳導比較器 安全燈 平面鏡 凹凸球面鏡 四方硝子水入箱 かつちかるべんちノ用ヲナスヘキV字形溝付長板及其ノ上ニ動クヘキ臺 ぶりすむ(直角及六十度) 液ぶりすむ れんす數種(凹凸共) 顯微鏡 望遠鏡 雙眼鏡 すべくとろめーとる 色硝子數種 寫眞器械 眼球模型 おいすらんとすばー 偏光器 へりおすたつと

棒磁石二本一組 馬蹄形磁石 羅針盤 傾角針 振り秤ノ裝置(靜電氣ニモ使用スルモノ) 鐵粉 鐵棒 鋼棒

えばないと棒、硝子棒、猪皮等ノ一組 絶緣臺 金箔驗電器 電氣振子 電氣盆 ういむしやーすと起電機(放電ヲ示ス附屬器附) れいでん新數箇(大小又分解シ得ルモノヲ含ム) 放電子 電氣ノ表面ニノミ

アルコトヲ示ス裝置

ふんせん、だにえる、乾電池等ノ電池各數箇 鏡附高抵抗電流計(らんぶすけーる附) 正切電流計 粗製電流計 それのいど あんべーる臺 電磁石 電鈴 もーるす印字機 受話器 微音送話器 抵抗箱 すらいどぶりつち 感應ヲ示スこーる一組 感應こーるがいはする管 くるーくす管 (X線ニ使用シ得ルモノ) 靑酸白金ばりらむすくりーん はんどだいなもーとる 白熱電燈 ぬーく燈 さーもばい

る 電氣分解器 絶緣不絶 綠ノ銅線數種

器械及其ノ標本ハ總テノ種類ノモノヲ完備スルコトヲ得ハ甚タ好都合ナルコト勿論ナレトモ經費等ノ事情ニ依リ之ヲ許サ、ルコト多シ宜ク輕重ヲ察シテ之ヲ選擇スヘシ次ニ學クル所ハ此選擇ヲナスニ當リ考フヘキ主要ノ點ナリ

器械ニハ其ノ製作上甚タ精巧ナルモノト然ラサルモノトアリ例ヘハ前者ニハるーむこるふ感應こーるノ如キアリ後者ニハ作用ト反動トヲ示ス器ノ如キアリ而シテ感應こーるノ如キ精巧ナルヘキ性質ノモノニシテ唯々外觀ノミ美ニシテ其ノ用ヲナサ、ルモノアリ此種ノモノハ價ヲ吝マス良好ノモノヲ購入スヘシ分光器ノ如キモ不良ノモノヲ購入シテふらうんはーふえる線ヲダニ示スコト能ハサリ例アリ又精巧ヲ要セサル性質ノモノニシテ徒ニ華美ナル臺ヲ附ケ柱ヲ立テ金具ヲ以テ飾リ強ヒテ外觀ノ美ヲ街フモノアリ是等ノ器械ヲ購入スルハ全ク無用ノ業ナレハ極メテ粗製ノモノヲ有スレハ可ナリ

作用ト反動トヲ示ス器ノ如キハ粗製ニテ可ナルコトヲ述ヘタレトモ尙一步進ミテ考フルトキハ此ノ如キモノハ殆ト購入ノ値價ナキモノナリ是等ノ器械ハ教室ニ備ヘ置クヘキすたんど及象牙球又ハ木球等ヲ用ヒテ隨時裝置シ得ヘキナリ特ニ注意スヘキハ新ラシキ事實現象ヲ示スニ一々特種ノ器械又ハ裝置ヲ用フルトキハ生徒ハ此ノ如キ器械ニ非サレハ是等ノ事實現象ヲ學ヒ得サルモノト考フルニ至ルテアリ故ニ止ムヲ得サル場合ニ於テ特別ノ器械裝置ヲ用フルトキハ充分ニ生徒ヲシテ其ノ精巧ノ器械裝置ヲ要スル所

以テ悟ラシメ然ラサル場合ニ於テハ成ルヘキ丈ケ勿體ラシキ器械裝置ヲ使用セサル様ニスヘシ
化學ニ關スルモノ

酒精燈及酒精噴燈若ハ瓦斯燈 化學天秤及分銅 寒暖計 木栓壓搾器 木栓穿孔器 圓形鏟 三角形鏟
鉢 小刀 吹管 吹管用燈 磁製及鉛製坩堝 坩堝夾 足踏靴 手靴 燃燒匙 燃燒管 乳鉢及乳棒漏
斗及漏斗臺 ヲベツトビユレツト及ビユレツト臺 一レとると及れとると臺 冷却器及冷却器臺本製及金
屬製架臺 三脚臺 湯煎器 水浴 空氣浴 割度圓筒 量液瓶 挾止 挾子 活栓付硝子管 水槽 瓦
斯溜 三ツツ氏氣體發生器 U字形乾燥器 塔狀乾燥器 乾燥放冷器 有口硝子鐘 有度圓筒 炭酸定
量器 水ノ電解器 鹽化水素ノ電解器 加里球 おむもにわ容積成分測定器 鹽化水素容積成分測定器
ゆーちふめーとる 驗氣器 滲透壓實驗器 示差寒暖計 溶液沸點測定器 溶液冰點測定器 ヲーカ
一 蒸發皿 時計皿 廣口硝子壺 狹口硝子壺 九底硝子瓶 平底硝子瓶 三口壺 二口壺 安全管
漏斗管 活栓付漏斗管 硝子板 硝子管 硝子棒 試驗管 びび管 濾紙 白金線 銅線 木栓 金網
其他ノ諸材料
次ノ諸製造等ノ裝置機關ヲ示ス模型又ハ掛圖
硫酸製造 あるかり製造 石炭ノ乾溜 陶磁器窯 反射爐 鼓風爐 製鋼爐 釀造 蔗糖製造
化學藥品ハ之ヲ示サスト雖モ此要目ニ關スルモノニシテ保存ニ不便ナルモノ若ハ高價ナルモノ、外ハ必
ス之ヲ備ヘ其ノ品質ニ依リ或ハ之ヲ標本用トシ或ハ兼テ之ヲ試驗用トスヘシ
法制及經濟
第五學年

第五學年

每週二時

法制、經濟及道德

國體及政體

天皇 皇位繼承 大權

臣民

國籍 臣民ノ權利義務

帝國議會

議會ノ組織、權限 議會ノ召集、會期、開會、閉會、停會及衆議院ノ解散

國務大臣及樞密顧問

司法裁判所

裁判所 辯護士、執達吏、公證人 民事訴訟、刑事訴訟及非訟事件

行政

外務行政 內務行政 財務行政 軍事行政 教育行政 農商務行政 遞信行政

府縣

地方長官附警視總監 府縣會 府縣參事會

郡

郡長 郡會 郡參事會

市町村

市會、町村會 市參事會 市長、町村長

行政ヲ授クル際適當ノ機會ニ於テ臺灣總督及北海道廳長官ニ關スル事項ヲ知ラシムヘシ

行政裁判所

行政訴訟 訴願

人及法人

未成年者 禁治產者 準禁治產者 法人

物權

物權ノ性質 物權ノ主要ナル種類

債權

債權ノ性質 債權ノ主要ナル原因

親族

親等 家 親子 親權 後見 婚姻 扶養ノ義務

相續

家督相續 遺產相續 遺言

經濟

經濟上主要ナル概念

生産

生産ノ要素 分業及協力 企業 機械 競争

交換

物價附市場 貨幣及現行貨幣制度 信用及信用證券 銀行 貿易 交通

分配

地代 利子 賃銀 利潤

消費

消費ノ種類 家計 勤儉貯蓄 保險

財政

豫算 租稅 公債

前記ノ事項ハ必スシモ順序ヲ追フテ授クルコトヲ要セス便宜分合シテ之ヲ授クルコトヲ得特ニ日常ノ生活上出來スヘキ事實(例ヘハ法制ニ於テ選舉、貸借等經濟ニ於テ賃銀、家計等)ノ中ヨリ適當ノ題目ヲ選ミ之ニ就キテ前記ノ諸項若ハ數項ヲ授クルカ如キハ生徒ノ興味ヲ増シ理會ヲ助クル益アルヘシ

教授上ノ注意

- 一 法政及經濟ハ理論ニ馳セス學說ニ泥マス日常生活ノ事實ニ關聯シテ之ヲ授ケ國民的經濟的思想ヲ養ハシコトヲ要ス
- 二 統治及行政機關ノ組織、作用ヲ授クルニハ各種ノ地位職業ニ應シテ實踐上必須ナル臣民ノ權利義務、其ノ他警察、租稅、手數料、兵役、條約、戶籍等ニ關スル主要ナル行政事務ヲ知ラシムヘシ
- 三 私法ニ關スル諸目ニ於テハ唯々民事ニ關スル事項ヲ授クルノミナラス商事ノ概念(例ヘハ法人ノ目ニ於テ商事會社ノ種類性質等、債權ノ目ニ於テ商事上ノ債權債務等)ヲモ併セ授クヘシ
- 四 經濟ニ於テハ主要ナル經濟上ノ現象及其ノ理法ヲ授クルト共ニ現時ニ於ケル我國經濟上ノ狀態ヲモ知ラシムヘシ
- 五 財政ニ關スル諸目ニ於テハ單ニ國家ノ財政ノミニ止ラス市町村其ノ他地方團體ノ財政ヲモ説キ法制ニ於テ授ケタル是等ノ團體ノ概念ヲ補修セシムヘシ
- 六 法制ト經濟トハ教授上相關聯シテ互ニ補充スヘキハ勿論又他ノ學科目トノ連絡ヲ圖リ特ニ修身、歴史及地理等ト密接ノ關係ヲ保タシムヘシ
- 七 此要目ノ順序ニ依ラス日常生活ノ事實ヲ基礎トシテ教授スル場合ト雖モ目的ヲ誤マラサランコトハ勿

論教材ノ連絡ヲ闕キ生徒ニ正確ナル思想ヲ得シメサル弊ニ陥ラザランコトニ留意スヘシ
圖畫

自在畫 第一學年 每週一時

寫生畫、臨畫 簡單ナル幾何形體、器具、植物、動物ノ類

自在畫 第二學年 每週一時

寫生畫、臨畫 前學年ニ準シテ其ノ程度ヲ進メ又生徒學力ノ進度ニ應シテ便宜著色畫ヲ加ヘ授クヘシ
用器畫 幾何畫 直線、角、圓、多角形、常用曲線等ニ關スル描法

自在畫 第二學年 每週一時

寫生畫、臨畫 前學年ニ準シテ其ノ程度ヲ進メ又著色畫ヲ加ヘ授クヘシ
考察畫 寫生畫、臨畫及幾何畫ニ於テ習得シタル技能ヲ應用シテ簡單ナル圖案ノ類ヲ構成セシムヘシ

第四學年 每週一時

自在畫

寫生畫、考察畫

前學年ニ準シテ其ノ程度ヲ進メ人物景色ノ類ニ及ホスヘシ
用器畫 幾何畫

各種ノ平面形、立體(角錐、角錐、圓錐、圓錐)立體ノ截斷及立體表面ノ展開ニ關スル投影畫法
第五學年ニ於テ圖畫ヲ加ヘタルトキハ前學年ニ準シテ其ノ程度ヲ進メ又透視畫法ノ一斑ヲ授クルコトヲ得
教授上ノ注意

- 一 寫生畫ニ於テハ實物又ハ模型ニ就キ生徒ヲシテ視像ノ形狀陰影及色ヲ正シク判斷スルコトヲ習ハシメ且物體ノ位置距離等ニ從ヒテ視像ノ異ルコトヲ理會セシメ精確ニ之ヲ模寫スル技能ヲ養フヘシ
- 二 寫生畫ヲ授クルニハ成ルヘク先ツ教員自ラ模範畫ヲ示シテ其ノ布置描法ヲ説明スヘシ
- 三 臨畫ハ寫生畫ト關聯シテ之ヲ授ケ教授ノ際成ルヘク先ツ實物ヲ示シ臨本ニ對照シテ説明ヲ加フヘシ
- 四 臨本ハ正格ナル畫法ニ基キ奇癖ニ陥ル嫌ナキモノタルヘシ
- 五 畫題ハ成ルヘク他ノ學科目ト教授上ノ連絡ヲ圖リ應用ノ廣キモノ又ハ生徒ノ趣味ヲ養フニ足ルモノヲ選ヒ其ノ高尚ニ過クルモノ或ハ鄙陋ニ涉ルモノハ之ヲ避クヘシ
- 六 生徒ヲシテ常ニ姿勢及執筆ヲ正シクセシムヘシ
- 七 生徒ヲシテ成ルヘク名畫ノ類ヲ見シメコトニ留意スヘシ
- 八 生徒ヲシテ常ニ器具ノ整頓及保存ニ注意セシムヘシ
- 九 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ

臨本 幾何立體ノ模型 動物、植物及人物ノ模型 寫生用實物 畫板 筆洗 繪具皿 圖引器械 黑板

用こんばす 黒板用各種ノ定規 投影畫法ヲ示ス裝置 寫生畫教授用トシテ透視畫法ノ説明ニ用フル簡
單ナル裝置

唱歌

第一學年

每週一時

普通樂譜法

雪中行軍(中學唱歌) 運動會(同上) 明日は日曜(同上) 朋友(國教唱歌集) 朝起の鐘(中學唱歌) 駒の
蹄(同上) 雲雀(同上) 牛かふ童(同上) 我等は中學一年生(同上) 前途萬里(同上) 占守島(同上) 夏
やすみ(同上)

第二學年

每週一時

普通樂譜法

太平洋(中學唱歌) 四季の朝(同上) 寄宿舎の古釣瓶(同上) 大皇國(國教唱歌集) 馬上の少年(中學唱
歌) 旅路の愉快(同上) 告別(同上) 義勇奉公(國教唱歌集) 箱根八里(中學唱歌) 松下清水(同上)
去年今夜(同上) 七倒八起(國教唱歌集)

第三學年

每週一時

普通樂譜法

豐太閤(中學唱歌) 荒城月(同上) 遠別離(同上) 昇る日(國教唱歌集) 甲鐵艦(中學唱歌) 小川の流
(同上) 歸雁(同上) 世界はひろし輪唱(重音唱歌集) 樂しき教場(中學唱歌) 今は學校後に見て(同上)
御國の民(中等唱歌集) 直生の宿^{複音又ハ單音}(同上)

前記各學年ニ配當シタル歌曲ハ其ノ程度ヲ示スニ止マレハ便宜之ヲ交換加除スルコトヲ得要スルニ歌詞、
曲譜ハ共ニ生徒ノ知識感情ニ適應シタルモノニシテ歌詞ハ特ニ趣味ニ富ミタルモノ曲譜ハ音域廣カラスシ

テ成ルヘク爽快ナルモノタルヘシ
祝日、大祭日、其ノ他國家ノ典禮、學校ノ儀式ニ關スル歌曲ハ別ニ其ノ曲名ヲ擧ケスト雖モ機會アル毎ニ豫
メ之ヲ授クヘシ

教授上ノ注意

- 一 氣息演習、發音演習、拍子演習、調子演習、發想演習等ハ之ヲ遺漏ナク併セ授クルニハ樂譜ニ依ルコト最
モ便ナレハ唱歌教授ノ際歌曲ト附帶シテ之ヲ授クヘシ
- 二 唱歌ヲ授クルニハ常ニ生徒ノ感情ヲ興起センコトニ留意シ其ノ品位ヲ高雅ニシ氣韻ヲ雄大ナラシメン
コトヲ力ムヘシ
- 三 唱歌ヲ授クルニハ其ノ數ノ多キヲ求メスシテ十分之二熟達セシメ其ノ歌詞ヲ永ク記憶セシメンコトヲ
要ス
- 四 生徒ヲシテ唱歌セシムル際常ニ姿勢ニ注意セシメ又成ルヘク教員及樂器ニ依頼スルコトナカラシムヘ
シ
- 五 生徒中聲嘶、咳嗽等ノ疾患アル者及變聲期ニ際セル者ニハ便宜唱歌ヲ免除スヘシ
- 六 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ

風琴、洋琴又ハばいかりん 譜表ヲ記入シタル黑板 掛圖 掛圖臺 調音 又 めとろのこ 譜表臺

體操

第一學年

每週三時以上

普通體操

矯正術 徒手體操 啞鈴體操

兵式體操

徒手柔軟體操 徒手各個教練 徒手小隊教練

第二學年

每週三時以上

普通體操

矯正術 徒手體操 啞鈴體操 球竿體操 棍棒體操

兵式體操

徒手柔軟體操 徒手各個教練 徒手小隊教練 徒手中隊教練

第三學年

每週三時以上

普通體操

前學年ニ同シ

兵式體操

徒手柔軟體操 徒手各個教練 徒手中隊教練 器械體操 號令演習

第四學年及第五學年

每週三時以上

普通體操

前學年ニ同シ

兵式體操

柔軟體操 各個教練 小隊教練 中隊體操 器械體操 號令演習

教授上ノ注意

一 體操ヲ授クルニハ先ツ其ノ運動ノ目的筋肉ノ使用部等ヲ精シク説明シ然ル後正確ニ其ノ模範ヲ示シテ之ニ倣ハシムヘシ

二 一運動ヲ始メテ授クル場合ニハ精密ニ注意シテ些少ノ誤謬タリトモ寬假スルコトナク之ヲ矯正スヘシ

三 體操ヲ授クルニハ生徒ノ體力ニ留意シ過度ノ運動ヲナサシムヘカラス虛弱ナル生徒ニハ特ニ留意シテ始ヨリ強キ運動ヲナサシメス漸次之ニ堪フルニ至ラシムヘシ

四 既ニ授ケタル運動ハ反復練習シテ之ニ熟達セシムヘシ然レトモ長時間連續シテ同一ノ運動ノミナサシムヘカラス

五 塵埃ノ充滿シタル場所又ハ酷暑ノ時日光ノ直射ヲ受クル場所ニ於テ運動セシムルコトハ之ヲ避クヘシ器械體操ハ普通演習及應用演習ヲ課スヘシ進歩セル生徒ニハ特別演習ヲ課スルコトヲ得

六 體操教授時間ニ於テ運動ヲ行フコト能ハサルトキハ遊戯ノ方法ヲ説明シ其ノ他體育ニ關スル講話ヲナシ又ハ軍事學ノ大要ヲ授クヘシ

七 啞鈴ノ用ハ敏捷ナル運動ヲナサシムルニ在レハ其ノ重量重キニ過クヘカラス棍棒ハ之ニ反シ緩徐ニシテ多ク力ヲ要スル運動ヲナサシムルモノナレハ其ノ重量輕キニ失スヘカラス

八 器械體操場ノ敷砂ハ常ニ軟ニナシ置クヘシ

九 生徒ヲシテ常ニ器械ノ整頓及保存ニ注意セシムヘシ

十 體操教授時間外ニ於テモ常ニ生徒ノ姿勢ニ留意シ又適宜各種ノ遊戯運動ヲ獎勵スヘシ

十一 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ

啞鈴 球竿 棍棒 銃及附屬品 軍刀及附屬品 背囊 喇叭 銃ノ分解品 洗矢 鐵棒 木馬 柵 手摺 跳繩 跳臺 梁木

○中學校學則 明治三十四年四月五日 奈良縣令第十九號 三十五年四月縣令第十(八號ヲ以テ一部改正)

奈良縣立中學校學則 第一章 學科課程并教授時數

第一條 學科目ハ修身、國語及漢文、英語、歷史、地理、數學、博物、物理及化學、法制及經濟、圖畫、體操トス
 第二條 卒業生徒ナシテ既修ノ學科目ヲ練修上達セシムル爲メ一ケ年ノ補習科ヲ設ク
 第三條 補習科ノ學科目ハ本科ノ學科目ニ全シ但一科若クハ數科ヲ撰修セシムルヲ得
 第四條 本科并補習科ノ學科目課程及每週教授時數左ノ如シ

學科	學年		修身	國語及漢文	英語	歷史	地理	數學
	第一學年	第二學年						
第一學年	一全上	一全上	一全上	七全上	六全上	一全上	二全上	四算術
第二學年	一全上	一全上	一全上	七全上	六全上	二全上	一全上	四代數
第三學年	一全上	一全上	一全上	七全上	七全上	二全上	一全上	四幾何
第四學年	一全上	一全上	一全上	六全上	七全上	二全上	一全上	四幾何
第五學年	一全上	一全上	一全上	六全上	七全上	二全上	一全上	四幾何
補習科	一全上	一全上	一全上	四全上	二全上	一全上	一全上	六代數三角

學科	學年		修身	國語及漢文	英語	歷史	地理	數學
	第一學年	第二學年						
第一學年	一全上	一全上	一全上	七全上	六全上	一全上	二全上	四算術
第二學年	一全上	一全上	一全上	七全上	六全上	二全上	一全上	四代數
第三學年	一全上	一全上	一全上	七全上	七全上	二全上	一全上	四幾何
第四學年	一全上	一全上	一全上	六全上	七全上	二全上	一全上	四幾何
第五學年	一全上	一全上	一全上	六全上	七全上	二全上	一全上	四幾何
補習科	一全上	一全上	一全上	四全上	二全上	一全上	一全上	六代數三角

表中括弧ヲ施シタルモノハ第三學期ニ配當シタルモノトス
 第二章 休業日
 第五條 休業日ハ左ノ如シ

日曜日
 大祭日及祝日
 學校創立紀念日
 春季休業四月一日ヨリ全月七日ニ至ル
 夏季休業七月二十六日ヨリ九月五日ニ至ル
 冬季休業十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル
 第六條 前條休業日ノ外臨時休業ノ必要アルトキハ學校長ヨリ知事ニ稟申シ指揮ヲ受クヘシ
 第三章 入學退學

第七條 入學願書ハ履歷書ヲ添ヘ左式ニ依リ差出スヘシ
入學願書

本籍 族籍
寄留所

戸主或ハ何某子弟
何

明治何年何月何日生

右之者今般御校第何學年へ入學爲致度別紙履歷書相添へ此段相願候也

本籍 族籍
寄留所

右父母又ハ後見人
職業 何

某印

明治何年何月何日
奈良縣何中學校長何某殿
履歷書

本籍 族籍
寄留所

戸主或ハ何某子弟等
何

明治何年何月何日生

一 何年何月何府縣何學校ニ入り何年何月卒業又ハ何年級修了

一 何年何月ヨリ何年何月迄何地何某ニ就キ何學科修業
一 其他右ニ準ス
右之通相違無之候也

右

何

某印

第八條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ一週間以内ニ保証人二人ヲ定メ左式ノ證書ヲ差出スヘシ
在學證書
私儀今般御許可ヲ得入學候ニ付テハ御規則等堅ク相守修學可致候仍テ誓約如斯候也

貳錢
印紙

本籍 族籍
寄留所

戸主或ハ何某子弟
何

某印

右何某御校在學中堅ク御規則等遵守セシムヘキハ勿論妄ニ退學轉學等爲致間敷本人ニ係ル一切ノ事件ハ
總テ自分等ニ於テ引受可致仍テ保証如斯候也

本籍 族籍
寄留所

保証人(父母又ハ後見人)
職業 何

某印

本籍 族籍
寄留所

保証人

職業 何

某

奈良縣何中學校長何某殿

第九條 前條ノ保証人中一人ハ父母又ハ後見人他ノ一人ハ公權ヲ有スル男子ニシテ能ク保証ノ責ニ任シ得ヘシト認ムルモノタルヘシ但保証人中ノ一人ハ學校所在地ニ里以內ノ居住者ニ限ル

第十條 在學証書ヲ差出シタル後本人又ハ保証人ニシテ轉居、改名、改印ヲ爲シタル時ハ一週間内ニ届出ツヘシ

保証人保証ノ責ニ任シ難キ事故ノ生シタル場合ニ於テハ一週間以內ニ更ニ保証人ヲ定メ証書ヲ書換フヘシ

第十一條 本科ヲ卒業シタル生徒ニシテ補習科ニ入ラント欲スルモノハ卒業後直ニ保証人連署ヲ以テ届出ツヘシ

第十二條 生徒疾病其他ノ事故ニ依リ缺席スルトキ又ハ生徒若クハ其同居人傳染病ニ罹リタルトキハ保証人連署ノ上届出ツヘシ

第十三條 疾病ノ爲メ缺席一週間以上ニ及フトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第十四條 生徒傳染病ニ罹リ若クハ其履アルトキハ出席ヲ停止ス但醫師ニ於テ傳染ノ虞ナキコトヲ証明シタルモノハ登校ヲ許可スヘシ

第十五條 生徒疾病其他ノ事故ニ依リ退學若クハ轉學セント欲スル時ハ保証人連署ニテ願出ツヘシ

第四章 學業成績品行體格査定

第十六條 學期末ノ學業成績評點ハ平常ノ評點ト試驗ノ評點トニヨリテ之ヲ定ムルモノトス

第十七條 學年末ノ學業成績評點各學科目若クハ各分科五十點以上ニシテ總學科目及分科ノ平均六十點以上ヲ得タルモノヲ及第トス

第十八條 但五十點未滿四十點以上ノ學科目若クハ分科二以內ナルトキハ尙及第トス

第十九條 疾病其他止ムヲ得サル事故ニ依リ試驗ヲ受クルト能ハサリシモノハ平常ノ學業成績如何ニ依リ試驗ヲ行フコトアルヘシ

第二十條 各學期末ニ於テ生徒ノ品行ヲ査定シ其等位ヲ定ム

第二十一條 每學年二回以上生徒ノ體格ヲ檢査シ其等位ヲ定ム

修業証書 卒業証書 補習科修了証書ノ書式左ノ如シ

修業証書

族 籍 氏 名

生年月

右當校第何學年ノ課程ヲ修了ス

年月日

奈良縣何中學校

卒業証書

族 籍 氏 名

生年月

右當校所定ノ學科ヲ履修シ其業ヲ卒ヘタリ仍テ茲ニ之ヲ証ス

年月日

奈良縣何中學校長氏名

修了証書

族 籍 氏 名

生年月

右當校補習科全學科目又ハ何々學科目ヲ修了ス

年月日

奈良縣何中學校

番號

割印

番號

割印

番號

割印

第五章 授業料

第二十二條 授業料月額左ノ如シ(三十六年一月縣令第二號ヲ以テ改正)

金壹圓貳拾錢

本縣在籍者

金壹圓七拾錢

他府縣在籍者

他府縣在籍者ト雖モ本縣下ニ居住シ縣稅ヲ負擔スル者及其家族ハ本縣在籍者ト全額ノ授業料ヲ徵收ス

第二十三條 全月出席セサルトキハ其月ノ授業料ヲ徵收セス

第二十四條 授業料ハ毎月學校長ヨリ指定スル納期日ニ納付スヘシ

前項ノ期日ニ納付セス督促ヲ受クルモ尙納付セサルトキハ授業ヲ停止ス

第二十五條 特待生ニハ其學年間授業料ヲ免除ス

第六章 賞罰

第二十六條 品行方正學業優秀ノ生徒ハ特待生トシ又ハ賞狀ヲ授與スルヲアルヘシ

第二十七條 懲戒ヲ分チテ誡飭、留置、謹慎及停學ノ四種トス

第七章 寄宿舎

第二十八條 生徒ハ自宅ヨリ通學スルモノ、外ハ可成校內ニ寄宿セシム

他家ニ寄宿セント欲スル者ハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十九條 入舎又ハ退舎セントスルトキハ保証人連署ノ上願出ツヘシ

第二十條 夏季休業中及冬季休業中ハ閉舎ス

第三十一條 寄宿生ハ舎則ヲ遵守シ總テ舎監ノ指揮ニ從フヘシ

第八章 服裝

第三十二條 生徒ハ校內及學校往返ノ途中ニ於テ制帽制服用ヲ着用スヘシ但正當ノ事故アルトキ和服着用ヲ許可スルヲアルヘシ

第三十三條 制帽制服用ノ形狀ハ知事ノ認可ヲ得テ學校長之ヲ定ム

第九章 附則

第三十四條 學校長必要ナル細則ヲ設クルトキハ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三十五條 明治二十八年(八月)奈良縣告示第三百二十九號明治三十二年(四月)奈良縣告示第八十一號ハ廢止ス但本則施行ノ際第二學年以上ノ生徒ニ課スヘキ學科目及其程度ニ關シテハ仍從前ノ規程ニ依ル

(參照)

文部省通牒普甲三三五號 (明治三十五年二月八日)

今般本省令第二號ヲ以テ中學校令施行規則中改正相成且本省訓令第三號ヲ以テ中學校教授要目發布相成候處本年四月第二學年以上ニ在學スル生徒ニ課スル學科課程ハ今回ノ改正規定ト改正以前ノ規定トヲ參酌シテ定ムルコトヲ得ルハ勿論第三學年以上ノ生徒ニハ客年本省令第三號第五十八條ニ依リ從前ノ例ニ依リ課スルコトヲ得ルノミナラス客年省令第三號及今回ノ改正規定ヲ參酌シテ定ムルコトヲ得ル儀ニ有之從テ各學科目教授ノ順序等ニ於テハ必シモ中學校教授要目ニ依ルヲ要セス又中學校ニ於テ右要目ニ依リ教授細目ヲ定メントスルニ當リ當分適當ノ教科書ナキカ爲メ一時便宜ノ配當ヲナスカ如キ固ヨリ妨ナキ次第ニ候條御了知相成度

○高等女學校學則

明治三十五年三月十八日 奈良縣令第十三號

奈良縣立高等女學校學則左ノ通相定ム

奈良縣立高等女學校學則

第一章 修業年限

第一條 奈良縣立高等女學校ニ本科、補習科並ニ技藝專修科ヲ置ク

第二條 修業年限左ノ如シ

本科 四箇年
補習科 一箇年
技藝專修科 四箇年

第二章 學科課程及教授時數

第三條 本科ノ學科目ハ修身、國語、歴史、地理、數學、理科、圖畫、家事、裁縫、音樂、体操トス
前項學科目ノ外外國語(英語)手藝(編物)ヲ加ヘ隨意科目トス

第四條 補習科ノ學科目ハ本科ノ學科目ト同一トシ其ノ中修身、國語、裁縫ヲ必須科目トシ其ノ他ノ學科目
ヲ隨意科目トス

第五條 技藝專修科ノ學科目ハ修身、裁縫、手藝(編物)國語、數學、理科、圖畫、家事、音樂、体操トス

第六條 生徒ノ志望ニ依リ作法ノ一部トシテ茶儀、插花ヲ授ケ音樂ノ一部トシテ彈琴ヲ授クルコトアルヘ
シ

第七條 本科、補習科並ニ技藝專修科ノ學科課程及每週教授時數ハ別表ニ依ル

第三章 休業日

第八條 休業日ハ左ノ如シ

祝日、大祭日

皇后陛下 御誕辰

學校創立紀念日

日曜日

春季休業日 四月一日ヨリ四月七日ニ至ル

夏季休業日 七月二十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

冬季休業日 十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

第九條 前條休業日ノ外臨時休業ノ必要アルトキハ學校長ヨリ知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第四章 入學及退學

第十條 入學ヲ願フ者ハ入學願書^{第一號}ニ履歷書^{第二號}ヲ添ヘ差出スヘシ

第十一條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ一週間以内ニ保証人ヲ定メテ在學證書^{第三號}ヲ差出スヘシ

第十二條 保証人ハ生徒ノ父母又ハ後見人ニ限ル

第十三條 保証人ニシテ學校ヲ距ル一里以外ノ地ニ住スルトキハ奈良市ニ住居セル者ヲ以テ其ノ代理人ヲ
定メ連署ヲ以テ届出ツヘシ

第十四條 生徒保証人又ハ代理人ニシテ轉居改氏名改印ヲ爲シタルトキ若ハ代理人ヲ變更シタルトキハ一
週間以内ニ届出ツヘシ

保証人保証ノ責ニ任シ難キ事故ノ生シタル場合ニ於テハ一週間以内ニ更ニ保証人ヲ定メテ證書ヲ書換フ
ヘシ

第十五條 生徒ニシテ疾病其ノ他ノ事故ニ依リ缺席スルトキ又ハ生徒若ハ其ノ同居人傳染病ニ罹リタルト
キハ保証人若ハ代理人連署ヲ以テ届出ツヘシ

第十六條 生徒ニシテ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ履アル者ハ登校ヲ停止ス但シ醫師ニ於テ傳染ノ虞ナキコトヲ
証明シタル者ハ此ノ限りニアラス

第十七條 生徒ニシテ自宅ヨリ通學スル者ヲ除クノ外他家ニ寄宿シテ通學セントスルトキハ學校長ノ指揮
ヲ受クヘシ

第十八條 前條ニ依リ他家ニ寄宿シテ通學スルトキハ保証人及寄宿所ノ戸主連署ヲ以テ監督誓約書第四式ヲ差出スヘシ

第十九條 生徒ニシテ疾病其ノ他ノ事故ニ依リ退學若ハ轉學ヲ爲サントスルトキハ其ノ事實ヲ詳記シ保証人連署ヲ以テ願出ツヘシ

第二十條 本科ヲ卒業シタル生徒ニシテ補習科ニ入ラントスル者ハ卒業後直ニ保証人連署ヲ以テ届出ツヘシ

第五章 學業品行及体格査定

第二十一條 學業ノ成績ハ平素ノ成績ヲ考查シテ點數ヲ以テ之ヲ評定ス
各學科目ノ學業成績ノ評点ハ十ヲ以テ定トス

第二十二條 各學年末ニ於テ各學科目ノ得点五以上ニシテ總學科目ノ平均得点六以上ノ者ヲ及第トシ其ノ以下ノ者ヲ落第トス但シ某學科目ノ得点五未滿ナルモ總學科目ノ平均得点七以上ノ者ハ特ニ及第セシムルコトアルヘシ

第二十三條 各學年末ニ於テ生徒ノ品行ヲ査定シテ其ノ等位ヲ定ム

第二十四條 學校長ハ各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ修業證書第五式全學科ヲ卒業セリト認メタル者ニハ卒業證書第六式補習科ヲ修了セリト認メタル者ニハ修了證書第七式隨意科目ノ最終學年ニ於ケル課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ修了證書第八式ヲ授與スヘシ

第六章 賞罰

第二十五條 品行方正學業優秀ノ生徒ハ特待生トシ又ハ賞狀ヲ授與スルコトアルヘシ
第二十六條 生徒ヲ懲戒セントスルトキハ罰ヲ科スルモノトス

罰科ヲ分チテ誦飭、留置、謹慎及停學トス

第七章 授業料

第二十七條 授業料月額左ノ如シ

金七拾五錢 本縣在籍者

金壹圓 他府縣在籍者

他府縣在籍者ト雖モ本縣下ニ居住シ縣稅ヲ負擔スル者及其ノ家族ハ本縣在籍者ト全額ノ授業料ヲ徵收ス

第二十八條 全月出席セザルトキハ其ノ月分ノ授業料ヲ徵收セス

第二十九條 授業料ハ毎月學校長ヨリ指定スル期日ニ納付スヘシ

前項ノ期日ニ納付セス督促ヲ受クルモ尙納付セザルトキハ登校ヲ停止ス

第三十條 特待生ハ其ノ學年間授業料ヲ免除ス

第八章 寄宿舎

第三十一條 入舎又ハ退舎ヲ爲サントスルトキハ保証人連署ヲ以テ願出ツヘシ

第三十二條 寄宿生徒ハ舍則ヲ遵守シ舍監ノ指揮ニ從フヘシ

第三十三條 夏季及冬季休業中ハ閉舎ス

第九章 附則

第三十四條 學校長細則ヲ設クルトキハ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三十五條 明治三十二年(七月)奈良縣告示第百二十九號ハ廢止ス但シ本則施行ノ際第二學年以上ノ生徒ニ課スヘキ學科、學科目及其ノ程度ニ關シテハ仍從前ノ規程ニ依ル(別表)

本

科

補習學

備考

- 一 本科ノ隨意科目ハ生徒ノ志望ニ依リ其ノ一科目ヲ選修セシムルモノトス
- 二 技藝専修科ノ第四學年ニ於ケル裁縫教授法ハ教員志望者ニ課スルモノトス
- 三 夏季休業前後通シテ四週間以内ニ於テ每週教授時數ヲ十八時迄減スルコトアルヘシ

入學願 (用紙美濃紙)

本籍 族籍

寄留所

戸主トノ續柄

何

某

生年月日

右者今般御校何科第何學年へ入學志願ニ付御許可相成度別紙履歷書相添へ此段相願候也

本籍 族籍

寄留所

右父母又ハ後見人

何

某印

年月日

奈良縣立高等女學校長何某殿

第二號書式

履歷書 (用紙美濃紙)

本籍 族籍

寄留所

戸主トノ續柄

何

某

生年月日

一何年何月何府縣何學校ニ入り何年何月卒業又ハ何年級修了

一何年何月ヨリ何年何月迄何地何某ニ就キ何學科修業

一其ノ他右ニ準ス

右之通相違無之候也

年月日

右

何

某印

第三號書式

印

貳錢印紙

在學證書

(用紙美濃紙)

自分儀今般御許可ヲ得入學候ニ就テハ御規則等堅ク相守勤學可致候仍テ誓約如斯候也

本籍 族籍

寄留所

戸主トノ續柄

何

某印

右何某御校在學中御規則等堅ク遵守セシヘキハ勿論本校ニ係ル一切ノ事件ハ總テ自分ニ於テ引受可致仍

テ保証如斯候也

年月日

奈良縣立高等女學校長何某殿

第四號書式

監督誓約書

(用紙美濃紙)

右者何某方ヨリ通學御許可相成候ニ付テハ本人平素ノ行狀ハ何某ニ於テ特ニ注意可致且ツ左ノ件々堅ク相守可申候也

一御校ノ許可ナクシテ猥リニ他所へ轉居セシメサル事

一學資ハ御校豫定學資概算ニ準シ相渡可申事

一修學用書籍器械費等本人ヨリ請求ノ節御校豫定學資概算ニ比シ不相當ト相考候ハ、其ノ都度御校へ承合可申事

本籍 族籍
寄留所

右父母又ハ後見人

保証人 何

某印

生徒 氏

名

本籍 族籍 職業

寄留所

保証人 何

某印

全

寄留所

年月日

第五號書式

奈良縣立高等女學校長何某殿

修業證書

校印

本校何科第何學年ノ課程ヲ修了ス
年月日

戸主何

某印

族籍

氏

生年月日

名

奈良縣立高等女學校

割印 番號

第六號書式

卒業證書

校印

本校何科^{修業年限}卒業セリ因テ茲ニ之ヲ證ス
年月日

族籍

氏

生年月日

名

割印 番號

奈良縣立高等女學校長位勳爵氏名印

第七號書式

修了證書

校印

族籍

氏

生年月日

年 月 日

本校補習科ヲ修了セリ因テ茲ニ之ヲ證ス

奈良縣立高等女學校長位勳爵氏名印

割印 番號

第八號書式

修了證書

校印

族籍

氏

生年月日

年 月 日

本校何科ニ於テ隨意科目何々ヲ修了セリ因テ茲ニ之ヲ證ス

奈良縣立高等女學校長位勳爵氏名印

割印 番號

○師範學校及高等女學校ノ女生徒試驗施行及體操科休課方

明治三十三年三月廿六日
文部省訓令第六號

女子ノ師範學校及高等女學校ニ在學スル年紀ハ心身ノ發育上最モ注意ヲ要スル時期ナリ故ニ右等ノ學校ニ在リテハ女生徒學業ノ成績ハ平素ニ於テ便宜之ヲ調査セシムルコト、シ時期ヲ定メテ一時ニ全學科目ノ試驗ヲ行フコト勿カラシムルヘシ又月經ノ間ハ其ノ生徒ニ限リ體操科ヲ課セシメザルヲ要ス

○全 上

明治三十三年四月四日
奈良縣訓令乙第九二號

高等女學校

高等女學校ニ在學スル年紀ハ心身ノ發育上最モ注意ヲ要スル時期ニ付生徒學業ノ成績ハ平素ニ於テ便宜之ヲ調査スルコト、シ時期ヲ定メテ一時ニ全學科目ノ試驗ヲ行フコトナキヲ要ス又月經ノ間ハ其生徒ニ限リ體操科ヲ課セシメザルヘシ

○改正條約實施ニ關シ學校生徒教養方

○全上之件

(本文八五、八六頁載録)

(參照)

奈良縣通牒三第六九二六號 (明治三十一年十一月廿五日)

野外演習等ニ際シ生徒ヲシテ發火演習ヲサシムル節ハ三日以前ニ當廳并ニ所轄警察署ニ其旨通知可相成依命此段及通牒(縣立學校長宛)

奈良縣通牒三第四二八四號ノ二 (明治三十一年六月七日)

貴校休操ノ一科トシテ學業ヲ課セラル、義ニ付畢竟生徒遊戯ノ一トシテ隨意ニ行ハシムルハ差支ナキモ生徒各自必須科ノ一トシテ之ニ從事セシムル嫌アルニ於テハ課外ニ於テスルモ都合ニ有之旨其筋ヨリ通知有之候條及移牒(師範學校長中學校長宛)

◎教科用圖書

○教科用圖書檢定規則

明治二十年五月七日
文部省令第二號

(本文九七頁載録)

○明治三十年文部省令第十八號教科用圖書檢定規則中改正追加
同令施行前發行ノ教科用圖書ニ適用方 明治三十二年四月五日
文部省令第廿六號

(本文一〇二頁載録)
○師範學校中學校高等女學校教科用圖書
檢定調査方 明治三十一年十月七日
文部省告示第五十九號

(本文 頁載録)

◎教員資格

○教員免許令

明治三十三年三月三十日
勅令第百三十四號

朕教員免許令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

教員免許令

- 第一條 特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外教員免許狀ヲ授與スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ニ依リ免許狀ヲ有スル者ニ非サレハ教員タルコトヲ得ス但シ
文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得
- 第三條 教員免許狀ハ教員養成ノ目的ヲ以テ設置シタル官立學校ノ卒業者又ハ教員檢定ニ合格シタル者ニ
文部大臣之ヲ授與ス
- 第四條 教員檢定ハ試驗檢定及無試驗檢定トシ教員檢定委員之ヲ行フ
- 第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教員檢定ヲ受クルコトヲ得ス
 - 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
 - 二 信用若ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタル者
 - 三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限りノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

- 第六條 教員檢定ヲ出願スル者ハ手数料トシテ一學科目毎ニ金參圓ヲ納付スヘシ
- 第七條 教員檢定ニ關スル程規ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第八條 教員免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名族籍及免許ノ學科ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス
- 第九條 教員免許狀ヲ有スル者其ノ氏名族籍ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ
免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得
前項ニ依リ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スル者ハ手数料金壹圓ヲ納付スヘシ
- 第十條 教員免許狀ヲ有スル者第五條各號ノ一ニ該當シタルトキハ免許狀ハ其ノ效力ヲ失フ
- 第十一條 教員免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其ノ他教員タルヘキ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリテ其ノ情狀重
シト認ムルトキハ文部大臣ハ其ノ免許狀ヲ褫奪ス
- 第十二條 本令ニ依リ納付スヘキ手数料ハ收入印紙ヲ用非之ヲ願書ニ貼付スヘシ其ノ既ニ納メタル後ハ何
等ノ事情アルモ之ヲ還付セス

附 則

第十三條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○教員檢定ニ關スル規程

明治三十三年六月一日
文部省令第十號

- 第一條 教員檢定ハ受験人ノ學力、品行、身体ニ就キ教員タルニ堪能ナルヤ否ヤヲ檢定スルモノトス
- 第二條 檢定ヲ爲スヘキ學科目左ノ如シ
修身、教育、國語及漢文、英語、佛語、獨語、歷史、地理、數學、物理及化學、博物、
法制及經濟、習字、圖畫、家事及裁縫、體操、音樂、簿記、農業、商業、手工、手藝
但シ法制及經濟ノ試験檢定ハ修身若クハ教育ノ免許狀ヲ有スル者ノ外修身若クハ教育ヲ併セテ出願スル
ニアラサレハ之ヲ行ハス此場合ニ於テハ其ノ手数料ニ關シテハ之ヲ一學科目ト看做ス(三十六年省令第
二號ヲ以テ改正)

歴史ハ日本史東洋史、西洋史ノ二部ニ數學ハ算術代數幾何、三角法、解析幾何、微分積分ノ四部ニ物理及化學ハ物理、化學ノ一部ニ博物ハ動物及生理、植物、礦物ノ三部ニ圖畫ハ毛筆畫用器畫、鉛筆畫用器畫ノ二部ニ家事及裁縫ハ家事、裁縫ノ二部ニ分チテ檢定ヲ出願スルコトヲ得此場合ニ於テ一學科目ノ一部若ハ數部ノ檢定ヲ出願スルモ其ノ手数料ニ關シテハ一學科目ト看做ス

三角法ハ算術代數幾何ニ解析幾何ハ三角法ニ微分積分ハ解析幾何ニ合格シタル上ニアラサレハ檢定ヲ行ハス(三十四年五月九日文部省令第十二號ヲ以テ改正)

第三條 試驗檢定ハ毎年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試驗檢定ハ隨時之ヲ行フ

試驗檢定ノ出願期限、試驗ヲ爲スヘキ學科目及試驗施行ノ期日ハ豫メ之ヲ告示ス

第四條 檢定ヲ受ケムトスル者ハ氏名、族籍、住所、生年月及ヒ教員タラムト欲スル學校ノ種類、學科目ヲ記シタル願書(一號)ニ左ノ書類ヲ添ヘ試驗檢定ニ在テハ地方廳ヲ經由シ無試驗檢定ニ在リテハ地方廳若クハ當該學校ヲ經由シ文部大臣ニ出願スヘシ

- 一 學業、業務、賞罰等ニ關スル履歷書(二號)及學業證書若クハ教員免許狀ノ寫
- 二 學校醫ノ身体檢查書(三號)但シ學校醫ノ設置ナキ地ニ在リテハ明治三十一年文部省令第七號第一條若クハ第二條ニ該當スル資格アル醫師ノ檢查書ヲ以テスルモ妨ケナシ

地方長官又ハ當該學校長ハ本人ノ品行ニ就キ檢定願書ニ添ヘ其意見ヲ附記スルコトヲ要ス

第五條 左ノ第一號乃至第四號ニ掲クル者ハ文部大臣ノ適當ト認メタル學科目ニ關シ第五號ニ掲クルモノハ其免許ノ學科目ニ關シ無試驗檢定ヲ受クルコトヲ得(三十六年省令第二號ヲ以テ改正)

- 一 文部大臣ノ指定シタル學校ノ卒業生及選科修了者
- 二 師範學校、中學校、高等女學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ卒業生ノ教員免許資格ニ關シ文部大臣ノ許可ヲ受ケタル公立、私立學校ニ入り三學年以上在學シテ卒業シタル者但シ修業年限五ヶ年ノ高等女學校

ノ卒業證書ヲ有スル者ノ在學スヘキ年數ハ二學年以上トス

三 師範學校、中學校、高等女學校及之ト同等以上ノ學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ外國ノ大學校若ハ之ニ準スヘキ學校ニ於テ修學シ學位若ハ卒業證書ヲ受領シタル者

四 外國ニ於テ師範學校、中學校、高等女學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シ更ニ大學校若ハ之ニ準スヘキ學校ニ入り修學シ學位若ハ卒業證書ヲ受領シタル者

五 教員タラムト欲スル學校ノ學科程度ト同等以上ノ學校ノ教員免許狀ヲ有スル者(三十四年五月九日文部省令第十二號ヲ以テ改正)

第七條 試驗ヲ分チテ豫備試驗及本試驗トス但シ學科目ノ種類ニ依リ豫備試驗ヲ行ハサルコトアルヘシ豫備試驗ヲ施行スル學科目ニ在リテハ豫備試驗ニ合格シタル者ニアラサレハ本試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第八條 試驗ハ受檢人出願ノ學科目ニ就キ其教員タラムト欲スル學校ノ學科目ヲ教授スルニ足ルヘキ程度ヲ標準トシ教授法ヲ併セテ之ヲ行フモノトス

第九條 豫備試驗ハ願書經由ノ地方廳所在地ニ於テ之ヲ行フ

本試驗ヲ行フ場所ハ其都度之ヲ告示ス

第十條 左ニ掲クル者ニシテ體操科ノ試驗檢定ヲ出願シタルトキハ兵式體操ノ部分ヲ省ク

- 一 陸軍歩兵科士官

二 陸軍歩兵科下士任官後滿四年以上現役ニ服シタル者(全上改正)

第十一條 全上削除

第十二條 不正ノ方法ニ依リ試驗ヲ受ケムト企テタル者及試驗ニ關スル規程ニ違背シタル者ハ試驗ヲ受ケルコトヲ得ス

檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發覺シタルトキハ其合格ヲ無効トスルコトアルヘシ

附 則

第十三條 全上削除

第十四條 明治三十二年文部省令第二十五號第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル公立、私立學校ハ本令第五條

第一項第一號ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十五條 従前ノ規定ニ依リ認めラレタル豫備試験ノ合格并ニ證明書ノ効力ハ仍其ノ有効期間存続ス(全上改正)

第一號書式 (用紙美濃紙)

教員檢定願

印
收入
印紙

住所 族籍

氏

生 年 月

名

何學科 何學科

私儀師範學校(中學校)(女子師範學校)(師範學校女子部)(高等女學校)教員志願ニ候間前記ノ科目ニ就キ試験檢定(無試験檢定)相受度別紙履歷書并ニ醫師身体検査書相添へ此段相願候也

年 月 日

右

何

某 印

第二號書式

文部大臣何某殿

(用紙美濃紙)

履 歷 書

氏

名

生 年 月

學 業

一年月日何學校ニ入學年月日何科卒業別紙ノ寫
一年月日何々ニヨリ何免許狀ヲ受ク免許狀寫 別紙ノ通

業 務

一年月日何官職拜命或ハ何業ニ従事年月日依願免官或ハ廢業又ハ現今在職從事等

賞 罰

一年月日何所ニ於テ何々ニ付何賞ヲ受ク或ハ何罰ヲ受ク
右之通相違無之候也

年 月 日

右

何

某 印

第三號書式

(用紙美濃紙記載方ハ別記身体
検査書記載方心得ニ依ルヘシ)
身体検査書

族 籍

何

生 年 月

某

一 體 格

一 身 長

一 体 重

- 一胸圍
- 一中心視力
- 色盲
- 眼病
- 一聽力
- 耳疾
- 一呼吸器
- 一神經系
- 一皮膚
- 一言語
- 一既往現在ノ疾病又ハ畸形
- 右検査候處相違無之候也
- 年月日検査

住所何學校醫
學位資格

何

某印

- 別記
- 身体検査書記載方心得
- 一検査ノ表記及身長体重胸圍聽力等ノ検査方法ハ明治三十三年文部省令第四號學生生徒身体検査規則ニ準スヘシ
 - 一體格ノ強健ト稱スルモノハ發育營養共ニ佳良ニシテ其身長(セリチメートル)ヲ以テ體重(キログラム)ヲ除シタル商〇、二以上且無病ノ者ヲ指ス
 - 中等ト稱スルハ發育營養共ニ通常ニシテ其身長(セリチメートル)ヲ以テ體重(キログラム)ヲ除シタル商〇、二六以上且無病ノ者ヲ指ス
 - 薄弱ト稱スルハ發育營養共ニ不十分ナルカ或ハ身長(セリチメートル)ヲ以テ體重(キログラム)ヲ除シタル商〇、二六未満ナルカ或ハ強度ノ脊柱彎曲、扁平胸、狹小胸若ハ全身ノ健康ニ直接ノ關係アル慢性ノ疾患アル者ヲ指ス
 - 一中心視力ハフネルソン氏ノ試視力表ニ依リテ其記載方ハ(〇)ト記スヘシ但シ遠視若ハ近視ニアリテハ色盲ハ其有無、若シ其患アル者ハ何色盲ト記載スヘシ
 - 一呼吸器ハ理學的診斷ノ成績ヲ記載スヘシ
 - 一神經系ハ中樞若ハ末梢神經ニ障害ノ有無ヲ記載スヘシ
 - 一皮膚ハ主トシテ傳染症皮膚病ノ有無ヲ記載スヘシ若シ顔面等ニ現ハレタル皮膚病アルトキハ之ヲモ記載スヘシ
 - 一言語ハ明朝、吃、嘔聲等ヲ記載スヘシ
 - 一既往、現在ノ疾病又ハ畸形ハ腦病、肺病、肋膜炎、脚氣等ノ曾患、肺病、心臟病、胃腸病等ノ現在及顯著ナル畸形ヲ記載スヘシ

○教員檢定出願ニ對シ身元取調方

明治三十三年六月十二日
奈良縣訓令甲第四十四號

郡市師中
役範
學學
所校校
所校校

明治三十三年(六月)文部省令第十號第四條ニ據リ教員檢定ヲ出願スルモノアルトキハ教員免許令第五條ニ
抵觸ノ有無及品行ニ就キ取調書ヲ添付進達スヘシ

○教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルノ件

明治三十三年九月六日
文部省令第十五號

第一條 師範學校中學校ニ於テ教員免許狀ヲ有スル者ヲ得難キ場合及高等女學校ニ於テ教員免許狀又ハ第
二條ノ資格ヲ有スル者ヲ得難キ場合ニハ教員免許狀ヲ有セサル者ヲ教員ニ採用スルコトヲ得
第二條 高等女學校ニ於テ第二學年以下ノ教授ヲ擔任セシムル爲メ小學校本科正教員免許狀ヲ有スル者ヲ
採用スルコトヲ得

第三條 第一條ニ依リ採用シタル教員ハ公立學校ニ在リテハ教諭助教諭又ハ訓導ト稱スルコトヲ得ス
第四條 中學校高等女學校ニ於テ新ニ採用セントスル者ヲ加算シ教員免許狀ヲ有セサル者ノ數教員免許狀
ヲ有スル者ノ二倍ヲ超過スル場合ニハ文部大臣ノ認可ヲ受ルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケントスルトキハ公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者ニ
於テ本人ノ氏名、履歷及分擔學科並當該學校現在教員ノ氏名及資格ヲ記載シタル書類ヲ添付スヘシ

第五條 第一條ニ掲ケタル學校及特別ノ規定アル學校ヲ除ク外公立學校ニ於テ教員免許狀ヲ有セサル者ヲ
以テ教員ニ充ツルコトヲ得

附 則

第六條 本令ハ明治三十三年九月十日ヨリ施行ス

第七條 本令施行ノ際教員免許狀ヲ有セスシテ第一條ノ學校ノ教授ニ從事スル者ハ本令ノ規定ニ依リ採用
セラレタル者ト看做ス

第八條 明治三十年文部省令第十九號第七條明治三十二年文部省令第二十二條同第四十三號ハ本令施行ノ
日ヨリ廢止ス

(參照)

明治三十年(十月十一日)文部省令第十九號第七條ハ師範學校教員ニ關スル件同三十二年(三月三十一日)同第二十二號ハ高等女學校教員
ニ關スル件同年(十一月二十日)同第四十三號ハ中學校教員ニ關スル件ナリ

○公立私立學校外國大學校卒業生ノ教員免許
ニ關スル規定

明治三十二年四月五日
文部省令第二十五號

第一條 師範學校中學校高等女學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル公立私立學校ニ
入リ三學年以上在學シテ卒業シタル者ハ明治二十九年文部省令第十二號師範學校中學校高等女學校教員
免許規則第十條第一項第一號ニ掲ケル學校ノ卒業生ト同一ノ取扱ヲナス(三十二年十一月十八日文部
省令第四十二號ヲ以テ改正)

但修業年限三箇年ノ高等女學校ノ卒業證書ヲ有スル者ノ在學スヘキ年數ハ四學年以上トシ修業年限五
箇年ノ高等女學校ノ卒業證書ヲ有スル者ノ在學スヘキ年數ハ二學年以上トス

第二條 公立私立學校ニシテ其卒業生ニ關シ第一條ノ取扱ヲ受ケントスルモノハ公立學校ニアリテハ其管
理者ニ於テ私立學校ニアリテハ其設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 試験ヲ須ヒスシテ教員免許狀ヲ受クヘキ見込ノ學科目
 - 二 學則
 - 三 校地、校舎、寄宿舎圖面
 - 四 教科書及參考書目錄
 - 五 教授器械及標本目錄
 - 六 教員履歷書、受持學科及專任兼任ノ區別ヲ記シタル調書
 - 七 一箇年ノ經費收入支出金額及其細目
- 前項ノ學校ハ左ノ要件ヲ具備スルモノタルヘシ

- 一 前項第一號ノ學科目ハ高等師範學校女子高等師範學校ノ當該學科目ト同等以上ノ程度ニシテ別ニ相當ノ補助科目ヲ具フルコト(三十二年十一月十八日(省令第四十二號)ヲ以テ改正)
- 二 學科ヲ教授スルニ足ルヘキ教員其他ノ設備アルコト
- 三 維持ノ方法確實ナルコト
- 四 免許ヲ受ケントスル學科ニ於テ卒業生アリタル以後二箇年以上ヲ經過シ其ノ成績佳良ナルコト
- 五 教授管理ニ適當ナルコト
- 第三條 第一條ノ取扱ヲ受ケル學校ニ於テ卒業試驗ヲ施行スルトキハ公立學校ニアリテハ其管理者ニ於テ私立學校ニアリテハ其設立者ニ於テ試驗ノ期日及其生徒中師範學校中學校高等女學校ノ卒業證書ヲ有スル者ノ數ヲ具シ三十日前ニ文部大臣ニ開申スヘシ
- 第四條 文部大臣ハ師範學校中學校高等女學校教員檢定委員又ハ其他ノ吏員ヲ派遣シテ卒業試驗ニ立會テ爲サシム但委員又ハ吏員ハ試驗問題及答案ヲ查閱シ試驗場ニ參列ス
- 前項ノ委員又ハ其他ノ吏員ニ於テ試驗問題又ハ試驗ノ方法不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更シ又ハ變更セシムルコトアルヘシ
- 第五條 學校長ハ卒業試驗合格者ノ族籍氏名生年月及許可ヲ受ケタル學科ノ點數ヲ具シ試驗後遲滯ナク文部大臣ニ開申スヘシ
- 第六條 卒業試驗合格者中各學年ヲ通シテ總授業時數ノ四分ノ一以上授業ヲ受ケサル者ハ卒業試驗ニ於テ合格スルモ第一條ノ取扱ヲ爲スノ限ニアラス
- 第七條 第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル學校ニ於テ學則ヲ變更シ又ハ校地校舍寄宿舎ヲ變更セシムルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
- 第八條 第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル學校ニ於テ第二條第一項第四號前段又ハ第六號ノ事項ニ異動ヲ生

シタルトキハ其都度文部大臣ニ開申スヘシ

- 第九條 第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル學校ニ於テ師範學校中學校高等女學校卒業生ノ入學ヲ許可セントスルトキハ願書ニ左ノ書類ヲ添付セシムルコトヲ要ス
 - 一 履歷書
 - 二 卒業試驗點數及品行ニ關スル當該學校長ノ證明書
- 師範學校卒業生ニアリテハ前項各號ノ外服務義務終了ニ關スル地方長官ノ證明書ヲ添付セシムルコトヲ要ス
- 第十條 第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル學校ニ於テハ左ノ表簿ヲ備ヘ永久ニ保存スヘシ
 - 一 其學校ニ關係アル官廳ノ令達及往復書類
 - 二 學則
 - 三 日課表、各教員受持學科及時間表、教科書配當表
 - 四 職員名簿及履歷書
 - 五 生徒學籍簿
 - 六 學年試驗問題、答案及成績表
 - 七 職員出勤簿、生徒毎時出席籍
 - 八 資産原簿、出納簿及經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿
 - 九 圖書、器械、器具、藥品、標本目錄
 - 十 生徒諸願届
- 生徒學籍簿ニハ生徒ノ族籍氏名住所生年月日入學前ノ學歷等ヲ記載スヘシ
- 第十一條 第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル學校ニシテ此規則ニ違背シタルトキ又ハ第二條第二項ノ要件ノ

一ヲ失ヒタルトキハ文部大臣ハ將來ニ向ヒテ其許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十二條 師範學校中學校高等女學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ外國ノ大學校ニ於テ修學シ學位ヲ受領シタル者ハ明治二十九年文部省令第十一號師範學校中學校高等女學校教員免許規則第十條第一項第一號ニ掲クル學校ノ卒業生ト同一ノ取扱ヲ爲スコトアルヘシ

第十三條 本令中師範學校ノ卒業證書トアルハ師範學校簡易科ノ卒業證書ヲ包含セス (全上)

○無試験檢定ヲ受クルコトヲ得ヘキ指定學校名

明治三十三年六月一日
文部省告示第五百五十三號

明治三十三年文部省令第十號教員檢定ニ關スル規程第五條第一項第一號ニ依リ指定スルコト左ノ如シ

- 帝國大學分科大學卒業生
- 元東京大學卒業生
- 元工部大學校卒業生
- 帝國大學分科大學選科修了生
- 帝國大學文科大學元古典講習科卒業生
- 帝國大學理科大學元簡易講習科卒業生
- 帝國大學農科大學實科卒業生
- 帝國大學農科大學乙科優等卒業生
- 高等學校卒業生
- 元高等中學校卒業生
- 札幌農學校卒業生
- 元駒場農學校卒業生
- 元東京農林學校卒業生

- 農業教員養成所卒業生
- 高等商業學校卒業生
- 元東京商業學校卒業生
- 商業教員養成所卒業生
- 東京工業學校卒業生
- 元東京職工學校卒業生
- 工業教員養成所卒業生
- 東京美術學校卒業生
- 東京音樂學校卒業生
- 元高等師範學校附屬音樂學校卒業生
- 元東京音樂學校卒業生
- 東京外國語學校卒業生
- 學習院高等學科、大學科卒業生

私立日本體育會體操學校高等本科卒業生(三十四年五月追加)

○設備

○師範學校中學校及高等女學校建築準則

明治三十二年四月六日
文部省訓令第五號

北海道廳 府縣

師範學校中學校及高等女學校建築準則ヲ定ムルコト左ノ如シ自今師範學校中學校及高等女學校ノ校舍寄宿舎等ヲ建築セントスルトキハ特別ノ事情アル場合ヲ除ク外必ス之ニ依リシムヘク既設ノ校舍寄宿舎等ニシテ此準則ニ牴觸セルモノアルトキハ成ルヘク此準則ニ依リテ改修ヲ爲サシムヘシ

明治三十二年四月六日

文部大臣 伯爵樺山資紀

- 一校地ニシテ有毒ナル瓦斯、煤煙、塵埃等ヲ發生スル工場、瘴氣ヲ發生スル風アル沼池、喧噪ナル工場、貸座敷、劇場、寄席、火葬場等ニ接近スルトキハ道徳上並ニ衛生上有害ナルヲ以テ成ルヘク遠ク隔離スルコトヲ要ス止ムコトヲ得サル場合ニ於テモ其種類ニ從ヒ少クトモ二町以上ノ距離ヲ存スヘシ
- 一校地ノ面積ハ成ルヘク廣闊ナルコトヲ要シ殊ニ日當リ好ク排水ノ便ヲ有シ乾燥ニシテ健康ニ適スル土地ヲ選フヘシ校地内ニ於ケル體操場ノ位置ハ成ルヘク校舍ノ南方、西南方、東南方若クハ西方ナルコトヲ要ス
- 一校地ヲ選擇スルニ方リ濾水裝置ヲ備ヘタル水道ニ依リテ善良ナル水ヲ供給スルコトヲ得ル場合ヲ除ク外ハ豫メ其地ノ水ヲ分拆シテ飲料ニ適スルヤ否ヤヲ檢シ尙ホ其水量ノ多寡ヲ計リ務メテ善良ナル飲料水及雜用水ノ供給ニ注意スヘシ
- 井ニハ堅牢ナル井側ヲ設ケテ汚水ノ浸入ヲ防キ又井蓋ヲ備フヘシ
- 井流シハ土管ノ如キ不浸水物ヲ以テ造リ且排水ニ注意スヘシ

- 井ハ便所、下水、芥棄場等ニ接近セサルコトヲ要ス
- 校地ノ周圍ニハ樹木ヲ植エ且柵欄等ヲ設クヘシ樹木ヲ植ウルトキハ採光通風ヲ妨ケス又校地ヲ陰鬱ナラシメサル様注意シ落葉樹、常綠樹ヲ交ヘテ栽植シ有毒植物及果樹ノ類ハ之ヲ避クヘシ
- 二棟以上ノ建物ヲ並列シテ建築スルトキハ其相互ノ距離ハ建物ノ高ト同尺以上タルヘシ
- 一教員室ハ成ルヘク體操場ノ方面ニ設ケ音樂教室ハ成ルヘク他ノ授業ヲ妨ケサル位置ニ設クヘシ
- 一教室ノ過大ナルモノハ視力及音聲ヲ害スルノ虞アルニ依リ幅三間乃至四間長四間乃至五間ト爲スヘシ天井ノ高ハ床面ヲ距ルコト十尺以上トス
- 床ノ高ハ二尺以上トシ床下ノ四方ニ風抜ヲ設クヘシ
- 一教室内ノ壁ハ中性色(灰色淡黄色ノ類)ヲ用フヘシ
- 一寒氣烈シキ地方ニ於テハ窓戸及床板ヲ二重ニシ暖室ノ裝置ヲ爲スコトヲ可トス
- 一講堂ノ天井ノ高ハ床面ヲ距ルコト十五尺以上トス
- 一物理及化學及博物(師範學校女子部及高等女學校ニ於テハ理科教室)ノ特別教室ハ階段席ヲ設ケ平家建ト爲スヘシ幅、長及面積ノ割合等ハ通常教室ノ例ニ倣フ
- 天井ノ高ハ最高階段ヲ距ルコト十尺以上トス
- 階段席各階段ノ高ハ五寸乃至六寸トス
- 一物理及化學教室(師範學校女子部及高等女學校ニ於テハ理科教室)ニハ暗室ノ裝置ヲ設クヘシ
- 一採光窓ノ下縁ノ位置ハ床上二尺七寸乃至三尺(此限ニテ於テ)ニ定メ其上縁ハ床上九尺以上トシ成ルヘク天井ニ接近セシムヘシ但シ採光窓ノ上部ハ欄間ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
- 採光窓ハ南方、西南方、東南方又ハ西方ニ設ケ且生徒座席ノ左方ヨリ採光スルコトヲ常例トス
- 教室ノ左右側ニ於テハ黒板上ニ於ケル光線ノ反射ヲ避ケメカ爲黒板ヲ掲ケル壁ヨリ三尺以内ニ窓ヲ附設

スヘカラス

- 教室及講堂ノ採光窓ノ面積ハ成ルヘク床面積ノ六分一以上タルヘシ
- 窓ハ生徒座席ノ前面ニ設クヘカラス
- 採光窓ニハ日光ノ直射ヲ遮蔽セメカ爲窓覆ヲ設クヘシ
- 特ニ完全ナル建築ヲ爲シ得ル場合ヲ除ク外ハ窓ハ引違ノ構造ト爲スコトヲ可トス
- 一簷又ハ庇ハ光線射入ノ妨トナラサル様注意シテ構造スヘシ
- 一各室ノ出入口ハ二箇所ヲ設クルコトヲ常例トス
- 一出入口ノ戸ハ教室ノ面積ヲ縮小セシメス且非常ノ際危険ナカラシメメカ爲引戸ト爲スカ又ハ外開キト爲シテ保留ヲ設クヘシ
- 一廊下ハ幅六尺以上ト爲スヘシ
- 中廊下ヲ設クルトキハ其教室ナルト寄宿舎ナルトヲ論セス一方ノ室ニ於ケル採光通風等ヲ妨クルノ虞アルヲ以テ片廊下ト爲スコトヲ要ス但廊下ハ教室ノ主ナル採光窓ノ方面ニ設クヘカラス
- 一階段ハ幅四尺五寸蹴上ケ五寸乃至六寸踏面八寸乃至一尺トシ中間ニ踊場ヲ設ケ且手欄ヲ附スヘシ
- 一階段ノ校舎ニ於テハ二箇以上ノ階段ヲ設クヘシ
- 一寄宿舎ノ天井ノ高ハ床面ヲ距ルコト九尺以上トス採光窓、廊下、階段、出入口ニ關スル事項ハ教室ノ例ニ依ルヘシ
- 一病室ハ成ルヘク別棟建ト爲シ患者ノ療養ニ便利ナル構造ト爲スヘシ
- 一師範學校女子部、中學校及高等女學校ニ於テ自修室及寢室ヲ兼用スルトキハ相當ノ容積ヲ增加スヘシ
- 一校舎及寄宿舎ニ設クヘキ便所ハ本舎ト隔離シ空氣ノ流通ニ注意シ其周圍ニハ屏牆ヲ設ケ且松、杉等ノ樹木ヲ植エ臭氣ノ舍室内ニ入ルコトヲ防クヘシ

大便所ハ天井ヲ設ケス戸ハ上下ヲ透カシテ右開キト爲スコトヲ可トス
小便所ニハ高六寸乃至八寸幅一尺以上ノ踏石ヲ設クヘシ

便所ハ校舍ニ在リテハ生徒四十人ニ付大便所一箇所小便所二箇所(師範學校女子部及高等女學校ニ於テハ生徒二十人ニ付便所一箇所)寄宿舎ニ在リテハ生徒二十人ニ付大便所二箇所小便所一箇所(前記學校女子部及高等女學校ニ於テハ生徒十人ニ付便所一箇所)ヲ設クヘシ
一 机腰掛ハ一人掛若クハ二人掛ト爲シ別表ノ標準ニ依リ生徒ノ身長ニ適應シタルモノヲ用フヘシ

○有租地ヲ公立學校地ト爲シ又ハ其校地ニ變更ヲ生シ
タルトキ 稅務局ヘ通知方 明治三十二年四月十三日 文部省訓令第五號

(本書一四一頁載録)

○府縣立市町村其他公共團體ノ所有地免租ニ關スル件 明治三十三年二月廿四日 法律第十九號

(本書一四一頁載録)

○縣立學校兵式體操用銃器火藥取締規程 明治二十五年七月 奈良縣訓令第一七四號

第一條 銃器火藥ハ校長ノ承認ヲ經スシテ之ヲ使用シ又ハ保管ノ場所外ニ出スヲ得ス

第二條 銃器火藥ハ盜火難等ノ憂ナキ一定ノ場所ニ藏置シ主任ヲ定メテ之ヲ管理スヘシ
銃器ハ場合ニ依リ寄宿生一名ニ付各一挺ヲ保管セシムルヲ得此場合ニ於テハ寄宿舎内ニ相當ノ裝置ヲナシ藏置スルモ妨ナシ

第三條 銃器ノ數及其損傷ノ有無等ハ常ニ其主任者ニ於テ點檢スヘシ
校長ハ前項ノ點檢ニ立會又ハ特ニ點檢ヲ行フヘシ

第四條 火藥ハ其必要アル毎ニ之ヲ購入シ平素之ヲ貯藏セサルヲ要ス若シ止ヲ得ス貯藏スルトキハ第二條

第一項ニ依リ管理スヘシ

第五條 銃器火藥盜難ニ罹リ又ハ紛失シタルトキハ直ニ其旨ヲ記シ所轄警察署ヘ通知シ同時ニ開申スヘシ

第六條 前各項ノ外銃器火藥保存上ニ必要ノ事項ハ校長ニ於テ之ヲ定メ開申スヘシ其變更アルトキ亦同シ

○縣立學校校舍并圖書器械標本貸與ニ關スル規程 明治三十六年四月十日 奈良縣訓令甲第二十二號

第一條 縣立學校校舍並圖書器械標本ハ左ノ各項ノ一ニ該當スル場合ニ限り使用出願者ニ貸與スルヲ得

一 教育學術ノ研究若クハ講習會等ヲ開催スルトキ

二 學術取調ノ爲メ材料又ハ考證ヲ需ムルトキ

三 工業又ハ農林等ニ關シ實地試驗ノ成績ヲ徵セントスルトキ

第二條 校舍並器械標本ヲ貸與スルハ校務ニ差支ナキ場合ニ限ルモノトス

第三條 使用者ニ於テ校舍ヲ破損シ又使用シタル物品ヲ汚損シ若ハ紛失シ又ハ器械ヲ使用スルカ爲メ材料藥品ヲ要シタルトキハ現品ヲ以テ賠償セシムヘシ但現品ヲ以テ賠償セシムルコトヲ得サルトキハ相當代

金ヲ徵收スヘシ

第四條 本規程施行ニ關スル貸與手續ハ學校長之レヲ定メ當廳ヘ開申スヘシ

○職員名稱及待遇

○公立中學校高等女學校專門學校實業學校職員名稱待遇及任免 明治二十四年十二月十二日 勅令第二百四十四號

第一條 公立中學校高等女學校專門學校實業學校職員ノ名稱左ノ如シ (明治二十五年勅令第百十三號ヲ以テ追加)

學校長

教諭

助教諭

舍監 寄宿舍ノ設アル學校ニ限ル

書記

第二條 學校長教諭助教諭舍監書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク但シ學校ノ等位種類等ニ依リ學校長及教諭三名以内ハ特ニ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケシムルコトアルヘシ

學校長ヨリ兼任スル教授ハ前項定員ノ外トス(明治三十一年勅令第三十二號ヲ以テ本條改正)

第三條 奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ノ任免ハ文部大臣之ヲ奏薦宣行シ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ハ府縣知事之ヲ專行ス

○奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル學校職員任免ノ奏薦及宣行方

明治二十六年四月十七日勅令第二十二號

明治二十四年勅令第二百十七號師範學校官制第二條但書及明治二十四年勅令第二百四十四號公立中學校高等女學校專門學校實業學校職員名稱待遇及任免ニ關スル勅令第二條ニ依リ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル各學校職員ノ任免奏薦及宣行ハ明治二十五年勅令第九十六號高等官官等俸給令第四條及第五條ノ例ニ依ル

(參照)

高等官官等俸給令

第四條 奏任官ノ任官及叙等ハ内閣總理大臣之ヲ奏薦シ其各省及各府所屬ノ官廳ニ屬スルモノハ内閣總理大臣ヲ經由シテ主任大臣之ヲ奏薦ス

第五條 奏任官ノ辭令書ハ内閣ノ印ヲ鈐シ内閣總理大臣之ヲ宣行ス

○公立學校職員等級配當

(本文一四一頁載録)

○公立學校職員ノ同官等又ハ同等級内ニ於ケル席次

(本文一四五頁載録)

○公立學校職員休職ニ關スル規定

明治二十七年八月八日勅令第四百一十一號

第一條 學校編制ノ變更事務ノ伸縮等ニ依リ其ノ人ヲ要セサル場合其ノ他傷痍疾病等ノ事故アル場合ニ於テハ地方長官ハ公立學校職員ニ休職ヲ命スルコトヲ得

豫備後備ノ軍籍ニ在ル公立學校職員戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキハ當然休職ヲ命セラレタルモノトス

第一項ニ依ル休職ノ期限ハ一箇年トシ第二項ニ依ル休職ノ期限ハ其ノ事故止ミタル後尙三箇月トス

第二條 休職ノ期限滿ツルトキハ當然退職者トス

第三條 休職者ハ職務ニ從事セス及俸給ヲ減セラレ又ハ全ク之ヲ受ケサルノ外總テ本職者ト異ルコトナシ

附 則

第四條 本令ハ市町村立小學校教員ニ適用セス

第五條 明治二十七年六月五日以後本令施行以前ニ召集セラレタル者ハ其ノ召集ノ日ヨリ休職ヲ命セラレタルモノトス

○府縣立町村立學校長教員及書記ニ官吏服務規律適用方

明治十六年五月二十六日勅令第三百四十九號

官吏懲戒例並ニ行政官吏服務規律等ノ儀ハ府縣立町村立學校長教員及府縣立學校書記ヘモ適用スヘキ事勿論ニ候條此旨相違候事

府 縣

○公立學校職員ニ文官懲戒例適用方

明治三十二年七月十九日勅令第三百四十九號

小學校ニ非サル公立學校ノ職員ニシテ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ懲戒ニハ文官懲戒令中高等官ニ

關スル規定ヲ準用シ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ懲戒ニハ文官懲戒令中判任官ニ關スル規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ明治三十二年七月二十日ヨリ施行ス

○學校職員及郡區書記戸長國庫支辨ニ係ル旅費支給方

(本文一六二頁載録)

○府縣立町村立學校長教員任用ノ際本人ノ管轄廳等ニ照會方

(本文一六五頁載録)

○公立中學校、公立高等女學校、公立實業學校職員俸給旅費

其他諸給與ニ關スル規則

明治三十五年五月十三日
奈良縣令第三十六號

第一條 奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル學校長教諭ノ俸給ハ年俸トシ左表ニ依リ支給ス但學校長ニシテ特ニ功勞アリ五ヶ年以上一級俸ヲ受クル者ハ年俸貳千圓迄増俸スルコトアルヘシ(三十六年一月縣令第七號ヲ以テ改正)

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級
千八百圓	千六百圓	千四百圓	千貳百圓	千圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓

第二條 判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル學校長、教諭、助教諭、舍監書記ノ俸給ハ月俸トシ左表ニ依リ支給ス(全上)

職名	一級		二級		三級		四級		五級		六級		七級		八級	
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
學校長	百圓	九拾圓	八拾圓	七拾圓	六拾圓	五拾圓	四拾圓	三拾圓	三拾五圓	貳拾五圓	貳拾圓	拾七圓	拾五圓	拾五圓	拾圓	拾圓
助教諭	四拾圓	三拾五圓	三拾圓	貳拾五圓	貳拾圓	拾七圓	拾五圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓
舍監	四拾圓	三拾五圓	三拾圓	貳拾五圓	貳拾圓	拾七圓	拾五圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓
書記	四拾圓	三拾五圓	三拾圓	貳拾五圓	貳拾圓	拾七圓	拾五圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓

教員心得ノ俸給ハ月俸拾圓以上七拾五圓以下トス(全上)

第三條 教諭、助教諭ノ俸給ハ其授業ノ時間及學科ノ輕重難易等ニ依リ俸給等級相當ノ額ヲ支給スルコトヲ得

第四條 教員ヨリ舍監ヲ兼務スルトキハ俸給ノ外手當ヲ支給ス

第五條 公立實業補習學校職員ノ俸給ハ左表ニ依リ支給ス

職名	一級		二級		三級		四級		五級		六級	
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
訓導	六拾圓	五拾五圓	四拾五圓	四拾圓	三拾五圓	貳拾五圓	貳拾圓	拾五圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓
准訓導	三拾圓	貳拾五圓	貳拾圓	拾八圓	拾四圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓

第六條 他校ヨリ兼務スル者又ハ教授ヲ囑托シタル者ニハ五拾圓以下ノ月手當ヲ支給ス

第七條 學校醫ニハ一ケ年百圓以内ノ手當ヲ支給ス

第八條 學校長及教諭、助教諭、舎監、書記死亡シタルトキハ其在職中ナルト休職中ナルトニ拘ハラズ年俸ノ者ハ在職最終年俸三分ノ一、月俸ノ者ハ三ヶ月分ヲ其ノ遺族ニ給ス但遺族トハ官吏遺族扶助法ニ於テ遺族ト稱スルモノヲ謂フ

教員心得ニシテ死亡シタルトキハ尙前項ニ準ス

第九條 學校長及教諭、助教諭、舎監、書記ニシテ陸軍給與令又ハ海軍々人俸給令ニ依リ俸給ヲ受クル者ニハ其間俸給ヲ支給セス但其額本職ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其不足額ヲ支給ス

教員心得ニシテ前項ニ該當ノ場合亦全シ

第十條 公務ノ爲メ出張スルモノハ左表ニ依リ旅費ヲ支給ス但教員心得ノ旅費ハ判任文官待遇者ニ準ス

一等 奏任文官待遇者
二等 判任文官待遇者
三等 准訓導、囑託教員、雇員

等級	管外	管内	管外	管内	管外	管内	管外	管内	管外	管内																			
等	級	瀛	車	賃	二	付	哩	船	賃	一	付	海	里	車	馬	賃	一	付	里	宿	泊	料	一	夜	日	當	一	日	
一等	管外	五	錢	五	錢	貳	拾	錢	壹	圓	五	拾	錢	壹	圓	五	拾	錢	壹	圓	五	拾	錢	壹	圓	五	拾	錢	
二等	管外	四	錢	四	錢	拾	五	錢	壹	圓	貳	拾	錢	八	拾	錢	五	拾	錢	三	拾	錢	三	拾	錢	三	拾	錢	
三等	管外	三	錢	三	錢	拾	貳	錢	七	拾	錢	三	拾	錢	三	拾	錢	三	拾	錢	三	拾	錢	三	拾	錢	三	拾	錢

管内貳 錢三 錢八 錢六 拾 錢貳 拾 錢

第十一條 生徒修學旅行ノ爲メ附添旅行スルモノハ前條ノ旅費ヲ給セス一日五拾錢以下ノ手當ヲ支給ス

第十二條 教諭、助教諭、訓導、准訓導、教員心得ヲ教員講習科ニ入學ノ爲メ派出シタルトキハ第十條ノ旅費ヲ給セス一日壹圓五拾錢以内ノ手當ヲ支給ス

第十三條 俸給及諸給與ノ支給方法ハ明治二十八年奈良縣訓令甲第二十八號ニ依リ旅費ノ支給ハ内國旅費規則ヲ準用ス

附 則

第十四條 明治參拾貳年奈良縣令第十七號、全第十八號、全第十九號、明治參拾參年奈良縣令第二十七號、明治參拾四年奈良縣令第十八號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十五條 本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交附セサルモノハ現ニ受クル所ノ俸給額ヲ受クルモノトス

縣立學校長職務規程

明治三十四年九月廿四日 奈良縣訓令甲第四十四號

縣立學校

縣立學校長職務規程左ノ通り相定ム

第一條 學校長ハ他ノ法令ニ規定アルモノヲ除ク外尙此規程ニ依リ校務ヲ處理スヘシ

第二條 學校長ハ學則ノ制定若ハ變更ニ關シ意見ヲ上申スルコトヲ得

第三條 學校長ハ職員ノ進退及賞罰ニ關シ意見ヲ上申スヘシ

第四條 學校長ハ左ノ事項ニ關スルモノハ意見ヲ具シテ指揮ヲ請フヘシ

一 管外修學旅行ニ關スル件
二 特待生授業料免除ニ關スル件

三 生徒放校處分ニ關スル件

第五條

學校長ハ左ノ事項ヲ專行スルヲ得但第二號及第六號乃至第八號ハ施行ノ後直ニ開申スヘシ

一 所屬職員事務分掌ノ下

二 所屬職員管内出張ノ下

三 所屬職員除服出仕ノ下

四 規定ノ休業中所屬職員ノ旅行ニ關スル下

五 生徒募集及入退學ノ下

六 管内修學旅行ノ下

七 三日以内臨時休業ノ下

八 備以下進退ノ下但教務ニ從事スルモノヲ除ク

第六條 處務細則及服務規程ヲ定メタルトキハ遲滯ナク届出ツヘシ其變更ノ場合亦全シ

第七條 學校長ハ毎月職員ノ出勤缺勤ノ日數及出席生徒數并ニ入學又ハ退學シタル生徒ヲ翌月五日限り報告スヘシ

第八條 學年末試験ノ成績ハ試験終了後直ニ開申スヘシ

第九條 學校長事故アルトキハ上席教諭ヲシテ其職務ヲ代理セシムヘシ

第十條 學校長管外ニ出張ヲ要スルトキハ事由ヲ具シテ上申スヘク管内ノ出張ヲ要スルトキハ出發前事由ヲ具シテ届出ツヘシ

所屬職員ノ管外出張ヲ要スルトキハ前項前段ニ準ス

第十一條 本令ニ規定スルノ外重大ノ事件アルトキハ遲滯ナク報告シ又ハ意見ヲ具シテ指揮ヲ請フヘシ

附 則

第十二條 従前ノ規定ニシテ抵觸スル事項ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

奈良縣通牒三三八三號 (明治三十三年十一月廿八日)

自今貴職管内ニ於テ出張ヲ要スルトキハ其月日及事故ヲ具シ開申可相成(縣立各中學校高等女學校校長宛)

奈良縣通牒三第一六五五號ノ二 (明治三十三年七月二日)

履教員ニシテ職事若クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキハ當然解職ト看做シ直ニ開申可相成依命此段及通牒候(縣立學校校長宛)

奈良縣通牒三第二五七五號ノ二 (明治三十四年九月廿八日)

凡ソ職員ノ出張ハ緊要ノ用務ニ限リ候處從來出張上申又ハ開申ノ際用務ノ事項詳細無之取扱上差支候條自今御注意相成度尙管外ノ旅行ニ付テハ經費差支ノ有無併セテ上申可相成爲念及通牒(縣立學校校長)

○中學校職制

明治二十六年十月一日
奈良縣訓令乙第一七七號

奈良縣中學校

其校職制左ノ通相定ム

中學校職制

第一條 學校長ハ知事ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ總督ス

第二條 教諭ハ生徒ノ教育ヲ掌ル

第三條 助教諭ハ教諭ノ職掌ヲ助ク

第四條 舍監ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ寄宿舍ニ關スル事ヲ掌ル

第五條 書記ハ學校長ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

○高等女學校職制

明治三十一年四月廿五日
奈良縣訓令第九八號

奈良縣高等女學校

其校職制左ノ通相定ム

奈良縣高等女學校職制

第一條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長
教諭
助諭
書記
舍監

- 第二條 學校長ハ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統轄ス
- 第三條 教諭ハ學校長ノ指揮ヲ受ケ生徒ノ教授ヲ掌ル
- 第四條 助教諭ハ學校長ノ指揮ヲ受ケ職掌ヲ助ク
- 第五條 舍監ハ學校長ノ指揮ヲ受ケ寄宿舎ヲ監理ス
- 第六條 舍監ハ教諭助教諭ヲ以テ兼務セシムルコトアルヘシ
- 第六條 書記ハ學校長ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス
- 第七條 學校長不在ノ時ハ上席職員ヲシテ代理セシム
- 第八條 教諭以下ノ職員ハ雇ヲ以テ代用スルコトアルヘシ
- 第九條 (三十五年三月縣令第一十三號ヲ以テ消滅)

公立學校職員俸給令

明治三十六年三月廿八日 勅令第六十六號

- 第一條 本令ニ於テ職員ト稱スルハ公立ノ專門學校、師範學校、中學校、高等女學校及實業學校ノ職員ニシテ委任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ヲ謂フ
- 第二條 委任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル專門學校及實業專門學校ノ職員ノ年俸ハ第一號表ニ依ル
- 第三條 委任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル師範學校、中學校、高等女學校及實業學校ノ職員ノ年俸ハ第二號表ニ依ル

- 第四條 判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ノ月俸ハ第三號表ニ依ル
- 第五條 官吏ニシテ在官ノ儘職員ニ任セラレタル者ノ俸給ハ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得
- 第六條 一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ特ニ効勞アル職員ニハ本俸三分ノ一以下ノ加俸ヲ給スルコトヲ得
- 第七條 教員ニシテ舍監、主事ヲ兼ヌル者ニハ相當ノ加俸ヲ給スルコトヲ得
- 第八條 教員ノ俸給ハ其ノ教授時數ニ應ジ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得
- 第九條 二校以上ノ職員ヲ兼ヌル者ニハ其ノ俸給ヲ分割シテ關係學校ノ經費中ヨリ之ヲ支給スルコトヲ得
- 第十條 陸軍給與令又ハ海軍軍人俸給令ニ依リ俸給ヲ受クル職員ニハ其ノ間俸給ヲ支給セス但シ其ノ俸給額職員ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給スルコトヲ得
- 第十一條 俸給ハ每級在職一年以上ニ至ラサレハ増給スルコトヲ得但シ委任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ年俸五百圓以下ノ者及判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ月俸三十五圓以下ノ者ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十二條 名稱又ハ待遇ノ異ナリタル職員若ハ種類ノ異ナリタル學校ノ職員ニ轉任スル場合ニ於テ支給スル俸給ハ前職ノ俸給額ニ相當スル俸給以下トス若シ相當額ナキトキハ其ノ最モ近キ上級ノ俸給以下トス但シ前職等級在職一年ヲ踰エタル者ニ在リテハ一級ヲ進ムルコトヲ得
- 第十三條 退職後一年以内ニ再任セラレタル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス
- 前項ノ場合ニ於テ其ノ前職等級在職一年ヲ踰エタル者ハ前職ノ等級ニ一級ヲ進ムルコトヲ得
- 前二項ノ規定ハ年俸六百圓以下又ハ月俸四十圓以下ノ俸給ヲ支給スル場合ニハ之ヲ適用セス
- 退職後一年以内ニ名稱又ハ待遇ノ異ナリタル職員若ハ種類ノ異ナリタル學校ノ職員ニ任セラルル場合ニ

